

南スーダン共和国
南スーダン放送局組織能力強化
プロジェクト
終了時評価調査報告書

2018年11月

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)
産業開発・公共政策部

産公
JR
19-024

南スーダン共和国
南スーダン放送局組織能力強化
プロジェクト
終了時評価調査報告書

2018年11月

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)
産業開発・公共政策部

目 次

目 次

地 図

略語表

終了時評価調査結果要約表（和・英）

第1章 終了時評価調査の概要	1
1-1 終了時評価調査の目的	1
1-2 終了時評価調査メンバー	1
1-3 終了時評価調査日程	1
第2章 プロジェクト概要	2
2-1 プロジェクトの背景	2
2-2 プロジェクト内容の要約	3
第3章 終了時評価調査の方法	4
3-1 評価の手法	4
3-2 データ収集・分析方法	4
第4章 プロジェクトの実績と実施プロセス	5
4-1 投入実績	5
4-2 活動実績	7
4-3 成果の達成状況	7
4-4 プロジェクト目標の達成状況	15
4-5 上位目標の達成見込み	19
4-6 プロジェクトの実施プロセス	21
第5章 評価結果	24
5-1 妥当性	24
5-2 有効性	25
5-3 効率性	26
5-4 インパクト	27
5-5 持続性	28
第6章 PDM の改訂	30
第7章 結論	41
第8章 提言	42

第9章 教訓	43
--------	----

付属資料

1. Project Design Matrix (PDM) Ver.7.0	47
2. Plan of Operations	49
3. プロジェクトへの投入	52
3-1 派遣専門家実績	52
3-2 本邦研修・第三国研修実績	56
3-3 供与機材一覧	60
3-4 カウンターパート一覧	63
4. 活動実績表	66
5. 成果品一覧	78
6. 制作番組・レポート一覧	80

南スーダン共和国 地図



出所：University of Texas, Perry-Castañeda Library Map Collection

(http://www.lib.utexas.edu/maps/cia15/south_sudan_sm_2015.gif、2015年12月1日アクセス)

略 語 表

略 語	正式名称	日本語
AMDISS	Association for Media Development in South Sudan	南スーダンメディア開発協会
C/P	Counterpart Personnel	カウンターパート
CPA	Comprehensive Peace Agreement	包括的和平合意
ENG	Electronic News Gathering	電子的ニュース取材
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
KBC	Kenya Broadcasting Corporation	ケニア放送公社（公共放送局）
M/M	Minutes of Meeting	協議議事録
MOIB	Ministry of Information and Broadcasting	情報・放送省
MOICTPS	Ministry of Information, Communication Technology and Postal Service	情報・放送通信・郵政省
NGO	Non-Governmental Organization	非営利団体
NHK	Nippon Hoso Kyokai (Japan Broadcasting Corporation)	日本放送協会
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
OJT	On the Job Training	オンザジョブ・トレーニング
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan of Operations	詳細活動計画
RBA	Rwanda Broadcasting Agency	ルワンダ放送協会（公共放送局）
R/D	Record of Discussions	討議議事録
SPLM	Sudan People's Liberation Movement	スーダン人民解放運動
SSBC	South Sudan Broadcasting Corporation	南スーダン放送局（公共放送局）
SSTVR	South Sudan Television and Radio	南スーダンテレビ・ラジオ
SSTV	South Sudan Television	南スーダンテレビ
SSR	South Sudan Radio	南スーダンラジオ
ToT	Training of Trainers	指導員訓練
TV	Television	テレビジョン
UBC	Uganda Broadcasting Corporation	ウガンダ放送公社（公共放送局）
UNESCO	United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization	国際連合教育科学文化機関
UNMISS	United Nations Mission in South Sudan	国際連合南スーダン・ミッション
VTR	Video Tape Recorder/Recording	ビデオテープレコーダー
WG	Working Group	ワーキンググループ

終了時評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：南スーダン共和国	案件名：南スーダン放送局組織能力強化プロジェクト
分野：ガバナンス-民主制度	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：産業開発・公共政策部ガバナンスグループ	協力金額（評価時点）：約7億6,400万円
協力期間 (R/D:2012年8月23日) 2012年12月1日～ 2019年3月31日（6年4 カ月間） うち延長期間は2016年12 月1日～2019年3月31日	先方関係機関：情報・放送省（MOIB） 南スーダン放送局〔SSBC（前 SSTVR）〕
	日本側協力機関：一般財団法人 NHK インターナショナル
	他の関連協力：なし
1-1 協力の背景と概要	
<p>南スーダン共和国（以下、「南スーダン」と記す）は、20年にわたる長期の内戦の影響から、国家運営のための十分な制度が確立されておらず、独立国家としての政府機構を確立させるための課題が山積している。同国では国際社会の支援を得ながら国家建設を進めているが、新しい民主国家建設プロセスにおいては、正確な情報を国民に提供するマスメディアの果たす役割が極めて重要である。特に紛争直後の国では、新国家が健全に運営され、かつ紛争再発を予防するうえで、監視機能を果たすメディアの役割は大きい（Kofi Annan, 1999 Annual Report to UN General Assembly 等参照）。加えて、紛争の影響で国内のインフラが荒廃し、都市間の移動が制約されている南スーダンにおいては、国民の生活に必要な情報（教育、保健、防災等）を中央から地方に提供することが困難であることから、メディアを通じこれを克服することも期待されている。</p> <p>2005年の南部スーダンのスーダン人民解放運動（Sudan People's Liberation Movement : SPLM）と北部スーダンの包括的和平合意締結以降、南スーダンでは活字メディアが次々に発刊されたものの、その財源はドナーあるいは国際機関の支援や NGO からの寄付に依存しており、「独立メディア」とはほど遠い状況である。放送メディアも広告を提供し得る企業が存在しないため、民間放送局は未発達であり、テレビについては、地上波は南スーダン放送局（South Sudan Broadcasting Corporation : SSBC）〔前国営南スーダンテレビ（South Sudan TV : SSTV）〕のみである。ラジオについては、SSBC〔前国営南スーダンラジオ（South Sudan Radio : SSR）〕以外のほとんどのラジオがドナー、国際機関、NGO が資金援助しているコミュニティ FM である。また、上述のメディアの独立性や財源不足の問題に加え、あらゆるメディアにおいて、放送技術、放送機材維持管理、番組内容の改善が課題となっている。</p> <p>情報・放送省（Ministry of Information and Broadcasting : MOIB）傘下の SSBC（前 SSTVR）は、国内最大のカバーエリアをもつメディアであり、2014年9月の公共放送法署名を受け、公共放送局へと変革している最中である。公共放送局として、SSBC は正確・公正な報道、多文化・多民族に配慮した番組制作を行うことで、民主国家を支える健全な市民社会の形成に資することが期待されている。一方、公共放送局化に向けた具体的な計画は策定されておらず、加</p>	

えて、職員は放送機材維持管理及び番組制作に係る十分なトレーニングを受けておらず、正確かつ公平な報道を行う能力も不足していた。かかる背景から、SSTVRの公共放送局化に向けたプロセスを支援するとともに、同局の人材育成を図ることが不可欠な状況であった。

このような背景に基づき、南スーダン政府からの要請を受けてJICAは2012年12月から2016年11月までの予定で「南スーダン放送局（前南スーダンテレビ・ラジオ）組織能力強化プロジェクト」（以下、「本プロジェクト」と記す）を実施してきた。その後、2015年10月に実施された中間レビューの提言を受け、プロジェクト実施期間は2018年3月まで延長されることとなった（2016年2月合意）。加えて、南スーダンで起きた2度の騒擾^{そうじょう}（2013年12月及び2016年7月）によりJICA専門家がジュバから退避することとなり、プロジェクト目標達成のためには更なるプロジェクト実施期間の延長が必要となったため、プロジェクトは2018年12月まで延長され、さらに機材の持続的な維持管理能力確保のため2019年3月まで延長された。

1-2 協力内容

(1) 上位目標

SSBCによって、正確・公平・中立な情報が国民に届けられる。

(2) プロジェクト目標

SSBCにおいて、正確・公平な情報を国民に届けるメディアに必要とされる人材が育成される。

(3) 成果

- 1) SSBCにおいて、公共放送局化に向けた組織運営上の課題が明確化され、同課題解決のための対処方針及び組織ビジョンがまとめられる。
- 2) SSBCにおいて、職員の放送機材運用・維持管理に係る能力が向上する。
- 3) SSBCにおいて、番組制作を担当する職員の番組制作能力が向上する。
- 4) SSBCにおいて、報道担当者のプロフェッショナリズム（正確・公正な報道）に関する意識が向上する。

(4) 投入（2018年11月末時点）

- 1) 日本側：総投入額 7億 6,400万円
短期専門家派遣： 19名（129.99人/月）
研修員受入： 218名（本邦：33名、第三国研修：185名）
機材供与： ジェネレーター、研修用機材等。1億 1,366万 853円
ローカルコスト負担： 1億 3,728万 8,000円
- 2) 南スーダン側
カウンターパート（Counterpart Personnel：C/P）配置：
MOIB（3名）、SSBC（80名）計 83名
施設提供： SSBC敷地内プロジェクト事務所建設用の土地
ローカルコスト負担： MOIB、SSBCのC/Pのセミナー等参加のための交通手段

2. 評価調査団の概要			
調査者	日本側		
	担当分野	氏名	所属
	総括	橋本 敬市	JICA 国際協力専門員（平和構築）
	評価企画	松戸 綾乃	JICA 産業開発・公共政策部 ガバナンスグループ 法・司法チーム 副調査役
	評価企画	三好 恭平	JICA 産業開発・公共政策部 ガバナンスグループ 法・司法チーム 主任調査役
	評価分析	大前 正也	株式会社サクセス・プロジェクト・マネジメント・ オフィス 代表取締役
	南スーダン側		
		氏名	所属
		Mr. James Magok	南スーダン放送局 会長
		Professor William Hai Zaza	南スーダン放送局 経営委員会 委員長
調査期間	2017年10月～2018年11月（国内作業のみ。南スーダン側とは遠隔にて調整）		評価種類：終了時評価
3. 評価結果の概要			
3-1 実績の確認			
(1) 成果の達成状況			
1) 成果1 SSBCにおいて、公共放送局化に向けた組織運営上の課題が明確化され、同課題解決のための対処方針及び組織ビジョンがまとめられる。			
成果1は達成された。「公共放送局化に向けた短期ロードマップ」は2016年6月に経営委員会によって承認された。さらに、「SSBCが国民に信頼される公共放送局となるための中長期ロードマップ」は2018年6月に経営委員会によって承認された。			
2) 成果2 SSBCにおいて、職員の放送機材運用・維持管理に係る能力が向上する。			
成果2の指標は <u>ある程度達成されている</u> 。ワーキンググループ（Working Group：WG）2は、放送機材運用・維持管理に係る要員計画について、現在の要員状況の明確化を進めてきた。他方、部門レベルの組織改編の進捗はSSBC全体の組織改編のプロセスの進捗次第である。8種類のチェックリストやリポートフォーマットが作成され、WG2はこれらのフォーマットを使用して機材の運用及び維持管理の記録を開始した。また、機材の各種マニュアルが作成され、活用されている。しかしながら、成果2の達成のためには、適切な予算措置が必要であるため、現在のところ <u>達成の見込みは不明である</u> 。			
3) 成果3 SSBCにおいて、番組制作を担当する職員の番組制作能力が向上する。			
成果3は本調査時点でおおむね良い方向に進捗しており、 <u>成果が発現しつつある</u> 。番組制作の体制強化のため、スペシャル番組専従班が設置され、「農業振興」「平和構築のためのスポーツ」のスペシャル番組プロジェクトが始動した。番組制作プロセスチェックリストが作成され、定期的な会議の開催とともに定着化を図っている。また、番組制作ガイドラインが最終化され、2016年7月の第7回合同調整委員会（Joint Coordinating Committee：JCC）で承認された。現在、同ガイドライン習熟のための努力を行っている			

ところであるが、全職員に浸透するにはさらに時間を要すると考えられる。新しく SSBC 番組賞を設置し、番組評価のクライテリアを明確にするとともに、番組制作者のモチベーションを向上させた。

番組制作職員の能力向上レベルを測定するために、テクニカル・キャパシティ・アセスメントを実施した。結果は、有意な人数・方法のアセスメントを実施できず、具体的な傾向を把握することはできなかったが、能力向上に必要な課題についての理解は得られたと考えられる。

- 4) 成果 4 SSBC において、報道担当者のプロフェッショナリズム（正確・公正な報道）に関する意識が向上する。

成果 4 は本調査時点でおおむね良い方向に進捗しており、成果が発現しつつある。WG4 により策定された「報道倫理規範」のドラフトは、第 3 年次において最終化された。「記者ハンドブック」は 2016 年 7 月の第 8 回 JCC において正式名称が“SSBC Reporters and Broadcasters Handbook 2016”となり、英語版が承認された。また、アラビア語版も完成した。また、WG4 のリーダーたちは、SSBC 内で映像編集者・カメラマンを含むニュース・番組制作者を対象にした研修計画を作成し、報道倫理規範の内容を広く職員に伝える組織内研修を開始している。

サンプル数は限られたものの、作成された「報道倫理規範」による職員のジャーナリズム倫理のレベルを測定するために、コア・キャパシティ・アセスメントを実施した。スコアはわずかに上昇しているものの、レベル 3（当該キャパシティに関するスキルと知識を有している）にとどまっている。

(2) プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標 SSBC において、正確・公平な情報を国民に届けるメディアに必要とされる人材が育成される。

プロジェクト目標指標については、一部未達成の項目もあるものの、指標はおおむね達成されており、また、各成果は達成あるいは達成に向けて成果が発現しつつある。よって、プロジェクト目標はプロジェクト終了までに達成される見込みである。「公共放送局化に向けた短期ロードマップ」は作成され、ロードマップに沿った組織改編が進められているが、進捗は遅い（指標 1）。また、「南スーダンテレビ・ラジオが国民に信頼される公共放送局となるための中長期ロードマップ」については、2018 年 2 月に最終化され、2018 年 6 月の経営委員会にて承認された。だがプロジェクト終了までには同ロードマップに係るセミナーは実施されない見込みである（指標 2）。放送機材の運用・維持管理を徹底するためのマニュアルは作成されており、機材リストや各種チェックリストと報告様式を活用した記録が開始されている（指標 3）。また番組制作数については、目標値の 15 番組を超えた（指標 4）。さらにニュースリポートについては、18 本が制作された。アウトプット 4 で述べた「記者ハンドブック」は、第 5 年次にワークショップを開催して、職員に対して配付し、内容について説明する予定である（指標 5）。指標 6 の倫理規範に関する報道研修受講人数については、目標値の 150 名を大きく上回り、251 名である。最後に、放送内容については、プロジェクト開始当初と比較し、放送番組内容のみならず技術面も含め、全般的に質の改善が認められている。特に、第 3 年次末に供与され、運用が開始されたトライ

キャスターの活用により、スタジオ演出の幅が広がりつつある。しかし、SSBC の番組制作能力は、基礎の理解が進んだという段階にあり、今後更なる能力向上が必要である（指標 7）。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性：高い

本プロジェクトは南スーダン政府の開発政策及び日本の対南スーダン援助政策との整合性が高い。また、SSBC はかつて国で唯一の国営放送局であり、公共放送局へと移行中であることから、技術、番組制作、報道に従事する SSBC 職員を本プロジェクトの対象グループとして選定したことは適切である。

(2) 有効性：中程度

プロジェクト目標の 4 つの指標はある程度達成されつつあり、4 つの成果によってもたらされたと判断される。他方、SSBC の脆弱な組織体制及び不適切な人員配置の課題は残されている。また、南スーダンへの専門家派遣が中断された期間においては、第三国研修に参加した中核的職員の能力強化は進んだものの、専門家が直接南スーダンで日々の活動をフォローアップすることはできなかった。

(3) 効率性：中程度

本調査時点で成果 1 及び 2 の指標はある程度達成されている。また、成果 3、成果 4 の指標は、おおむね良い方向に進捗している。他方、研修を受けた中核的人材となる職員のスキルと知識が、本調査時点では、組織内で完全には伝達されておらず、成果の達成が理想的なレベルまで達しているとは必ずしもいえない。

(4) インパクト：中程度

ラジオ、テレビの放送時間枠や SSBC により制作された番組数は増えており、数値的には目標を達成している指標もあるが、電力や燃料不足、機材の保守予算の不足でしばしば電波が止まったり、番組、ニュースの再放送が多かったり、実質的な達成とはいえない。職員人数の不足により、番組数をさらに増加させることは難しい。また、地方の治安悪化により地方には放送が行き届かず、将来のネットワーク拡大の見通しは明るくない。また予算的な制約もある。他方、こうしたなかでも、プロジェクトの能力向上研修によって現場の職員が自助努力で、ニュース・番組の多様化や技術上のさまざまな工夫をしてきた。放送内容はプロジェクト開始時に比べて画期的に向上していることは特記する必要がある。

上位目標（SSBC によって、正確・公平・中立な情報が国民に届けられる。）の達成のためには、治安が回復し安定した状況になり、公共放送の機能が十分に発揮できるような状況になることが必要である。SSBC が「正確・公平・中立な情報」を放送するための能力はある程度向上しているが、それらを広く国民に届けるためにはまずはカバレッジエリアを拡大することが必要である。しかしながら、カバレッジエリアがほぼジュバ中心部に限られているため、この条件は満たされていない。したがって、上位目標の達成の見込みは

高いとは判断できない。

(5) 持続性：やや低い

メディア関連法により、国営放送局である SSTVR を公共放送局 SSBC へ改編する政策は維持されることが期待でき、政策面での持続性は高い。「公共放送局化に向けた短期ロードマップ」及び「国民に信頼される公共放送局となるための中長期ロードマップ」が策定され、SSBC 経営委員会が設立された一方、SSBC は組織改編や人材管理においては課題を抱えており、組織面の持続性は中程度である。予算不足の問題は依然として深刻な課題であることから、財政面での持続性は低い。ジェネレーター供与により放送が継続的に行われるようになったことや、SSBC における各種マニュアルや様式が整備されたことから、技術面での持続性はやや高い。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 能力開発アプローチに関すること

活動実施において以下の手法を用いたことで効果発現が促進された。

- ・ 経験豊富な専門家を講師とした質の高い研修カリキュラム
- ・ オンザジョブ・トレーニング (On the Job Training : OJT) 活動、WG 活動、定例会議等を通じたチームワークの促進
- ・ 発電機の供与による放送局の電力安定
- ・ 隣国の公共放送局の協力による第三国研修
- ・ 他の JICA プロジェクトとの連携を通じた南スーダンの発展のための番組づくり
- ・ 各種マニュアル、ガイドライン、ハンドブックなどの作成と導入

(2) 実施プロセスに関すること

- ・ JCC の下、各成果に対し、WG が設置され、主要メンバーが活動の実施に従事したことは、中核人材の育成という効果に加え、日本人専門家とのコミュニケーションの機会となり、より円滑なプロジェクト運営管理に貢献した。
- ・ 2013 年 12 月の武力衝突発生以降、JICA を含む多くの援助機関は国外退避を余儀なくされた。しかし、JICA は本プロジェクトの C/P と専門家を安全な隣国 (ケニア、ウガンダ、ルワンダ) に派遣し、第三国研修の形でプロジェクト活動を継続することを C/P に提案し、合意した。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 実施プロセスに関すること

- ・ 日本人専門家の南スーダンへの派遣が中断された期間は、第三国研修を中心に実施したものの、南スーダンの現場における直接の OJT ができなかった。
- ・ SSBC において、放送の質を担保するには機材の更新と施設の改修が急務であったが、武力衝突の影響による OJT が滞ったことから、機材の調達は遅延した。
- ・ プロジェクトにおいて、研修は主に英語で行われたが、SSBC の大半の職員はアラビア語話者であり、工夫が必要であった。

3-5 結論

本プロジェクトは、2013年12月及び2016年7月の2度の武力衝突及びそれに伴う専門家の退避が生じたものの、SSBCにおいて正確・公平な情報を南スーダン国民に届ける人材が育成されるという目標は達成される見込みであり、プロジェクトの活動は終了できると見込まれる。

技術移転に関し、第三国研修や遠隔による活動のみで、当初定められた期間内で、計画した活動を達成することには限界があった。しかしながら、延長期間も通じ、SSBC職員が研修で得た知識はSSBCのなかで徐々に広がりつつある。SSBCの機材運用・維持管理に関する8つの「チェックリストや報告様式」は活用され、放送エンジニアらの能力は向上してきている。また、番組制作及び報道に関しては、第三国研修において実施した指導員訓練（Training of Trainers : ToT）と、OJTによってSSBC職員の総合的な能力が劇的に向上した。

したがって、プロジェクトの目標は延長期間を通じて達成されると見込まれるため、更なる延長は不要と考えられる。第三国研修や遠隔でのやり取りを通じたToTやOJTは徐々に機能し始めており、SSBC内における順次成果を広めていく活動や、日本人専門家から得た知識のシェアを通じて、SSBCのなかで定着している。

3-6 提言

本プロジェクトの効果を高め、プロジェクト期間終了後の持続性を強化するために、合同評価調査団は以下の活動が行われることを提言する。

- (1) 中長期ロードマップは2018年2月に最終化され、経営委員会によって2018年6月に承認された。第三国研修にも参加したSSBCの幹部メンバーが同ロードマップにて定めた事項についてリードし、実行に移すことが望まれる。
- (2) 研修で学んだ知識及びスキルを効果的に伝えていくために、ToTメンバーが職員研修について体系的な手法を確立することが望まれる。
- (3) 本プロジェクトで作成された報道倫理規範及び番組制作ガイドラインに沿い、SSBCの幹部メンバーが現在の暫定的な編集方針（Editorial Policy）を改訂するとともに内容を職員に共有することで、正確・公平・中立な情報を国民に届けるという公共放送の役割・機能についてのSSBC職員の理解を促進することが強く望まれる。
- (4) MOIBは、SSBCが財政的には政府に依存している暫定期間においても、メディア関連法に沿って、SSBCの編集権の独立を尊重することが望まれる。

3-7 教訓

終了時評価により確認された本プロジェクトから得られた教訓は以下のとおりである。

- (1) メディア分野の支援においては、表現の自由を確保すべく、さまざまな理念・理論等の理解を重視する形の支援も考えられる。しかしながら、本プロジェクトではトップダウンの手法、すなわちジャーナリストの理論などについて上から指示をするような手法ではなく、ボトムアップの手法により比重を置いた。ボトムアップの手法は、プロジェクトが定めた4つの成果に関して、放送に係る日々のルーティン業務について、専門家が自らの経験をシェアしながら、SSBC職員のプロフェッショナルリズムを向上させるものである。これがプロジェクト目標の達成に貢献したと考えられ、他のメディア分野の支援においても

参考になる。

- (2) 日本人専門家は南スーダンにおける 2 度の騒擾により残念ながら退避を余儀なくされた。そのような状況下でスムーズにコミュニケーションを行うのは容易ではなかったが、南スーダン側、日本側ともメールや電話等により継続的にコミュニケーションを行うよう努力した。この継続的なコミュニケーションにより第三国研修が実現した。また、この継続的な努力がプロジェクト目標の達成に貢献した。

Summary of Terminal Evaluation Results

1. Outline of the Project	
Country: Republic of South Sudan	Project title: Project for Institutional Capacity Development of South Sudan Broadcasting Corporation
Issue/Sector: Governance - Democratization	Cooperation scheme: Technical Cooperation Project
Division in Charge: Governance Group, Industrial Development and Public Policy Department	Total Cost: 764 million Japanese Yen (at the time of the evaluation)
Period of Cooperation	(R/D: 23 August 2012) 1 December 2012 – 31 March 2019 (6 years 4 months)
	Extension period: 1 December 2016-31 March 2019
	Partner Country's Implementing Organization: Ministry of Information and Broadcasting (MOIB) South Sudan Broadcasting Corporation (SSBC) (former South Sudan TV and Radio (SSTVR))
	Supporting Organization in Japan: NHK International Inc.
	Related Cooperation: None
1-1. Background of the Project	
<p>The Republic of South Sudan (hereinafter referred to as “South Sudan”) has been facing numerous challenges in establishing a government structure as an independent nation due to the impacts of the prolonged civil conflict, which had persisted for 20 years. The country is engaged in state-building efforts with support from the international community. In the process of building a new democratic nation, the role played by the mass media to deliver accurate information to the public is significant. In particular, in a country which has just moved out from civil war, the media plays an important role in sound national development and surveillance for the prevention of reoccurrence of conflicts (Kofi Annan, 1999 Annual Report to UN General Assembly). In addition, in the society where infrastructure and transportation are limited, the media is expected to deliver essential information for the citizens (such as education, health, disaster prevention) to overcome the challenges.</p> <p>Since the Comprehensive Peace Agreement (CPA) between Sudan People's Liberation Movement (SPLM) and the Northern Sudan in 2005, new print media have been established one after another in South Sudan. However, they are far from being “independent media,” as they depend on financial supports from donors, international organizations, Non-Governmental Organizations (NGOs), etc. In terms of the broadcast media, private broadcasting stations are not fully developed, as there is no company that would place advertisements on TV, and the state-run South Sudan TV (hereinafter referred to as “SSTV”) is the only TV station broadcasting in areas other than the capital. As to the radio media, apart from the state-run South Sudan Radio (hereinafter referred to as “SSR”), most radio stations are community FM stations funded by donors, international organizations, or NGOs. In addition to the issues of dependence and lack of financial resources of these media, all media are facing challenges in terms of broadcasting technologies, the maintenance and management of broadcasting equipment, and the improvement of programme contents.</p> <p>South Sudan Broadcasting Corporation(hereinafter referred to as “SSBC”),reorganized from South Sudan TV and Radio (hereinafter referred to as “SSTVR”) under the Ministry of Information and</p>	

Broadcasting (hereinafter referred to as “MOIB”) has the widest coverage among mass media in South Sudan and is in a process of transforming to a public broadcaster under the Public Service Broadcasting Bill signed into law by the President in September 2014. As a public broadcaster, SSBC is expected to contribute to the formation of a sound civil society, which serves as the backbone of the democratic nation, through its commitment to accurate and fair news reporting, and programme production that considers the multiculturalism and multi-ethnic population of the country. On the other hand, concrete plans for its transformation into a public broadcaster had not been elaborated. In addition, its employees had not received sufficient training on the maintenance and management of broadcasting equipment or on programme production, and lacked capacities to provide accurate and impartial news reporting. Against this background, it has been indispensable to support the process of SSBC ’s transformation into a public broadcaster and promote the human resource development of the station.

The government of South Sudan requested JICA to implement a technical cooperation project aiming to enhance the organizational capacity of SSBC. In response, “Project for Institutional Capacity Development of South Sudan Broadcasting Corporation” was launched in December 2012 for the period of 4 years until November 2016. Afterward, in response to the results of the Mid-term review conducted in October 2015, the term of the Project was decided to be extended until March 2018 (agreed in February 2016). Furthermore, the term of the Project was again extended until December 2018 because two crises in South Sudan (December 2013 and July 2016) resulted in the evacuations of the JICA experts from Juba, which entailed the necessity of the extension in order to achieve the Project’s purpose. Then, in order to endure SSBC staff’s sustainable capacity of operation and maintenance of equipment, the project was extended until March 2019.

1-2. Project Overview

- (1) **Overall Goal:** Accurate, impartial and fair information is delivered to the people of South Sudan.
- (2) **Project Purpose:** Human resources are developed in SSBC to deliver accurate and fair information to the people of South Sudan
- (3) **Outputs:**
 - 1) The organizational and operational issues to be addressed are clarified to transform SSBC into a public broadcaster and a resolution policy and organizational vision are formulated in SSBC.
 - 2) The capacity of SSBC staff in charge of operating and maintaining broadcasting equipment is enhanced.
 - 3) The capacity of SSBC staff in charge of programme production is enhanced.
 - 4) The awareness towards professionalism (accurate and fair news) is raised among SSBC staff in charge of news reporting.

(4) **Inputs** (as of 30 November 2018)

Japanese side: 764 million Japanese Yen

Short-term Experts: 19 experts (129.99 M/M)

Trainees received: 218 participants (Training in Japan: 33, Third country training: 185)

Provision of Equipment: Generator, Equipment for trainings etc.: Equivalent to 113,660,853 JPY

Local Operational Expenses: Equivalent to 137,288,000 JPY

South Sudanese side:	
Counterpart Personnel:	83 CPs have been assigned by SSBC and MOIB
Provision of Space:	In SSBC property, land space to build the Project office building with meeting rooms, Training space in the SSBC office building until the completion of the construction of the Project office building
Local Cost Sharing:	MOIB and SSBC provided transportation for C/Ps to attend the seminar and symposium in Juba.

2. Evaluation Team

Member of Evaluation Team	<Japanese Side>		
	Leader	Dr. Keiichi Hashimoto	Senior Advisor (Peace-Building), JICA
	Evaluation Planning	Ms. Ayano Matsudo	Deputy Assistant Director, Law and Justice Division, Governance Group , Industrial Development and Public Policy Department, JICA
	Evaluation Planning	Mr. Kyohei Miyoshi	Deputy Director, Law and Justice Division, Governance Group , Industrial Development and Public Policy Department, JICA
	Evaluation Analysis	Mr. Masaya Omae	General Manager, Success Project Management Office
	<South Sudanese Side>		
	Mr. James Magok		Managing Director, South Sudan Broadcasting Corporation
	Professor William Hai Zaza		Chairperson, Board of Directors, South Sudan Broadcasting Corporation
Schedule of survey	October 2017 to November 2018 (Only literature survey in Japan with remote communication with South Sudanese side)	Type of Evaluation: Terminal Evaluation	

3. Result of Evaluation

3-1. Project Performance

(1) Outputs

1) Output 1 (The organizational and operational issues to be addressed are clarified to transform SSBC into a public broadcaster and a resolution policy and organizational vision are formulated in SSBC)

Output 1 has been achieved. “Short-term road map towards public service broadcasting” was approved by the Board of Directors of SSBC in June 2016. In addition, “A middle/long-term road map for SSBC to become a public broadcaster that is trusted by the public” was approved by the Board of Directors of SSBC in June 2018.

2) Output 2 (The capacity of SSBC staff in charge of operating and maintaining broadcasting equipment is enhanced.)

Output 2 has been achieved to some extent. Working Group (WG) 2 has been working on clarifying the current situations of staff in operation and maintenance. On the other hand, the progress of department-level organizational reform will depend on the process of the entire organizational

restructuring. Eight formats of checklists and reports have been developed and updated upon necessity. WG2 has started recording operation and maintenance work using these formats. Manuals on operation and maintenance of broadcasting equipment has been developed and utilized in daily operation. However, the possibility of achievement is still unknown because it is necessary to secure budget in order to achieve it.

3) Output 3 (The capacity of SSBC staff in charge of programme production is enhanced.)

Output 3 has been progressing in the positive direction. In order to enhance the capacity for producing programmes, the dedicated team was established and launched the special programme projects for “Promotion of agriculture” and “Sports for peace building”. The checklist for the programme production process was developed and started to be used by the dedicated team at the regular meetings. The Programme Guidelines were approved at 7th JCC in July 2016. Although the staff members have been working to be familiarized with the Guidelines, it takes more time for the manual to become widespread to all staff members. For prompting motivation of producers, SSBC Program Award has been established. The effort to get the Programme Award, which has to meet stringent criteria, contribute to improvement of programme quality.

Furthermore, the Project conducted the Technical Capacities Assessment in order to measure the level of development of capacities of the programme production staff members. Although the number of sampling is too limited to grasp general trends, it could be said that understanding and recognition by the staff members concerning the tasks necessary for capacity improvement seem to have been obtained to some extent.

4) Output 4 (The awareness towards professionalism (accurate and fair news) is raised among SSBC staff in charge of news reporting.)

Output 4 has been progressing in the positive direction and the results have been improving. “Final Draft - South Sudan Television & Radio Journalists Code of Ethics” was finalized in the Year 3. The Reporters’ Handbook was officially named as “SSBC Reporters and Broadcasters Handbook 2016” at the 8th JCC in July 2016. At the same time, the draft of English version was approved and finalized. The Arabic version was also completed. Leaders of WG4 have made training plans for SSBC news and program staffs including video editor and camera person and started group trainings in SSBC for disseminating the content of Journalists Code of Ethics.

Furthermore, the Project conducted the Core Capacities Assessment in order to measure the level of journalistic ethics of the staff members according to “A Code of Ethics for news reporters, even though the number of sampling was limited. The score is rising slightly, remaining at level 3.

(2) Project Purpose (Human resources are developed in SSBC to deliver accurate and fair information to the people of South Sudan.)

Although some Objectively Verifiable Indicators of the Project Purpose are not achieved, most of the Indicators are achieved and Project Outputs discussed above are achieved or progressing in the positive direction. Therefore, it can be said that the Project Purpose is expected to be achieved within the current project period. The current approach of the technical assistance dependent chiefly on the third country training would not be sufficient enough to achieve it. The short-term road map for SSBC was prepared and has been used for the due procedures to transform the organizational structure. However, its progress is slow (Indicator 1). The draft middle/long-term road map for SSBC was finalized in February 2018, and the draft has been approved by the Board of Directors in June 2018. It will not be until the

end of the Project that the seminar for the road map can be held. (Indicator 2). The manuals to secure operation and maintenance of broadcasting equipment were prepared and have been used with the list of equipment as well as various check-lists and reporting formats (Indicator 3). Then the number of programmes produced by SSBC was exceeding the initial target of 15 (Indicator 4). Additionally, 18 news reports were produced. Regarding the Reporters' Handbook which is mentioned in the Output 4, the workshop will be held to familiarize the contents of the Handbook and to distribute its copies to the staff members (Indicator 5). The number of SSBC staff participated in the trainings on the Code of Ethics exceeded the target value of 150 persons, reaching 251 persons (Indicator 6). Finally, the quality of the broadcasting of SSBC, as a whole, has obviously improved, which are shown not only in its contents of programmes, but in its technical capability. Especially, the range of studio-direction has been expanding due to the introduction of TriCaster which was provided and started operation in the end of Year 3. However, SSBC's programme production capacity still remains at the stage of "understanding of the basics". Further improvement is indispensable (Indicator 7).

3-2. Evaluation Results

(1) Relevance: High

The Project objectives and activities are in line with policies and strategy of the Government of South Sudan and the Government of Japan. SSBC was an only state-owned broadcaster, and is now in the preparation stage for its transformation to a public broadcaster. Thus, it is appropriate to target SSBC staff who are in charge of equipment management, program production as well as news reporting to enhance quality of their work.

(2) Effectiveness: Moderate

The Project Purpose is likely to be achieved to some extent within the remaining Project period associated with the positive results by four Outputs. On the other hand, there have been issues of inadequate organizational structures and human resources management across different departments in the stations. During their absence from SSBC, JICA Experts could not follow-up closely with the SSBC staff who participated in the third country training, although core members of the program production and news reporting have gained their capacities.

(3) Efficiency: Moderate

Most indicators of Output 1 and 2 have been achieved to some extent. Indicators of Output 3 and Output 4 have been progressing in the favourable direction. On the other hand, since skills and knowledge of the trained staff members have not been cascaded down thoroughly within the organization, it is anticipated that the achievement level of these Outputs may not reach to the ideal level.

(4) Impact: Moderate

Airtimes of both radio and television and the numbers of programmes produced by SSBC were increased, and achieved the Goal numerically, however, it could not be evaluated "achieved" in reality, as the electric waves often stop due to shortage of power, fuel and equipment maintenance funds, and there are still frequent rebroadcasts of programmes and news owing to the lack of content. Due to not enough number of staff members, it may be difficult to further increase number of programmes. Because broadcasting does not reach the local regions due to the deterioration of the public security, the prospect of the future network expansion is not bright. There are also budget constraints. Even under such circumstances, the staff at the site made various ingenious plans and self-help efforts through

skill-up training of the Project, diversifying news and programmes and making technical improvement. It is notable that contents of the broadcasting are developed considerably compared to those produced at the beginning of the Project.

In order to achieve the Overall Goal (Accurate, impartial and fair information is delivered to the people of South Sudan), it is necessary to restore safe and stable environments, in which a sound role of a public broadcaster could be functionally fulfilled. Although the capacity to disseminate “Accurate, impartial and fair information” was developed to some extent, it is necessary, firstly, to increase the coverage area to reach the people of South Sudan widely. The conditions are not satisfied yet because the coverage area is almost restricted to the center of Juba. Therefore, the prospect of achievement could not be judged to be “high”.

(5) Sustainability: Relatively low.

As it is expected the policy for transforming SSTVR to SSBC would be sustained in accordance with media acts, sustainability in terms of policy aspect is high. The “Short-term road map for SSTVR to become a public broadcaster” and “The Middle/Long-term road map for SSTVR to become a public broadcaster that is trusted by the public” were formulated, and the SSBC Board of Directors was established. On the other hand, SSBC still faces challenges in restructuring organizational framework and in human resources managements. Thus, sustainability in terms of institutional aspect is moderate. Since the budgetary constraints of SSBC is still serious, sustainability in terms of financial aspect is low. As SSBC became able to continue its broadcasting thanks to provided generators and as various maintenance and operation manuals were developed, sustainability in terms of technical aspect is relatively high.

3-3. Factors promoting better implementation process

(1) Utilization of useful methods for capacity development activities

The following methods have led to promoting generation of the Project effects.

- High quality of training curriculum with experienced lecturers & trainers
- Promotion of teamwork
- Stability in power sources by installation of the generators
- Cooperation with the public broadcasters of the neighboring countries
- Collaboration with other JICA Projects
- Development and utilization of the various manuals, guidelines and handbook

(2) Implementation process of the Project

- In order to manage four Outputs, four WGs were established under JCC. As core members have engaged in activity implementation, it brought positive effects on promoting development of core human resources as well as activating communication with JICA Experts. As a result, the project has been managed in the efficient manner.
- Because of the outbreak of violence in South Sudan in December 2013, JICA was forced to evacuate its staff and Experts to outside South Sudan until they could confirm the improvement of the security condition. In response, JICA proposed to the South Sudanese side to continue implementation of the planned activities through dispatching C/Ps of SSBC and MOIB to the safe neighbouring countries (Kenya Uganda, and Rwanda) and conducting training.

3-4. Factors inhibiting the Project process

(1) Implementation process of the Project

- While it was impossible for JICA Japanese Experts to be dispatched to South Sudan, the trainings had been conducted in the neighbouring countries. Thus, activities on the ground have been limited.
- Although there had been urgent needs to upgrade existing equipment to ensure quality broadcasting in SSBC, the procurement of equipment was delayed because enough amount of OJT to operate the equipment could not be conducted due to the conflict.
- Although trainings were conducted mainly in English, majority of SSBC staff are Arabic speakers.

3-5. Conclusion

The Project will achieve its goal to develop human resources in SSBC to “deliver accurate and fair information to the people of South Sudan”, to the extent that it could be estimated to be able to finalize its activities, in spite of consecutive outbreaks of armed conflicts and evacuations of the experts (Dec. 2013, Jul. 2016). There was a limitation in accomplishing the planned activities only through the third country seminars and the remote-control method in transferring the trained skills within the original time-frame. However those trained skills have been gradually disseminated within SSBC during the extended period: 1) Capacity of the broadcasting engineers has been improved by making use of the eight formats of “checklists and reports” for the operations and maintenance works of SSBC, and 2) For both program production and reporting, TOT and OJT in the third countries have achieved considerable results, which drastically enhanced the overall capacity of the SSBC staff.

Therefore, it could be concluded that the project purpose is expected to be achieved by the end of current project period without further extension. TOT and OJT in the third countries and remote-control method become, little by little, functional and the trained skills get rooted in SSBC through cascading-down and knowledge-sharing of the trainings by the Japanese experts.

3-6. Recommendations

The Joint Terminal Evaluation Team recommends that the following actions to be taken so that the achievement of the Project is secured in a manner of maximizing the outcomes of the Project and their sustainability.

- (1) SSBC Board of Directors have approved the middle/long term road map in June 2018, whose draft was finalized in February 2018. The SSBC executive members who have joined the third country seminars are recommended to take a lead in implementing those issues stipulated in the road map.
- (2) It is recommended that TOT members will establish a systematic method of staff training to transfer the trained knowledge and skills effectively.
- (3) It is highly recommended that the executive members of SSBC will promote awareness among staff members, on the role of and the functions of a public broadcaster in delivering accurate, impartial and fair information, through revising the current provisional Editorial Policy in accordance with the “Code of Ethics for News reporters” and “Programme Guidelines for SSBC Broadcasts” developed in the Project, and sharing the contents of the revised Policy.
- (4) Ministry of Information and Broadcasting is expected to respect the editorial independence of SSBC, even during the transitional period when SSBC is still dependent

financially on the government, abiding by the three Media-related laws.

3-7. Lessons Learned

The joint Terminal Evaluation team identified the following lessons learned from the Project:

- (1) In the development projects in the media sector, the emphasis could be put on the conceptual trainings in order to comprehend various types of concepts and principles in terms of protecting the freedom of expression. However, in achieving the project purpose, the project has succeeded by laying more emphasis on “bottom-up” method in which the experts addressed directly the routine/daily operations of the broadcaster to improve the professionalism of the staff by sharing experiences for each of the four outputs, rather than “top-down” method, or directive from the top to realise the journalistic principles. This approach can be referred to the other projects in the media sector.
- (2) The Japanese Experts have to unfortunately be evacuated after two crises. Although it has sometimes been difficult to have smooth communications, both South Sudanese and Japanese sides switched its communication style and continuously attempted to communicate remotely through e-mails and phone calls, which made trainings in third countries realize. This enduring effort made the Project achieve its purpose.

第1章 終了時評価調査の概要

1-1 終了時評価調査の目的

本終了時評価調査の目的は以下のとおり。

- (1) 南スーダン放送局組織能力強化プロジェクト（以下、「本プロジェクト」と記す）について、プロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix : PDM）に基づき進捗、成果、実施プロセスをレビューする。
- (2) 開発援助委員会（Development Assistance Committee : DAC）の評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）の観点からプロジェクトを日本・南スーダン国側双方が合同で評価する。
- (3) 取り組むべき課題を明確化するとともに、プロジェクトが成功裏に終了するよう、必要な方策について提言する。
- (4) 将来的に類似のJICAプロジェクトに適用できるよう教訓を抽出する。
- (5) 合同終了時評価調査報告書として評価結果をまとめ、関係者の共通理解を醸成する。

1-2 終了時評価調査メンバー

(1) 日本側

担当分野	氏名	所属
総括	橋本 敬市	JICA 国際協力専門員（平和構築）
評価企画	松戸 綾乃	JICA 産業開発・公共政策部 ガバナンスグループ 法・司法チーム 副調査役
評価企画	三好 恭平	JICA 産業開発・公共政策部 ガバナンスグループ 法・司法チーム 主任調査役
評価分析	大前 正也	株式会社サクセス・プロジェクト・マネジメント・オフィス 代表取締役

(2) 南スーダン側

氏名	所属
Mr. James Magok	南スーダン放送局 会長
Professor William Hai Zaza	南スーダン放送局 経営委員会 委員長

1-3 終了時評価調査日程

本調査においては、治安状況（詳細は「2-1」等にて後述）を踏まえ、現地調査は行わず、資料をもとに本邦における調査のみを実施した。終了時評価（当初）は2017年10月から2018年1月に行われた。当時においては、2018年3月にてプロジェクトが終了する予定であったが、日本側及び南スーダン国側双方の合意により、2018年12月までプロジェクトが延長されることとなった。そのため、終了時評価に関しては、双方がメール等を通じた遠隔でのコミュニケーションを続けた。終了時評価報告書のドラフト（英文版）は改訂され、2018年9月に実施されたエンドライン調査の結果を踏まえたものとして、2018年11月に双方にて合意された。

第2章 プロジェクト概要

2-1 プロジェクトの背景

南スーダン共和国（以下、「南スーダン」と記す）は、20年にわたる長期の内戦の影響から、国家運営のための十分な制度が確立されておらず、独立国家としての政府機構を確立させるための課題が山積している。同国では国際社会の支援を得ながら国家建設を進めているが、新しい民主国家建設プロセスにおいては、正確な情報を国民に提供するマスメディアの果たす役割が極めて重要である。特に紛争直後の国では、新国家が健全に運営され、かつ紛争再発を予防するうえで、監視機能を果たすメディアの役割は大きい。加えて、紛争の影響で国内のインフラが荒廃し、都市間の移動が制約されている南スーダンにおいては、国民の生活に必要な情報（教育、保健、防災等）を中央から地方に提供することが困難であることから、メディアを通じこれを克服することも期待されている。

2005年の南部スーダンのスーダン人民解放運動（Sudan People's Liberation Movement : SPLM）と北部スーダンの包括的和平合意締結以降、南スーダンでは活字メディアが次々に発刊されたものの、その財源はドナーあるいは国際機関の支援やNGOからの寄付に依存しており、「独立メディア」とはほど遠い状況である。放送メディアも広告を提供し得る企業が存在しないため、民間放送局は未発達であり、テレビについては、地上波は南スーダン放送局（South Sudan Broadcasting Corporation : SSBC）〔前国営南スーダンテレビ（South Sudan TV : SSTV）〕のみである。ラジオについては、SSBC〔前国営南スーダンラジオ（South Sudan Radio : SSR）〕以外のほとんどのラジオがドナー、国際機関、NGOが資金援助しているコミュニティFMである。また、上述のメディアの独立性や財源不足の問題に加え、あらゆるメディアにおいて、放送技術、放送機材維持管理、番組内容の改善が課題となっている。

情報・放送省（Ministry of Information and Broadcasting : MOIB）傘下のSSBC（前SSTVR）は、国内最大のカバーエリアをもつメディアであり、2014年9月の公共放送法署名を受け、公共放送局へと変革している最中である。公共放送局として、SSBCは正確・公正な報道、多文化・多民族に配慮した番組制作を行うことで、民主国家を支える健全な市民社会の形成に資することが期待されている。一方、公共放送局化に向けた具体的な計画は策定されておらず、加えて、職員は放送機材維持管理及び番組制作に係る十分なトレーニングを受けておらず、正確かつ公平な報道を行う能力も不足していた。かかる背景から、SSTVRの公共放送局化に向けたプロセスを支援するとともに、同局の人材育成を図ることが不可欠な状況であった。

このような背景に基づき、南スーダン政府からの要請を受けてJICAは2012年12月から2016年11月までの予定で「南スーダン放送局（前南スーダンテレビ・ラジオ）組織能力強化プロジェクト」（以下、「本プロジェクト」と記す）を実施してきた。その後、2015年10月に実施された中間レビューの提言を受け、プロジェクト実施期間は2018年3月まで延長されることとなった（2016年2月合意）。加えて、南スーダンで起きた2度の騒擾^{そうじょう}（2013年12月及び2016年7月）によりJICA専門家がジュバから退避することとなり、プロジェクト目標達成のためには更なるプロジェクト実施期間の延長が必要となったため、プロジェクトは2018年12月まで再度延長された。

2-2 プロジェクト内容の要約

2017年7月の合同調整委員会（Joint Coordinating Committee：JCC）にて改訂された PDM Ver.7.0（付属資料 1.参照）及び2018年3月改訂の討議議事録（Record of Discussions：R/D）に定めた期間に基づくプロジェクト内容は以下のとおり。

- (1) プロジェクト名
南スーダン放送局組織能力強化プロジェクト
- (2) 相手国機関名
情報・放送省（MOIB）及び南スーダン放送局（SSBC）
- (3) プロジェクト期間
2012年12月～2019年3月（76カ月）
第1年次：2012年12月～2014年3月
第2年次：2014年6月～2015年3月
第3年次：2015年6月～2016年3月
第4年次：2016年4月～2016年11月
第5年次：2017年7月～2019年3月
- (4) 対象地域
ジュバ、マラカル、ワウ等
- (5) 受益者
MOIB 職員及び SSBC 職員
- (6) 上位目標
SSBC によって、正確・公平・中立な情報が国民に届けられる。
- (7) プロジェクト目標
SSBC において、正確・公平な情報を国民に届けるメディアに必要とされる人材が育成される。
- (8) 成果
 - ①SSBC において、公共放送局化に向けた組織運営上の課題が明確化され、同課題解決のための対処方針及び組織ビジョンがまとめられる。
 - ②SSBC において、職員の放送機材運用・維持管理に係る能力が向上する。
 - ③SSBC において、番組制作を担当する職員の番組制作能力が向上する。
 - ④SSBC において、報道担当者のプロフェッショナリズム（正確・公平な報道）に関する意識が向上する。

第3章 終了時評価調査の方法

3-1 評価の手法

日本・南スーダン国側双方が合同で以下の観点からプロジェクトをレビューした。

(1) プロジェクトの実績

PDM 最新版 (Ver.7.0) の指標に基づき、プロジェクトの実績に関する情報を収集し、投入実績、成果の達成度、プロジェクト目標、上位目標の達成見込みを確認した。

(2) プロジェクトの実施プロセス

詳細活動計画 (Plan of Operations : PO) に基づき、プロジェクトの実施プロセスを把握するとともに、貢献要因及び阻害要因を確認した。

(3) 評価5項目の視点に基づく評価

JICA において標準的に使用されている評価5項目 (表3-1) の観点から評価した。

表3-1 評価5項目

1. 妥当性	プロジェクトのターゲットグループのニーズへの整合性、プロジェクト内容の先方政府と援助側の政策や優先順位との整合性、プロジェクトの戦略やアプローチの妥当性に関する視点。
2. 有効性	プロジェクトの達成見込みと、その達成がアウトプットの達成によりもたらされるかに関する視点。
3. 効率性	アウトプットの達成状況と投入がいかにアウトプットの達成に転換されているか (量的、質的観点) に関する視点。他のアプローチと比して最も効率的な方法を適用しているかも必要に応じ問う。
4. インパクト	上位目標の達成見込みと、プロジェクトの実施による直接/間接的な影響。また、正/負、予期した/予期していない影響の計測。
5. 持続性	プロジェクト終了後にプロジェクトがもたらした効果の持続性を問う視点。

出所：「新 JICA 事業評価ガイドライン第1版」JICA 評価部 (2010年6月)

3-2 データ収集・分析方法

本終了時評価において使用されたデータ収集方法は以下のとおり。

- ・文献調査 (プロジェクト文書のレビュー)
- ・キー・インフォーマント・インタビュー [南スーダン側カウンターパート (Counterpart Personnel : C/P) 及び JICA 専門家]

第4章 プロジェクトの実績と実施プロセス

4-1 投入実績

4-1-1 日本側の投入

(1) 専門家派遣

プロジェクト終了までの投入計画（プロジェクト期間の延長により合計 87.30 人/月から 129.99 人/月に変更）に基づき、①総括/放送局運営 1/民主化 1、②副総括/放送局運営 2、③機材管理、④番組制作、⑤報道、⑥放送局運営 3/業務調整 1/民主化 2、⑦業務調整 2/民主化、⑧業務調整 2/民主化 3、⑨人材育成/モニタリングの分野においてシャトル型専門家が延べ 19 名派遣されている。本調査時点（2018 年 9 月末時点）の派遣実績は合計 117.84 人/月である（付属資料 3. 3-1 参照）。なお、2013 年 12 月の南スーダンにおける武力紛争の勃発に伴い、JICA は治安状況の改善が確認されるまで事務所員と専門家の国外退避を余儀なくされた。かかる状況下、JICA は SSBC 職員と MOIB 幹部職員を隣国へ派遣し、第三国研修を通して本プロジェクトを継続することを提案した。その結果、2014 年 2 月から 2015 年 1 月に専門家の南スーダンへの派遣が再開されるまで、専門家はケニア、ウガンダ及びブルワンダへの比較的短期間の渡航に限り活動を実施することとなった。その後、約 1 年半にわたり専門家はジュバでの活動を再開したが、2016 年 7 月にジュバにて再度武力紛争が発生し、再び国外退避を余儀なくされるとともに、第三国研修を通じた活動を実施せざるを得なかった。この状況はプロジェクトが終了するまで続いている。

(2) 供与機材

本調査時点の供与機材及び携行機材の支出実績は、合計 1 億 1,366 万 853 円である。プロジェクト実施に必要なジェネレーター及び研修用機材（XDCAM Camcorder など）が供与された。供与機材リスト詳細は付属資料 3. 3-3 を参照。

表 4-1 機材費支出実績

（単位：円）

	第 1 年次 2012 年 12 月 ～2014 年 3 月	第 2 年次 2014 年 6 月～ 2015 年 3 月	第 3 年次 2015 年 6 月～ 2015 年 9 月	第 4 年次 2016 年 6 月～ 2017 年 4 月	第 5 年次 2017 年 7 月～ 2019 年 3 月	合 計
機材	23,943,853	2,612,000	57,392,000	0	29,713,000	113,660,853

第 5 年次は計画値

(3) 現地業務費

日本側現地業務費として合計 1 億 3,728 万 8,000 円相当が支出された。

表 4-2 現地業務費支出実績

（単位：円）

	第 1 年次 2012 年 12 月 ～2014 年 3 月	第 2 年次 2014 年 6 月～ 2015 年 3 月	第 3 年次 2015 年 6 月～ 2016 年 3 月	第 4 年次 2016 年 6 月～ 2017 年 4 月	第 5 年次 2017 年 7 月～ 2019 年 3 月	合 計
現地 業務費	15,975,000	38,763,000	20,281,000	14,729,000	47,540,000	137,288,000

第 5 年次は計画値

(4) その他の投入

1) 本邦研修

本調査時点で本邦研修に参加した C/P は合計 33 名である（付属資料 3. 3-2 参照）。2013 年には、公共放送局運営に関する幹部を対象とした研修、機材維持管理に関する技術職員のための研修等の 4 コースへ計 21 名が派遣された。2014 年には、2 コース（番組制作研修、報道研修）へ 9 名の C/P が派遣された。2015 年には、南スーダンスポーツ振興ミッション来日取材班として 3 名を受入れた。

2) 第三国研修（ケニア、ウガンダ、ドバイ、ルワンダ）

本調査時点で第三国研修への参加者数は延べ 185 名である（付属資料 3. 3-2 参照）。第 1 年次には、2013 年 12 月の治安情勢の悪化を受け、JICA 専門家の現地派遣が不可能となったことから、同年次末の 2014 年 2 月に当初計画していた幹部研修のほか、新たに機材管理研修、番組制作研修、報道研修を加えて、研修期間を拡大し実施された。第 2 年次も、治安情勢は不安定な状況が続いた。その結果、2014 年 2 月から 2015 年 2 月にかけて、計 20 研修コース（幹部 4 コース、機材管理 6 コース、番組制作 5 コース、報道 5 コース）がケニア、ウガンダ、ドバイで実施された。2016 年には、ケニアで報道研修コースが、ルワンダで「キガリ・ワークショップ」とよばれる幹部研修コースが実施された。また 2017 年には、ウガンダ放送公社の協力のもと、「合同ワークショップ」「番組制作 ToT」「技術者向け ToT」及び「報道、カメラパーソン、ビデオ編集者向け ToT」の 4 研修コースが実施された。さらには、2018 年 2 月にルワンダにて、ルワンダ放送公社との合同ワークショップ及びセミナーと「報道」「機材管理」「番組制作」の 3 研修コースが実施された。

4-1-2 南スーダン側の投入

(1) C/P の配置

MOIB 及び SSBC（前 SSTVR）はプロジェクト開始から本調査時点までに、延べ 83 名の職員を C/P として配置した（MOIB 累計 3 名、SSBC 累計 80 名）。MOIB からプロジェクトディレクターとプロジェクトマネジャーが配置され、SSBC（前 SSTVR）から JCC メンバー延べ 12 名に加え、ワーキンググループ（Working Group : WG）には、WG1（全体計画策定、テレビ放送運営、ラジオ放送運営）に延べ 21 名、WG2（機材維持管理）に延べ 17 名、WG3（番組制作）に延べ 29 名、WG4（報道）に延べ 17 名の C/P がこれまで配置された。なお、多くの WG メンバーが、2 つ以上のグループに配置されている。詳細は付属資料 3. 3-4 を参照。

また、SSTVR から SSBC へと法律上移行したことに伴い、プロジェクトマネジャーは SSBC 会長が担うことが 2017 年 5 月に関係者間で合意された。

(2) 施設の提供

SSBC 敷地内にプロジェクト事務所（会議室併設）を新設するための土地が提供された。なお、2013 年 5 月に建設が完了するまで、SSTVR は既存のオフィススペースを、研修活動用スペースとして提供した。

(3) プロジェクト現地経費の負担

MOIB と SSBC はジュバ市内で開催されたセミナー及びシンポジウムへ出席する C/P の交

通手段を提供した。

4-2 活動実績

本調査時点までの活動実績の詳細を付属資料 4. に示す。計画されたプロジェクト活動は活動計画 (Plan of Operations : PO) に基づき、おおむね実施されている (PO は付属資料 2. を参照)。機材調達計画は、第 3 年次に専門家の現地派遣が再開されるまで中断された。第 2 年次の活動計画に基づき、SSBC (前 SSTVR) の公共放送局化への移行に向けたロードマップに係る協議や策定作業、番組制作及び報道に係る研修、SSBC (前 SSTVR) の既存の放送機材に関する運用及び維持管理マニュアルの作成が、限られた研修期間中に実施された。JICA は 2014 年 11 月に南スーダンでのオペレーションを再開することを決め、本プロジェクトの専門家も 2015 年 1 月に SSBC (前 SSTVR) への派遣が再開され、SSTVR 内での OJT 活動が再開されることとなった。しかしながら、2016 年 7 月に再度、武力衝突が起こり南スーダンでのプロジェクト活動は中止され、この間の技術支援はウガンダ及びルワンダに専門家を派遣して実施された。

4-3 成果の達成状況

PDM の指標にかんがみた本調査時点の各成果の達成状況は以下のとおりである。

(1) 成果 1

SSBC において、公共放送局化に向けた組織運営上の課題が明確化され、同課題解決のための対処方針及び組織ビジョンがまとめられる。

表 4-3 成果 1 指標の達成状況

指 標	達成状況
1-1. SSBC の公共放送局化に向けた短期ロードマップが完成する。	<p>達成済み</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 3 年次は WG1 メンバーを主体に「公共放送局化に向けた短期ロードマップ」の最終化を進めた。2014 年 9 月の公共放送局法の発効を受け、2015 年に経営委員会メンバー候補がノミネートされ、2016 年 2 月 5 日に正式任命された。その後、2016 年 3 月の JCC において、同ロードマップがプロジェクトの成果品として最終化された。 第 4 年次に入り、2016 年 6 月に、プロジェクト側から経営委員会に対して同ロードマップに関する説明を行い、同ロードマップが経営委員会によって承認され、協力して組織づくりを進めることで同意した。
1-2. SSBC が国民に信頼される公共放送局となるための中長期ロードマップ (予算計画含む) が完成する。	<p>達成済み</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 3 年次は、「SSTVR が国民に信頼される公共放送局となるための中長期ロードマップ」の策定に向け、WG1 メンバーは、検討を進めた。 第 4 年次には、2016 年 6 月に C/P 側の中長期ロードマップドラフト作成担当者が任命され、同担当者に対し、フレームワークや内容の一部 (案) を提示、その後、同担当者が作成を進めるドラフトへの助言等の作業を進めた。 第 5 年次には、2018 年 2 月にキガリで行われたワークショップにおいて WG1 は中長期ロードマップ (案) を最終化した。同案は 2018 年 6 月に経営委員会にて承認された。

成果1は上記指標の達成状況に示されるとおり、達成された。

SSTVRを公共放送局へ改編するための組織面及び運用面の課題に関する議論は、第三国研修中にWG1によって集中的に行われた。プロジェクト開始前は、SSTVRの職員の多くは公共放送局法を含むメディア法案の内容及び公共放送局がどういったものか知らない状況であった。第1年次から第2年次にかけて実施された研修を通し、SSTVRによって課題への対処方針が「公共放送局化に向けた短期ロードマップ」としてまとめられた。同ロードマップは2016年3月に最終化され、2016年6月に経営委員会によって承認された（指標1-1）。

第2年次には、メディア関連法案が成立したことを受け、「公共放送局化に向けた中・長期ロードマップ」の検討準備が開始された。公共放送局化後5～10年の行動計画として、視聴者の信頼を得られる放送局となることを目標に、放送網の拡大、健全な運営のための財政計画の作成、公正・公平で質の高い放送の実現などが盛り込まれ、WG1はプロジェクト第5年次に最終化に向けた作業を続けた。結果として、中・長期ロードマップ案はプロジェクト関係者の密な議論を通じてキガリにおけるワークショップにおいて最終化された。同案は2018年6月1日の経営委員会にて正式に承認された（指標1-2）。

2014年9月の公共放送局法の発効を受け、2015年に経営委員会メンバー候補がノミネートされ、2016年2月5日に経営委員が正式任命されており、SSBCの公共放送局化への努力は続けられている。

したがって、SSBC（前SSTVR）において、公共放送局化に向けた組織運営上の課題が明確化され、問題解決のための対処方針及び組織ビジョンはまとめられたと判断される。

(2) 成果2：SSBCにおいて、職員の放送機材運用・維持管理に係る能力が向上する。

表4-4 成果2指標の達成状況

指標	達成状況
2-1. 現状の放送機材運用・維持管理及び関連する財政管理に係る職員の役割が明確化される。	<p>プロジェクト終了後に達成の見込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3年次、WG2は放送機材運用・維持管理に係る要員計画に関し、現在の要員状況の明確化を進めた。 ・SSTVR組織全体のSSBCへの改編プロセス次第で、技術部門の要員計画が検討される。JICA専門家は、人員配置に関し成果1と調整しつつ、助言及び指導を行っている。したがって、要員計画及び技術部門に係る予算は組織改編が終わり次第適切に作成されることとなる。
2-2. OJT 成果確認チェックリストによる記録が日常的に実施され、必要に応じて新しいチェック項目が追加される。	<p>達成済み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点までに以下8つのチェックリスト、レポート様式が開発され、必要に応じ、様式の更新が行われている。WG2は既にこれらの様式を用いて、運用及び維持管理の記録を開始している。 ①「ラジオ放送実施報告書（SSR Daily Broadcasting Report）」 ②「ラジオ放送所放送実施報告書（SSR（GUMBO） Daily Broadcasting Report）」 ③「テレビ放送実施報告書（SSTV Daily Broadcasting Report）」 ④「朝ミーティングチェックリスト（Check List for Technical Morning Meeting）」

	<ul style="list-style-type: none"> ⑤「収録報告書 (Record of the Material Tape)」 ⑥「放送事故報告書 (Irregularities Report)」 ⑦「機材障害報告書 (Equipment Trouble Record Sheet)」 ⑧「旧機器処理票 (Report on Scrap Equipment)」
2-3. 放送機材の維持管理計画が作成され、運用されている。	<p><u>計画は作成され、関連マニュアルも作成済みではある。しかしながら、現実的には、予算不足のためマニュアルに沿った維持管理ができていない。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・WG2 メンバーと第三国研修参加者は、JICA 専門家の技術指導の下、合計 6 つのマニュアルを以下のとおり作成した。 ①「機材運用マニュアル (Rules on Operation of Broadcasting Equipment in SSTVR (ROE) Ver.8, August 2017)」 ②「機材保守マニュアル (Rules on Maintenance of Broadcasting Equipment in SSTVR (RME) Ver. 6, Feb. 2015)」 ③「音声放送機マニュアル (Operation Manual for SSR Gumbo Station Ver. 2, Feb.2015)」 ④「ENG カメラマニュアル (Operation Manual for ENG Camera Ver. 3, Feb.2015)」 ⑤「音声調整卓マニュアル (Operation Manual for Audio Mixer Ver. 2, Feb.2015)」 ⑥「VTR マニュアル (Operation Manual for VTR Ver. 2, Feb.2015)」
2-4. 放送機材の維持管理状況について記録簿が作成され、経常的に更新されている。	<p><u>達成済み</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICA 専門家の技術的な助言の下、第 1～2 年次に「放送機材リスト」が作成され、維持管理グループ (Maintenance Group) により更新されている。
2-5. 作成された放送機材運用・維持管理マニュアルが配付される。	<p><u>達成済み</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成された放送機材運用・維持管理マニュアルは、随時、技術部職員へ配付されている。加えて、だれでも参照できるよう、共用棚に収納されている。

成果 2 は上記指標の達成状況に示されるとおり、本調査時点である程度達成されている。

WG2 は、放送機材運用・維持管理に係る要員計画について、現在の要員状況の明確化を進めてきた (指標 2-1)。他方、部門レベルの組織改編の進捗は SSBC 全体の組織改編のプロセスの進捗次第である (指標 2-2、指標 2-3)。本調査時点では、8 種類のチェックリストやレポートフォーマット (放送実施、朝ミーティング・チェックリスト、収録報告、放送事故、機材障害、旧機器処理票など) が作成され、必要に応じて更新されている (指標 2-2)。また、WG2 はこれらのフォーマットを使用して点検周期や検査内容に基づく運用を開始した。WG2 のメンバー及び第三国研修の参加者は放送機材運用・維持管理マニュアルを合計 6 つ作成した (指標 2-3、2-5)。また、放送機材維持管理状況を把握するための「放送機材リスト」が作成され、維持管理グループにより更新されている (指標 2-4)。

これらのおり、SSBC 職員の放送機材運用・維持管理に係る能力はある程度向上していると判断される。しかしながら、成果 2 の達成のためには、適切な予算措置が必要であるため、現在のところ達成の見込みは不明である。

(3) 成果 3

SSBC において、番組制作を担当する職員の番組制作能力が向上する。

表 4 - 5 成果 3 指標の達成状況

指 標	達成状況
3-1. 番組専従班が機能する。	<p>達成済み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 3 年次、農業振興及びスポーツ振興を通じた平和構築への取り組みを、特別番組として取りあげるために、スペシャル番組専従班（テレビ部門：13 名とラジオ部門：6 名）が設置された。 ・同専従班は、多様な番組を制作し、随時放送していく予定であったが、南スーダン国内情勢の変化により第三国に研修活動の場を変更した。 ・第 3 年次、新たな生活情報番組「EXPRESS」制作班が設置され、教育、女性、地元経済に焦点を当てたさまざまな番組を制作した。 ・第 5 年次、SSBC は十分な予算が措置される限り、自国の課題をテーマに、南スーダンの視聴者にとって有益な番組制作を継続し続けるとしていて、SSBC によって JICA 専門家から学んだ内容を活用した番組が制作され続けることが期待される。
3-2. OJT 成果確認チェックリストによる記録が日常的に実施され、必要に応じて新しいチェック項目が追加される。	<p>達成される見込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 3 年次、OJT 成果チェックリストが作成され、番組専従班による定例会議において同様式を用いた記録を開始した。 ・第 4 年次には自主的にチェックリストの記入、定例会議の定着化がみられるようになったが、2016 年 7 月以降の状況については確定的ではない。 ・同チェックリストが SSBC において定常的に更新され、完全に活用されるまでになるには時間がかかると思われるものの、第 5 年次においても、ToT（ウガンダ研修、ルワンダ研修）において、チェックリストの更新及び活用をプロジェクトとして促し続けている。
3-3. 番組制作マニュアルが完成する。	<p>達成済み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 年次、「番組制作ガイドライン（暫定版）（Programme Guidelines for SSBC Broadcasts（Drafted February 24, 2014）」が作成された。 ・第 2 年次には、第三国研修や本邦研修の参加者により、ガイドラインに含まれるコンポーネントは、番組制作 OJT での実習を通じ、実践された。 ・第 3 年次には番組制作ガイドラインを最終化し、第 7 回 JCC において承認された。 ・第 4 年次には、番組制作ガイドラインは「SSBC 記者/放送人ハンドブック（SSBC Reporters and Broadcasters Handbook）」と統合された。 ・第 5 年次には、ウガンダにおける ToT 研修において（2017 年 8 月）、同ガイドラインの読み込みと理解を深めるための議論が行われた。 ・当該マニュアルが全職員に浸透するにはさらに時間を要する。
3-4. 番組制作職員の 3 つのテクニカル・キャパシティのスコアが上昇する。	<p>部分的に達成済み</p> <p>職種別のテクニカル・キャパシティに関し、2017 年 8～9 月の参加者平均の集計結果を以下のとおりベースライン結果（2016 年 6 月）の平</p>

(ベースライン-2016年6月時点：テレビ番組制作 平均値 3.5 内訳：原稿作成 3.5、撮影 4.0、編集 2.9。ラジオ番組制作 平均値 3.6 内訳：構成 3.6、レコーディング 3.6、コンピュータ編集 3.5)

均値と比較結果で示している。アセスメント参加者は WG3 及び WG4 のメンバーである。ただし、両方のアセスメントに参加した職員は計 10 名のみであり、同一のグループではない。

(1) テクニカル・キャパシティ職種別：テレビ番組制作

テレビ番組制作に関しては、ベースライン調査の参加者は 8 名、2017 年の参加者は 17 名（うち 3 名が両方に参加）である（またベースライン調査の参加者 8 名中 3 名が報道記者の方のアセスメントに参加していた）。2016 年のグループと 2017 年のグループで比較すると、「原稿作成力」は 0.4 点高く、「撮影力」は 0.1 点低く、「コンピュータ編集力」は 1.0 点高くなっていた。したがって、テレビ番組制作能力についてはある程度向上したと考えられる。能力向上を継続するには、撮影に関するより集中した研修が SSBC 独自の研修計画に含まれる必要がある。

表 4-5-1 テレビ番組：テクニカル・キャパシティ

テクニカル・キャパシティ	第 1 回 (2016 年 6 月) 8 名	第 2 回 (2017 年 8~9 月) 17 名	スコア変化
原稿作成	3.5	3.9	+0.4
撮影（ロケ、スタジオ）	4.0	3.9	-0.1
コンピュータ編集	2.9	3.9	+1.0
平均	3.5	3.9	+0.4

出所：プロジェクト報告

(2) テクニカル・キャパシティ職種別：ラジオ番組制作

ラジオ番組制作部に関しては、2016~2017 年にかけて多くの職員が退職した。そのため、2017 年のアセスメント参加者は 4 名と少数であり、2016 年の参加者のうち、今回も参加したのは 1 名のみであることから、比較結果は参考情報程度である。この参加者は、2017 年 9 月にカンパラでの ToT 研修に参加をしているが、アセスメントにおいて、専門家とのインタビューの際に技術的スキルに関する知識の向上がみられたと話した。しかしながら、同インタビューの際、「2016 年のアセスメントと比べて自分自身をより客観的に、かつ厳しく評価した」と述べており、このため 2017 年の 3 項目平均値は 2016 年のものと比べ 0.5 点低くなっている。

表 4-5-2 ラジオ番組：テクニカル・キャパシティ

テクニカル・キャパシティ	第 1 回 (2016 年 6 月) 5 名	第 2 回 (2017 年 8~9 月) 4 名	スコア変化
構成	3.6	3.0	-0.6
録音	3.6	3.2	-0.4
コンピュータ編集	3.5	3.0	-0.5
平均	3.6	3.1	-0.5

出所：プロジェクト報告

成果3は上記の指標の達成状況に示されるとおり、本調査時点でおおむね良い方向に進捗しており、成果が発現しつつある。

番組制作の体制強化のため、第3年次にテレビ部門13名とラジオ部門6名で構成されたメンバーによるスペシャル番組専従班が設置され、「農業振興」「平和構築のためのスポーツ」のスペシャル番組プロジェクトが始動した（指標3-1）。番組制作部の組織改編については、今後進められる公共放送局としての新組織構築に向けたSSBC全体の改編の進捗次第である。第3年次、番組制作プロセスチェックリストが作成され、定期的な会議の開催とともに定着化を図っている（指標3-2）。また、「番組制作ガイドライン（暫定版）」は第1年次に作成された。これらについては第三国研修や本邦研修の参加者によって、番組制作研修を通じ、中核的職員に浸透しつつある。第3年次には番組制作ガイドラインが最終化され、2016年7月の第7回JCCで承認された（指標3-3）。現在、同ガイドライン習熟のための努力を行っているところであるが、全職員に浸透するにはさらに時間を要すると考えられる。

また、番組制作職員の能力向上レベルを測定するために、テクニカル・キャパシティ・アセスメントを実施した。結果は、有意な人数・方法のアセスメントを実施できず、具体的な傾向を把握することはできなかったが、能力向上に必要な課題について職員の理解は得られたと考えられる（指標3-4）。

プロデューサーや記者のモチベーションを高めるため、SSBC番組賞を設立した。同賞はSSBC職員によって選ばれるもので、その授賞式は2016年、2017年に開催された。厳しい番組評価基準を満たす番組賞に選ばれようとする職員の努力によって、結果的に番組の質が向上した。

これらのことから、SSBCにおいて、番組制作を担当する職員の番組制作能力は向上しつつあると判断される。

(4) 成果4

SSBCにおいて、報道担当者のプロフェッショナリズム（正確・公平な報道）に関する意識が向上する。

表4-6 成果4指標の達成状況

指標	達成状況
4-1. 報道担当者向け倫理規範が完成する。	<p>達成済み</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1年次、WG4により「報道倫理規範（暫定版）」〔Final Draft - South Sudan Television & Radio (SSTVR) Journalists Code of Ethics〕のドラフトが策定され、第3年次においては、同ドラフトが最終化された。同倫理規範には、民族間対立などを助長しない報道や女性、子どもなど社会的に脆弱な立場に置かれているグループへの配慮も規定するなど、南スーダンの実情に沿った内容も盛り込まれた。 第5年次においては、報道現場での倫理規範実践のため、「記者/放送人ハンドブック」（以下、「記者ハンドブック」と記す）を活用していく。
4-2. 「記者ハンドブック」が完成する。	<p>達成済み</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2年次、第三国研修と本邦研修中、報道部からの参加者は、ジャ

	<p>ーナリズムの倫理、中立性、普遍性、独立性のほか、災害時の報道取材等、「記者ハンドブック」へ盛り込まれるべき課題について学んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3年次には、WG4が「記者ハンドブック」暫定版の策定を進めた（英語版ドラフト）。 ・第4年次、正式名称を“SSBC Reporters and Broadcasters Handbook 2016”とすることが第8回JCCで承認された（2016年7月6日）。同時に、英語版ドラフトが承認、最終化された。また、同ハンドブックをSSBC経営委員会へ提出し審査を受けること及びアラビア語翻訳することが合意された。その後アラビア語版も完成した。 ・第5年次、ToT（ウガンダ研修報道グループ）及びSSBCの内部研修を通じて、SSBC職員は同ハンドブックの内容について徐々に習熟してきている。しかしながら、同ハンドブックの配付計画についてはまだ決まっていない。
<p>4-3. 職員のジャーナリズム倫理のキャパシティ・スコアが上昇する。（ベースライン-2016年6月時点：平均値3.5）</p>	<p>達成済み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コア・キャパシティ結果（「ジャーナリズム倫理」以外も参考のため記載） <p><u>(1) キャパシティ・アセスメントに2回参加経験がある職員（10名）</u></p> <p>キャパシティ・アセスメントに2回参加した経験がある職員に関し、1回目と2回目の平均スコアを表4-6-1に示す。この10名は主に、報道及び番組制作WGやToTに参加し、プロジェクト活動においても、主要な役割を担ってきた職員といえる。</p> <p>コア・キャパシティ全5項目について、スコアが1年間で上昇している。一番大きく向上したのは、「リーダーシップ力」で1.0点である。次いで「リサーチ力」が0.6点、「計画力」が0.3点、「コミュニケーション力」が0.2点、「ジャーナリズム倫理」は0.1点の向上がみられた。「ジャーナリズム倫理」については、報道専門家がキャパシティ・アセスメント・シートを使用して客観的にアセスメントを実施した。2016年6月と2017年9月を比較すると、プロフェッショナルレベルスコアが0%から25%へ、中級レベルスコアが11%から58%へと上昇した。</p> <p>第2回目の結果では、レベル4（日常業務に当該キャパシティを活用している）に到達しているのは「リサーチ力」「リーダーシップ力」であった。その他3項目はいずれもレベル3で当該キャパシティに関するスキルと知識を有しているレベルである。</p> <p>2016年6月に設置したベースライン値（3.5点）は参加者18名の平均値であるが、退職した者などもおり、2017年10月時点では、18名中8名からは第2回目のデータを回収することはできなかった。そのため、1回目と2回目の両方に参加した職員10名の第1回目平均値（3.6点）と第2回目平均値（3.7点）を算出し、比較した。今後、ToT参加者による「記者ハンドブック」に係るSSBC内での研修ワークショップの開催、ハンドブック配付により、当該キャパシティの向上が期待される。</p>

表4-6-1 コア・キャパシティの変化：キャパシティ・アセスメントに2回参加経験がある職員（10名）

コア・キャパシティ	第1回 (2016年6月)	第2回 (2017年8~9月)	スコア 変化
ジャーナリズム倫理	3.6	3.7	+0.1
計画	3.5	3.8	+0.3
リサーチ	3.5	4.1	+0.6
コミュニケーション	3.7	3.9	+0.2
リーダーシップ	3.0	4.0	+1.0

出所：プロジェクト報告

(2) コア・キャパシティ職種別：参加者全員（2016年6月：18名、2017年8~9月：92名）

2016年6月に実施されたアセスメント参加者18名、2017年8~9月に実施されたアセスメント参加者92名のコア・キャパシティ平均値を表4-6-2に示す。

2017年のグループに関し、各項目の平均値をみると、ベースライン調査同様、いずれもレベル3（当該キャパシティに関するスキルと知識を有している）にとどまっている。項目間でも大差はないが、「計画力」「リサーチ力」「コミュニケーション力」「リーダーシップ」が高く、「ジャーナリズム倫理」はそれに次ぐ。

レベル4（日常業務に当該キャパシティを活用している）に達している項目がないということは、多くの職員は、コア・スキルと知識を十分に活用できていない状況である。キャパシティ・アセスメントの結果は、SSBCが組織として人材を十分に活用する機能と体制を構築できていない現状の姿を反映していると考えられる。

表4-6-2 コア・キャパシティ：コア・キャパシティ職種別：参加者全員

(2016年6月：18名、2017年8~9月：92名)

コア・キャパシティ	第1回 (2016年6月) 18名	第2回 (2017年8~9月) 92名	スコア 変化
ジャーナリズム倫理	3.5	3.4	-0.1
計画	3.5	3.6	+0.1
リサーチ	3.4	3.6	+0.2
コミュニケーション	3.7	3.6	-0.1
リーダーシップ	3.3	3.6	+0.3

出所：プロジェクト報告

4-4. 報道職員の3つのテクニカル・キャパシティのスコアが上昇する。（ベースライン-2016年6月時点：平均値3.7 内訳：ニュース・原稿編集3.2、レポート・原稿作成4.0、ニ

部分的に達成済み

報道記者に関しては、ベースライン調査の参加者は3名と少数であった。2017年に行われた第2回調査の参加者は33名（うち3名が両方に参加）である（また、ベースライン調査時の番組制作のグループにいたもののうち3名が今年は報道のアセスメントに参加していた）。

2回のアセスメント結果のグループを比較すると、「ニュース・原稿編集」が0.4点高くなった一方、「レポート・原稿作成」及び「ニュー

ュース・リポーティング 3.9)	ス・リポーティング」は0.2点低かった。3項目平均では変化がなかった。しかしながら、参加者が少ないため結果は参考程度となる。		
表4-6-3 報道記者：テクニカル・キャパシティ			
テクニカル・ キャパシティ	第1回 (2016年6月) 3名	第2回 (2017年8~10月) 33名	スコア 変化
ニュース・原稿編集	3.2	3.6	+0.4
リポート・原稿作成	4.0	3.8	-0.2
ニュース・リポーティング	3.9	3.7	-0.2
平均	3.7	3.7	0
出所：プロジェクト報告			

成果4は上記の指標に示されるとおり、本調査時点でおおむね良い方向に進捗しており、成果が発現しつつある。

WG4により策定された「報道倫理規範（暫定版）」〔Final Draft - South Sudan Television & Radio (SSTVR) Journalists Code of Ethics〕のドラフトは、第3年次において最終化された。同倫理規範には、民族間対立などを助長しない報道や女性、子どもなど社会的に脆弱な立場に置かれているグループへの配慮も規定するなど、南スーダンの実情に沿った内容も盛り込まれた（指標4-1）。

指標4-2に関して、「記者ハンドブック」は2016年7月の第8回JCCにおいて正式名称が“SSBC Reporters and Broadcasters Handbook 2016”となり、英語版が承認された。また、アラビア語版も完成した。

また、サンプル数は限られたものの、作成された「報道倫理規範（暫定版）」による職員のジャーナリズム倫理のレベルを測定するために、コア・キャパシティ・アセスメントを実施した。スコアはわずかに上昇しているものの、レベル3（当該キャパシティに関するスキルと知識を有している）にとどまっている。WG4のリーダーたちは、ビデオ編集者及びカメラマンを含む報道及び番組制作担当職員向けに研修を計画し、グループ研修をSSBC内で実施している。

これらのことから、SSBCにおいて、報道担当者のプロフェッショナリズムに関する意識が向上されつつあると判断される。

4-4 プロジェクト目標の達成状況

PDMの指標にかんがみた本調査時点のプロジェクト目標達成状況は以下のとおりである。

プロジェクト目標：SSBCにおいて、正確・公平な情報を国民に届けるメディアに必要とされる人材が育成される。

表4-7 プロジェクト目標指標の達成状況

指 標	達成状況
1. 「公共放送局化に向けた短期ロードマップ」が履行される。	<p>部分的に達成済み。プロジェクト終了時までの達成見込みは低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期ロードマップは経営委員会にて承認された。経営委員会はSSBCに対して、組織図の作成、予算計画の作成、予算計画の経営委員会への提出等、ロードマップを実行するよう促している。しかしながら進捗は遅い。
2. 「SSBCが国民に信頼される公共放送局となるための中長期ロードマップ」のセミナーシリーズが開催される。(目標値:プロジェクト終了までに計XX回)	<p>未達成。中長期ロードマップが承認されたのはプロジェクト最終年次であり、このためセミナー開催に十分な準備時間が割けないことから、セミナーの開催は困難である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4年次、2016年5～7月、C/P側の中長期ロードマップドラフト担当者が任命された。専門家は、同担当者の意見を基に、同ロードマップのフレームワークと内容の一部(案)を提示した。その後、同担当者が作成を進めているドラフトに対するアドバイスや修正案等の提案を行った。最終的に、ドラフトは2018年2月に最終化され、2018年6月1日の経営委員会にて承認された。 ※中長期ロードマップが第5年次に承認されるか否か予期できなかったことから、指標は空欄のままとなっている。
3. SSBCにおいて、放送機材運用・維持管理マニュアルにしたがって、放送機材運用・維持管理が行われる。	<p>部分的に達成済み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1年次から第2年次にかけて開発、更新された「機器運用マニュアル」[Rules on Operation of Broadcasting Equipment in SSTVR (ROE) Ver. 6]、「機材管理マニュアル」[Rules on Maintenance of Broadcasting Equipment in SSTVR (RME) Ver. 6]に沿って、機材リストや各種チェックリスト、報告様式を活用するかたちで放送運用記録、機材の修理記録、管理記録が確実に実施されている。しかしながら、予算不足のため、機材の運用・維持管理は必ずしもこれらのマニュアルに沿ったかたちでできているわけではない。
4. 研修を受けた職員により制作された番組数(目標値:プロジェクト終了までに15番組)	<p>達成済み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2年次には、ガイドラインの内容に沿った研修の効果として、計4本のテレビ番組、計2本のラジオ番組がケニア、ウガンダ、日本で制作され、SSTVとSSRにより放送された。 ・第3年次には、専門家の現場指導の下、計6本のテレビニュースリポート(「橋の見学」、「UNMISSに派遣されている自衛隊による孤児院訪問」など)が制作され、計7本のテレビ番組が制作された〔①Women's Forum「働く女性」(2015年6月)、②South Sudan Special「スポーツ振興」(2015年11月)、③South Sudan Special「東エクアトリア州の農場」(2015年9月)、④Express「女子教育シリーズ」2本(2015年11月)、⑤Express「スポーツ大会の効果」(2016年1月)、⑥Express「若年妊娠」(2016年1月)。加えて、1本のラジオ番組[South Sudan Special「東エクアトリア州の農場」(2015年9月)]も制作された。 ・第4年次にケニアで実施されたTICADVIに取材チームを派遣し、TICADのテレビニュースリポート6本(英語、アラビア語各3本)とTICADサブイベントのストレートニュース(英語、アラビア語各3本)を制作(2016年8月)。加えて、リオオリンピックに関する番

組、子どもが参加する新たな子ども番組“The Story of John Garang”を制作した。また、EXPRESS チームはワウでの撮影も行った。

- 第5年次、ToT（ウガンダ研修）では番組制作チームがカンパラの小規模農家（Home-site farming）による事業を取材し、番組を制作した（英語テレビ1本、アラビア語テレビ1本、英語ラジオ1本）。また、2017年8～9月にかけて、報道チームはウガンダ北部地域の難民キャンプを取材しており、9月中にニュースリポートを制作した。加えて、キガリでのToTでは、農業セクターのマイクロファイナンスについての番組が制作された。

表4-7-1 制作番組リスト

時 期	2年次	3年次	4年次	5年次	合 計
テレビ	4本	13本	16本	4本	37本
ラジオ	2本	1本	0本	3本	6本

出所：プロジェクト報告

5. 「記者ハンドブック」が職員へ配付された数（目標値：最少50冊）

第5年次中に達成される見込み

- 第3年次には、WG4が「記者ハンドブック」“SSBC Reporters and Broadcasters Handbook 2016”の策定を進めた（英語版ドラフト）。
- 第4年次の第8回JCCにおいて英語版ドラフトを承認、最終化（2016年7月6日）。アラビア語版も作成済み。
- 第5年次、ToT（ウガンダ研修）において、参加者（報道、番組制作、機材管理）へのハンドブックが配付され、ハンドブックの内容に係る専門家の講義も実施された（2017年8月）。したがって、SSBCの職員にはハンドブックのコンセプトについて習熟している者もいる。しかしながら、ハンドブックの正式な配付計画はまだできていない状況である。

6. 本プロジェクトにより倫理規範に関する報道研修を受けた職員数（目標値：150名）

達成済み

- 倫理規範に関する研修を受けた職員の全数は以下のとおり。
- 第1年次：計17名【内訳】本邦研修参加者幹部8名、番組制作5名、報道4名
- 第2年次：計78名【内訳】第2年次第三国幹部研修8名、番組制作4名、報道研修4名（2014年2月）、幹部研修8名、番組制作5名、報道5名（2014年6月）、幹部7名、番組制作4名、報道5名（2014年9月）、幹部8名、番組制作5名、報道5名（2014年11月）、番組制作5名、報道5名（2014年12月）
- 第3年次：計144名【内訳】報道、カメラ、編集ToT参加者8名、KBC講師による報道記者基礎研修延べ72名（2015年12月）、アルジャジーラ講師によるアラビア語での記者とプロデューサー向け研修参加者64名（2016年2月）
- 第5年次：計12名【内訳】ToT参加者（ウガンダ研修）（2017年8月）

表 4-7-2 倫理規範に関する報道研修を受けた職員数

時 期	1 年次	2 年次	3 年次	5 年次	合 計
人数	17 名	78 名	144 名	12 名	251 名

出所：プロジェクト報告

<p>7. SSBC 職員による放送内容が、プロジェクト開始時と比して改善される。</p>	<p>達成済み</p> <ul style="list-style-type: none"> 番組制作職員と報道職員は、企画作成・発表、技術者及び番組スタッフと連携したチームワークによるロケーション撮影、スタジオ・インタビュー、編集等について習得した技能・知識を活用し、複数のテレビ番組とラジオ番組を制作した。その結果、SSBC はこれらの情報価値のある番組により、正確、公平、中立な情報を南スーダンの国民に届けられるようになった。 JICA 専門家と SSBC 職員によると、プロジェクト開始当初と比較し、技術面と放送番組内容など、全般的に質の改善が認められている。特に、第 3 年次末に供与され、運用が開始されたトライキャスターの活用により、スタジオ演出の幅が広がっている。 第 5 年次、ウガンダ職員研修において ToT 参加者が制作した番組を視聴し、JICA 専門家、研修参加者による評価を行った。その結果、番組の独自性、正確性、社会情報性、ニュース情報性、時事問題性、地元の社会開発といった側面の評価が高かった。同番組は、人名及び場所のキャプションを入れ込み、音楽をつけたうえで放送された。アラビア語版も放送された。 番組の質はプロジェクト開始時と比較すると明らかに改善されている。しかしながら、職員はようやく基礎の理解が進んだ段階であり、更なる改善が必要である。
---	--

プロジェクト目標指標については一部未達成の項目はあるものの、指標はおおむね達成されており、また、上述のとおり各成果は達成あるいは達成に向けて成果が発現しつつある。よって、プロジェクト目標はプロジェクト終了までに達成される見込みである。

「公共放送局化に向けた短期ロードマップ」は作成され、ロードマップに沿った組織改編が進められているが、進捗は遅い（指標 1）。また、「南スーダンテレビ・ラジオが国民に信頼される公共放送局となるための中長期ロードマップ」については、2018 年 2 月に最終化され、2018 年 6 月の経営委員会にて承認された。だがプロジェクト終了までには同ロードマップに係るセミナーは実施されない見込みである（指標 2）。放送機材の運用・維持管理を徹底するためのマニュアルは作成されており、機材リストや各種チェックリストと報告様式を活用した記録が開始されている（指標 3）。また番組制作数については、目標値の 15 番組を超えた（指標 4）。さらにニュースリポートについては、18 本制作された。アウトプット 4 で述べた「記者ハンドブック」の配付については、第 5 年次にワークショップを開催して、職員に対して配付し、内容について説明する予定である（指標 5）。指標 6 の倫理規範に関する報道研修受講人数については、目標値の 150 名を大きく上回り、251 名である。最後に、放送内容については、プロジェクト開始当初と比較し、放送番組内容のみならず技術面も含め、全般的に質の改善が認められている。特に、第 3 年次末に供与され、運用が開始されたトライキャスターの活用により、スタジオ演出の幅が広がりつつ

ある。しかしながら、SSBC の番組制作能力はようやく基礎の理解が進んだ段階であり、更なる能力向上が必要である（指標 7）。

したがって、SSBC において、正確・公平な情報を国民に届けるメディアに必要とされる人材は育成されつつあると判断され、プロジェクト目標は達成される見込みである。

4-5 上位目標の達成見込み

上位目標の達成状況見込みに関し、確認されたのは以下のとおり。

上位目標：SSBC によって、正確・公平・中立な情報が国民に届けられる。

表 4-8 上位目標指標の達成状況

指標	達成状況																				
1. テレビ及びラジオの放送時間が増加する。(ベースライン 2012 年時点：テレビ 1 日当たり 12 時間、ラジオ 1 日当たり 9 時間)	<p>達成済み</p> <p>・【テレビ】1 日当たり 6 時間増加した。</p> <p>2012 年時点では、テレビ放送は 1 日当たり 12 時間であった。2015 年 10 月時点では、1 日当たり 15 時間放送 (9:00~24:00) を行っていた (2012 年と比較し、3 時間増加)。2017 年時点 (8 月) では、地上波、衛星放送ともに 1 日当たり 18 時間放送 (7:00~12:00) を行っている。</p> <p style="text-align: center;">表 4-8-1 1 日当たりのテレビ放送時間</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>2012 年</th> <th>2015 年</th> <th>2017 年</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放送時間</td> <td>12 時間</td> <td>15 時間</td> <td>18 時間</td> <td>6 時間増</td> </tr> </tbody> </table> <p>出所：プロジェクト報告</p> <p>・【ラジオ】1 日当たり 10 時間増加した。</p> <p>2012 年時点では、1 日当たり 9 時間であった。2015 年 7 月から 1 日当たり 24 時間の FM 放送を開始したが (2012 年と比較し 15 時間増加)、燃料不足から、2015 年 12 月時点では 18 時間 (6:00~24:00) 放送を行っている (2012 年と比較し 9 時間増加)。2017 年時点 (8 月) では、FM 放送は 1 日当たり 19 時間放送を行っている。</p> <p style="text-align: center;">表 4-8-2 1 日当たりのラジオ放送時間</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>2012 年</th> <th>2015 年</th> <th>2017 年</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放送時間</td> <td>9 時間</td> <td>24 時間</td> <td>19 時間</td> <td>10 時間増</td> </tr> </tbody> </table> <p>出所：プロジェクト報告</p>	時期	2012 年	2015 年	2017 年	増減	放送時間	12 時間	15 時間	18 時間	6 時間増	時期	2012 年	2015 年	2017 年	増減	放送時間	9 時間	24 時間	19 時間	10 時間増
時期	2012 年	2015 年	2017 年	増減																	
放送時間	12 時間	15 時間	18 時間	6 時間増																	
時期	2012 年	2015 年	2017 年	増減																	
放送時間	9 時間	24 時間	19 時間	10 時間増																	
2. 放送カバレッジエリアが増加する。(ベースライン 2012 年時点：<テレビ>地上波 40%、衛星 100%、<ラジオ> FM20%、中波 80%)	<p>達成見込みは低い</p> <p>・【テレビ】地上波は 40%から半径 70km に減少。衛星放送は 100%を維持。</p> <p>2012 年時点では、地上波 (アナログ) のカバレッジは国土面積の 40%であったが、デジタル化に対応するため、ウガンダ国境付近のアナログ停波を余儀なくされ、2015 年時点では 10%まで低下 (半径 40km)。衛星放送は 100%を維持。2017 年時点では、ブロードバンド・アンテナ・システムが設置され、地上波 (アナログ) は半径 70km、ジュバと</p>																				

周辺地域をカバーしている。衛星放送は 100%を維持。

表 4-8-3 放送カバレッジエリア（テレビ）

時 期	2012 年	2015 年	2017 年	増 減
地上波	40%	10%	70km	減少
衛星放送	100%	100%	100%	現状維持

出所：プロジェクト報告

・【ラジオ】FM は 20%を維持。中波は 80%から 0%に減少。

FM は 20%を維持（ジュバ地域のみ、半径 65km）。中波は 2013 年 12 月に勃発した紛争以前は 80%であったが、伝送機材の故障（スペアパーツ不足）によりパワーを落としているため、2015 年時点では 60%に減少。2017 時点では、FM は 20%（ジュバ地域のみ）（2012 年時点から変更なし）。中波は 0%（2012 年と比較し減少）。

表 4-8-4 放送カバレッジエリア（ラジオ）

時 期	2012 年	2015 年	2017 年	増 減
FM	20%	20%	20%	現状維持
中波	80%	60%	0%	80%減

出所：プロジェクト報告

3. SSBC により制作された番組数が増加する。
（ベースライン 2015 年時点：<テレビ>27 番組
中 22 番組は 100%SSBC による制作、4 番組は 50%SSBC による制作）

達成済み

・【テレビ】27 番組から 34 番組に増加

2015 年 12 月時点の編成表によると、SSBC の定時番組数は 27 番組、そのうち、SSBC が独自に制作しているのは 22 番組、編集のみに関与しているのは 4 番組である。2018 年 9 月時点では SSBC の定時番組数は 34 番組（SSBC 独自制作：29 番組、編集・放送のみに関与：5 番組）（英語、アラビア語）

・【ラジオ】21 番組から 30 番組に増加

2012～2013 年時点では定時番組数（英語のみ）は 21 番組であった。2018 年 9 月時点では、英語 26 番組、アラビア語 30 番組に増加した。

4. SSTVR により制作された番組の種類が増加する。（ベースライン 2012 年時点：<テレビ>教育（6）、政治（8）、エンターテインメント（3）、経済（2）、社会（8）、スポーツ（0））

達成済み

・【テレビ】5 種類から 7 種類（スポーツ、子ども番組の 2 種）に増加。

2012 年時点で、SSTV では 5 種類（①教育、②政治、③娯楽、④経済、⑤社会）の番組を制作、放送していた。2017 年 8 月時点の編成表によると、2015 年時点で SSBC により制作された番組の種類は 6 種類（①教育、②政治、③娯楽、④経済、⑤社会、⑥スポーツ）と増加していた。そして 2016 年の 6 月～7 月期には子ども番組の制作を開始した（テレビ、ラジオ両方）。加えて、2016 年 8 月のオリンピック期間中には専門家がジュバ入りできなかつたにもかかわらず、リオにおける独自取材映像も交えて、毎日 17 時～20 時の枠で特別番組を放送した。さらには、スタジオ演出でトライキャスターの利用が進んでおり、演出の幅が広がっている。

上位目標の達成のためには、治安が回復し安定した状況になり、公共放送局の機能が十分に発揮できるような状況になることが必要である。SSBC が「正確・公平・中立な情報」を放送するための能力はある程度向上しているが、それらを広く国民に届けるためにはまずはカバレッジエリアを拡大することが必要である。しかしながら、カバレッジエリアがほぼジュバ中心部に限られているため、この条件は満たされていない。したがって、上位目標の達成の見込みは高いとは判断できない。

ラジオ、テレビの放送時間枠や SSBC により制作された番組数は増えており、数値的な目標は達成している。しかしながら、電力や燃料不足、資金不足でしばしば電波が止まることから、実質的な意味では「達成している」とはいえない。また、人員・番組制作予算が限られていることから、コンテンツが限られ、まだ番組、ニュースの再放送が多い状況である。地方の治安が悪化していることから、地方には放送が行き届いておらず、将来のネットワーク拡大については楽観視できない。予算についても不足している。こうしたなかでも、プロジェクトの能力向上研修によって現場の職員が自助努力で、ニュース・番組の多様化や技術上のさまざまな工夫をしており、放送内容はプロジェクト開始時に比べて画期的に向上していることは特記する必要がある。放送内容の向上は 2018 年 9 月のエンドライン調査においても確認された。視聴者・聴取者は SSBC の番組について、質・技術面ともに向上したことを認識していると同調査は結論づけている。視聴者・聴取者は放送時間及び放送言語が増加したことを高く評価している。

4-6 プロジェクトの実施プロセス

4-6-1 プロジェクトマネジメント

(1) 合同調整委員会 (JCC)

JCC は毎年 2 回会合を開き、年間ワークプランの協議や承認、活動進捗のモニタリング、達成度の確認のほか、PDM の改訂を行っている。本調査時点までに、JCC 会議は計 10 回開催されている。

表 4-9 JCC 開催状況

	開催日・場所	協議内容
1	2013 年 1 月 21 日 ジュバ	JCC メンバー、JCC 会議の予定、PDM (Ver.0)、研修計画、WG の形成に係る承認
2	2013 年 10 月 15 日 ジュバ	ベースライン調査の報告、PDM (Ver.1) の承認、2013 年度の調達機材リストの承認、SSTVR による人員配置と機材維持管理に係る予算措置の協議
3	2014 年 2 月 21 日 ケニア	南スーダンの不安定な治安情勢に伴う、当初計画の変更と第三国研修によるプロジェクトの継続についての承認、PDM (Ver.2) の承認
4	2014 年 9 月 5 日 ウガンダ	南スーダンでの活動の再開見込み、プロジェクト活動の進捗レビュー、第 2 年次のワークプランの提案と協議、技術協力成果品に係る変更
5	2015 年 2 月 24 日 ジュバ	第 2 年次の活動のレビュー、第 3 年次の活動計画の承認、PDM (Ver. 3.2) の改訂、技術協力成果品に係る変更

6	2015年10月12日 ジュバ	中間レビューで提言に基づく、改訂 PDM (Ver.4) 及び機材調達計画の合意
7	2016年7月6日 ジュバ	SSBC 経営委員会と JCC メンバーとの協力。改訂 PDM (Ver.6.0) 及び PO 承認改訂。第4年次活動計画の合意。機材調達計画。“Reporters and Broadcasters Handbook” の承認
8	2016年11月24日 カンパラ (ウガンダ)	カンパラ協議を開催し (MOICTPS、SSBC、JICA 本部・南スーダン事務所、JICA 専門家) が参加。プロジェクト活動の再開に向けての協議を行い、R/D の改訂手続きを進めることを合意
9	2017年7月27日 カンパラ (ウガンダ)	改訂 R/D (2017年5月26日署名) の確認。SSBC 発足にともなう、プロジェクト名変更 (旧 : SSTVR→新 SSBC) の合意、改訂 PDM (Ver.7.0) の合意。第5年次活動計画 (PO) の合意
10	2018年5月17日 テレビ会議	第5年次活動計画及び機材調達リストに係る合意。終了時評価報告書最終化に至る方法について合意

出所：プロジェクト報告

(2) ワーキンググループ

JCC の下、4つの成果を管理するうえで、WG が4グループ設置された。本調査時点では、とりわけ WG2 が JICA 専門家が南スーダンへ派遣されていない期間中もよく機能している。WG3 及び WG4 のリーダーらは SSBC 内での集合研修を開始している。

表 4-10 ワーキンググループ任務内容

WG	任務内容
1	成果1に関し、WG1 は SSTVR を公共放送局へ改編するための詳細計画の策定に従事する。
2	成果2に関し、放送機材の運用・維持管理に係る WG2 は、関連職員の能力を改善するために、現状分析、マニュアルの開発を担う。
3	成果3に関し、番組制作に係る WG3 は関連職員の能力を向上するために、現状分析と番組制作ガイドラインの開発を担う。
4	成果4に関し、報道に係る WG4 は関連職員のプロフェッショナリズムの意識を向上するために、現状分析、ジャーナリストのための倫理規範及びハンドブックの作成を担う。

出所：プロジェクト報告

(3) メディアセクターにおける他組織との協力

第1年次に開催した、本プロジェクトのローンチングセミナーやアクションプランシンポジウムでは、開発パートナーや現地メディアに対し、プロジェクトに関する情報を共有し、SSTVR の公共放送局化について、意見交換を行った。第2年次には、南スーダン、ケニア、ウガンダの3カ国公共放送セミナーの開催を通し、ケニア放送公社 (Kenya Broadcasting Corporation : KBC) とウガンダ放送公社 (Uganda Broadcasting Corporation : UBC) との連携を強化した。さらに、第4年次には、2016年2月に、ルワンダ放送公社 (Rwanda Broadcasting Agency : RBA) と共同で「キガリ・ワークショップ」と銘打って幹部向けのワークショップを開催した。第5年次には、SSBC は2017年7月に UBC と、2018年2月に RBA との間で

合同ワークショップを開催した。

4-6-2 プロジェクト活動の実施に影響を与えた外部要因

(1) 紛争の勃発による影響

- ・2013年12月に発生した武力衝突の後、治安情勢が悪化し、JICA 専門家の南スーダンへの渡航は1年2カ月にわたり制限された。2015年2月に実施されたJCCでは、PDMを改訂し、「南スーダンの治安状況が改善され、日本人専門家の再派遣が可能となる」を外部条件として加えた。この間、プロジェクト活動は、選抜された中核となるC/Pを対象に第三国研修のかたちで継続されたものの、南スーダンの地域社会をテーマとする番組制作などのOJT活動は実施できなかった。また、研修に参加しなかったSSBCに勤務する職員は、プロジェクト活動に参加できなかった。加えて、2016年7月に2度目の武力衝突が発生し、現在に至るまで専門家は現地渡航ができない状況となっている。不安定な治安状況のため、SSBCを退職してしまった職員もいる。
- ・第1年次に実施されたベースライン調査でも指摘されているとおり、2005年の包括的和平合意締結まで、20年以上にわたる紛争の影響により、SSBCの施設・機材は老朽化が進んでいる。放送の質を担保するためには、機材の更新及び施設の改修が急務となっている。しかしながら、第1年次に計画されていた機材調達のプロセスは専門家が第3年次に再派遣されるまで中断された。これは、供与機材が、JICA 専門家による立会いと技術指導の下、SSBCの職員により、適切に設置、運用、管理できるようにするための対応措置であった。

第5章 評価結果

各評価項目は5段階（高い、やや高い、中程度、やや低い、低い）で判断された。影響を与えた正の要因は「+」で、負の要因は「-」で示されている。

5-1 妥当性

以下の要因により本プロジェクトの妥当性は高いと評価される。

本プロジェクトの目標及び活動は、以下に述べる南スーダン政府の政策と戦略、及び日本の対南スーダン援助方針、プロジェクトデザイン、ターゲットグループの選択との整合性があることが確認された。

5-1-1 南スーダンにおける政策との整合性

・「+」プロジェクトは以下の開発政策、メディア関連法と整合性がある。

(1) 南スーダン開発計画 2011～2016年（South Sudan Development Plan 2011-2013 extended to 2016）

南スーダン開発計画 2011～2016年は4つの重点分野を掲げている（①ガバナンス、②経済開発、③社会的人材開発、④紛争予防と安全保障）。本プロジェクトはSSBCによる正確・公平な情報を国民へ届けることで、これら重点分野がめざす、民主化の促進、政府の透明性とアカウンタビリティの確保、生計向上を通じた持続可能な開発、国民の健康と尊厳の推進、人権の尊重、すべての人々の自由の原則に貢献するものである。

(2) 公共放送局法（The Broadcasting Corporation Act, 2013 – Act No. 63）

公共放送局法は、独立した公共放送局を構築することを定めている。同法律に基づき、SSTVRはSSBCに改編し、同法発効から5年後には、受信料、公共の補助金、広告、スポンサーシップ、他の商業活動や寄付により、独立採算性を確立することが求められている。

(3) 独立メディア規制局法（The Media Authority Act, 2013 – Act No. 64）

2014年9月に成立した独立メディア規制局法は、憲法及び国際的に保障された、表現の自由の保障に基づき、南スーダンのプレスカバレッジを監視し、苦情を取り扱う独立組織の設置を定めている。放送セクターの規制機関は独立組織であり、政治面、及び経済面の干渉から適切に保護されるものと定めている。

(4) 情報アクセス法（The Right to Access to Information Act, 2013 – Act No. 65）

情報アクセス法は、国家の安全保障を脅かす情報や個人のプライバシーを脅かす情報でない限り、ジャーナリストを含む、すべての国民に対し、公的な情報を入手することが保障されると定めている

5-1-2 プロジェクトデザインとの整合性

・「+」本プロジェクト開始時に実施されたベースライン調査及び現状分析において明らかとなったSSBCの課題は以下のとおり：研修経験の不足、放送と放送機材に必要な基礎知識の不足、

長年にわたる紛争の結果による放送施設機材の老朽化、情報源である政府への依存過多、倫理規範及び各種ガイドラインの欠如による職員の低いモラル等。これらの課題を踏まえ、本プロジェクトは、国民に信頼される公共放送局へのロードマップと組織ビジョンを策定するとともに、技術、番組制作及び報道に関連する職員の能力を強化することで、南スーダンの人々に正確で公平な情報を届けるための人材を育成することをめざす枠組みとなっている。したがって、本プロジェクトのデザインとアプローチは、南スーダンのメディア開発の戦略として適切であるといえる。

5-1-3 対象機関及びターゲットグループのニーズとの整合性

- ・[+] 本プロジェクトは、SSBC の人材育成のニーズ、及び放送局としての組織強化のニーズとの整合性が高い。SSBC はかつて国で唯一の国営放送局であり、公共放送局への移行の準備段階にある。SSBC は公共放送局の使命として、南スーダンの文化及び民族の多様性に配慮した、正確かつ公正なニュースレポート、及び制作番組を配信することにより、より良い市民社会の形成に貢献することが期待されている。したがって、本プロジェクトの対象グループとして、SSBC の技術、番組制作、報道に従事する職員を選定し、業務の質の向上を図ることは適切である。

5-1-4 日本の援助政策との整合性

- ・[+] 日本政府は対南スーダン共和国援助方針（「事業展開計画」2011年11月）において、援助重点分野の1つとして、新国家建設支援を開発課題として掲げている。新国家の機能整備にあたり、ガバナンスに係る課題等が山積している現状にかんがみ、行政能力強化、及び民主的國家建設の推進を図る、協力プログラム「行政能力強化プログラム」が実施されており、本プロジェクトは同プログラムに位置づけられている。

5-2 有効性

以下の要因から、本プロジェクトの有効性は中程度と判断される。

5-2-1 プロジェクト目標及び成果の達成見込みと因果関係

- ・[+] 「4-4 プロジェクト目標の達成状況」で述べたとおり、プロジェクト目標は、4つの成果によりポジティブな結果がもたらされており、残された期間で、ある程度は達成されると推測される。プロジェクト目標達成への貢献要因として、JICA 専門家による技術指導の下、WG メンバーと第三国研修参加者により開発された成果品（付属資料5.参照）が挙げられる。これら成果品の活用により、国民へ公平で正確な情報が届けられることをめざした人材の能力強化が促進されると考えられる。
- ・[-] 他方、研修を受けた職員が有効かつ正確な業務パフォーマンスを実現するうえで、SSBC の職場環境に障壁が残されているといえる。第1年次にSSBC 内で実施されたベースライン調査でも指摘されているとおり、局内のあらゆる部署における、不適切な組織構造及び人材管理といった課題が残されている。
- ・[-] JICA 専門家の南スーダンへの派遣が中断された期間、第三国研修や本邦研修に参加したSSBC 職員を、JICA 専門家が直接現場でフォローアップすることができなかった。番組制作及

び報道の中核的メンバーの能力強化は進んだものの、今後、SSBC 内で知識や技能が継承されるよう、どのように人材育成の枠組みを構築するかといった課題が残されている。

5-2-2 プロジェクト目標達成への外部条件

- ・[+/-] メディア関連法は施行されたものの、それらが完全に実施されるまでにはまだ時間を要する。公共放送局法に沿って 2016 年 2 月に SSBC 経営委員会が設置されたが、これは法的に SSBC を公共放送局と位置づけるものである。
- ・[-] 現在も、SSBC の放送内容については、SSBC 内の編集方針である“Editorial Policy”によってコントロールされている。

5-3 効率性

以下の要因から、本プロジェクトの効率性は中程度と判断される。

5-3-1 各成果の達成状況

- ・[+/-] 「4-3 成果の達成状況」で述べたとおり、本調査時点で成果 1 及び 2 の指標はある程度達成されている。また、成果 3、成果 4 の指標は、おおむね良い方向に進捗している。他方、研修を受けた中核的人材となる職員のスキルと知識が、本調査時点では、組織内で完全には伝達されておらず、成果の達成が理想的なレベルまで達しているとは必ずしもいえない。

5-3-2 成果達成への貢献要因・阻害要因

(1) 貢献要因

- ・[+] <経験豊富な講師とトレーナーによる研修カリキュラムの質の高さ>：第三国研修と本邦研修において、SSBC 職員はテレビとラジオ番組制作及びニュースリポートの制作プロセスに関する実習に参加した。NHK からの専門家チームはさまざまな基礎的ツールや手法を紹介した。SSBC 職員はこれらツールを適切に活用することで、リソースが極めて不足している状況であっても、事前のリサーチ、ストーリー構成、カメラワーク、原稿作成、編集及び機材の修理等に係る業務の効率性と質を徐々に向上しつつある。
- ・[+] <チームワークの促進>：WG2、WG3、WG4 のメンバーに加え、OJT 活動に参加したその他職員は、チームワークの重要性を認識している。WG2 による朝ミーティングの導入は、機材運用及び維持管理に従事する職員の間で、業務の質を維持するうえで欠かせない情報共有を促進している。
- ・[+] <ジェネレーター導入による電源の安定性の確保>：第 1 年次のジェネレーター導入以前は、SSBC は頻繁に起こる停電に悩まされていた。本プロジェクトと南スーダン政府によるジェネレーターの導入により、SSBC の技術力が向上した。
- ・[+] <隣国の公共放送局との協力>：国営放送局から公共放送局への移行の経験を有する KBC 及び UBC からの協力は、第三国研修の成功に貢献した。これら公共放送局において、SSBC からの研修参加者は、SSBC の機材と同等な機材を用いて質の高い番組が生み出されている現場の運用状況を、直接見学することができた。
- ・[+] <JICA の他プロジェクトとの連携>：JICA の技術協力により、農業省は農業振興のためのマスタープランの開発を行った。SSBC では、南スーダンの復興に向け、国民の認識を高め

るための特別番組専従班が設置された。同専従班は、農業セクターを取り上げ、ニュースリポートを含むテレビ番組とラジオ番組を制作する予定である。農業プロジェクトの JICA 専門家や農業省の C/P との連携を通じた相乗効果が期待される。

(2) 阻害要因

- ・[－] <機材調達の遅延> : 「4－2 活動実績」及び「4－6－2 プロジェクト活動の実施に影響を与えた外部要因」で述べたとおり、2013年12月に発生した武力紛争により、本プロジェクトの効率性は、投入のタイミングの面でマイナスの影響を受けた。第1年次のベースライン調査の結果でも指摘されたとおり、長年にわたる紛争の影響で、SSBC の施設機材は既に老朽化が進んでいる状態であった。放送の質を担保するには、既存の機材の更新と施設の改修が急務となっていた。
- ・[－] <WG3 と WG4 の SSBC の現場研修の不足> : SSBC での本プロジェクト活動が第2年次中、中断されたため、番組制作の WG3、及び報道の WG4 は実質的に機能することができなかった。そこで、第3年次初めに、成果3と成果4の活動を活性化するために、新たなメンバーにより WG3 と WG4 を再結成することとなった。
- ・[－] <活動再開の遅延> : 2016年7月にジュバで武力衝突が起こり、専門家の南スーダン渡航が再びかなわなくなった。第5年次、2017年7月に第三国研修が再開されるまで、プロジェクト活動は1年以降にわたり中断された。第三国研修では OJT というかたちでの研修はできない。また、日本人専門家と SSBC は遠隔でコミュニケーションせざるを得ず、これによりプロジェクト活動がある程度制限された。
- ・[－] <研修の言語> : プロジェクトにおいて、研修は主に英語で行われたが、SSBC の大半の職員はアラビア語を話している。日々の OJT をよりスムーズに実施するためには、英語-アラビア語の通訳を備上することも選択肢の1つであったと考えられる。

5－4 インパクト

上位目標の指標はプロジェクト期間終了から約3年後に達成されるには極めてチャレンジングであることから、本プロジェクトのインパクトは中程度と見込まれる。しかしながら、以下のとおりプロジェクトにより好ましい波及効果が発生すると見込まれる。

5－4－1 上位目標の達成見込み

- ・[－] 上位目標の達成のためには、治安が安定し、公共放送の機能が十分に発揮できるような状況になることが必要になる。正確・公平・中立な情報を届ける職員の能力はある程度向上しているものの、それらを広く国民に届けるための条件は満たされていない。したがって、上位目標の達成の見込みは高いとは判断できない（上位目標の各指標にかんがみた達成状況の確認については、「4－5 上位目標の達成見込み」参照）。
- ・[＋／－] ラジオ、テレビの放送時間枠や SSBC により作成された番組数は増えており、数値的には目標を達成している指標もあるが、電力や燃料不足、機材の保守予算不足でしばしば電波が止まったり、番組、ニュースの再放送が多かったり、実質的な達成とはいえない。職員人数の不足により、番組数をさらに増加させることは難しい。また、地方の治安悪化により地方には放送が行き届かず、将来のネットワーク拡大の見通しは明るくない。また予算的な制約も

ある。他方、こうしたなかでも、プロジェクトによる能力向上研修によって現場の職員がさまざまな工夫と自助努力を行い、ニュース・番組は多様化し、技術的な向上を遂げた。放送内容はプロジェクト開始時に比べて画期的に向上していることは特記する必要がある。

5-4-2 南スーダンの社会経済面へのインパクト

- ・[+] 第三国研修及び本邦研修中に、SSBC 職員は、南スーダンの国民の興味に応えるような社会経済的なテーマを取りあげ、テレビ番組とラジオ番組を制作した。また、第3年次から第4年次にかけて、特別番組専従班により制作された情報性の高い番組が放送され、国家建設に資する農業セクターのさまざまなテーマに関し、国民の認識が高まることが期待される。
- ・[+] 本プロジェクトでは、公共放送局の概念に関し、SSBC 職員の認識の向上を図っているが、本プロジェクトの実施による負の影響はこれまで確認されていない。

5-4-3 上位目標とプロジェクト目標の論理性

- ・[+/-] プロジェクト目標では人材育成を図り、上位目標で、これら育成された人材が制作する番組が放送されるという論理性は確保されているが、人材が育成されるという条件のみで、上位目標を達成するのは困難である。プロジェクトでは、人材の条件以外に、施設機材面、財政面など、番組を制作し、放送するための基本的な条件を満たす必要がある。人材面以外のこれらの条件についても、プロジェクト内で議論され、将来的に対応すべき対策が、中長期ロードマップで指摘された。

5-5 持続性

本プロジェクトの持続性は以下の要因からやや低いと評価される。技術レベルの向上はみられるため、民主化が進むことにより、持続性の評価は高まると考えられる。

5-5-1 制度・政策面

本プロジェクトの政策面の持続性は高いと見込まれる。

- ・[+] 「5-1 妥当性」で述べたとおり、メディア関連法（公共放送局法、独立メディア規制局法、情報アクセス法）により、国営放送局である SSTVR を公共放送局 SSBC へ改編する政策は維持されることが期待できる。加えて、プロジェクトそのものが中長期ロードマップの作成に貢献しているが、それにより政策面からのプロジェクトの持続性を高めているといえる。

5-5-2 組織面

本プロジェクトの組織面の持続性は中程度である。

- ・[+] 「公共放送局化に向けた短期ロードマップ」が履行され、「国民に信頼される公共放送局となるための中長期ロードマップ」が策定され、SSBC 経営委員会が設立された。したがって、組織面では本プロジェクトの効果の持続性を担保することができると期待される。
- ・[-] SSBC は引き続き人員配置、Terms of Reference (TOR) の明確化、組織改編といった人材管理面での課題に直面している。仮に SSBC による労働環境の改善がかなわない場合、SSBC から熟練職員の退職が続き、組織面での持続性を損なうことが考えられる。

5-5-3 財政面

本プロジェクトの財政面の持続性は低い。

- ・[-] 元国営放送局として、SSBC は暫定期間 (transitional period) において引き続きその財源を政府からの予算配賦に依存している。現状では特にスペアパーツや機材の更新、施設の改修など、日常業務の質を維持するうえでの必要予算の拠出が不十分な状況である。プロジェクトでは中長期ロードマップの一環として、SSBC の財政管理の能力向上を図っているところである。中間レビューで指摘された資金調達の課題は、依然として深刻であり、脆弱な組織体制、財務・人事管理、劣悪な労務環境といった課題は改善していない。
- ・[-] 給与の不払い及び施設改修の遅れも深刻な課題である。武力衝突が終わり公共の秩序が回復するまでには、財政面の持続性を高めるような、正常な予算配賦は期待できない。

5-5-4 技術面

本プロジェクトの技術面の持続性はやや高い。

- ・[+] 本プロジェクト以前は、SSBC で所有していたジェネレーターはキャパシティが小さいうえ、電力の供給は不安定だったことから、放送時間中であっても週に2回ほど、停電が発生していた。第1年次に、容量の大きいジェネレーターが本プロジェクトより1台供与され、同時に、SSBC 側の努力により、大統領府所有のジェネレーターが急遽配置されることとなった。それ以降、SSBC は電力供給の安定性が確保され、放送も継続的に行われるようになった。
- ・[+] 付属資料5に記載のとおり、SSBC のC/Pは、機材の運用及び維持管理に関する各種マニュアルや様式を開発し、技術力の持続性に貢献している。「記者ハンドブック」及び番組専任班のOJTチェックシートに関しては、職員が日々業務を遂行する際に、参考にすることができるものである。これら実用的な成果品のほか、番組制作ガイドラインや報道倫理規範など、その理念及び概念を取りまとめたガイドラインは、本プロジェクトによる技術移転の持続性を担保するものである。
- ・[-] 新人職員を研修・育成する環境は脆弱であり、組織能力の持続性の観点からは課題が多い。
- ・[+] ToT研修に参加した職場リーダーにより編集者、カメラマンを含む報道及び番組制作担当職員の研修計画がつくられ、SSBC 内で実際に職員研修が開始されている。

5-5-5 阻害要因

- ・[-] 武力紛争の影響により、SSBC マラカル支局は完全に壊滅されてしまった。また、本調査時点でも、燃料不足が放送用の電力供給に影響を及ぼしており、これは中間レビューのときと全く変わっていない。

第 6 章 PDM の改訂

中間レビューの結果を踏まえ、PDM Ver.3.2 は PDM Ver.4.0 に改訂されている。さらに、継続的な議論を通して改訂されており、現在は PDM Ver.7.0 である。Ver.3.2、Ver.4.0、Ver.7.0 の比較を以下表に示す。なお、PDM Ver.6.0 から Ver.7.0 への改訂事項は組織名の変更（SSTVR から SSBC）のみである。改訂版 PDM は付属資料 1.を参照。

(1) 対象グループ

	Version 3.2 (2015 年 2 月改訂)	Version 4.0 (2015 年 10 月改訂)
対象グループ	/	MOIB 職員、SSTVR 職員 【理由】R/D の内容に基づきターゲットグループの記載を追記。

(2) 指標と指標データ入手手段の改訂

	Version 3.2 (2015 年 2 月改訂)	Version 4.0 (2015 年 10 月改訂)	Version 7.0 (2017 年 3 月改訂)
上位目標：SSBC によって、正確・公平・中立な情報が国民に届けられる。			
指標	① SSTVR の視聴者の増加	1) <u>テレビ及びラジオの放送時間が増加する。</u> (ベースライン 2012 年時点：ラジオ 1 日当たり 9 時間、テレビ 1 日当たり 12 時間)	
		2) <u>放送カバレッジエリアが増加する。</u> (ベースライン XXXX 年時点：XX%) 【理由】上位目標にある「届けられる」とは送り手側の SSTVR が行う行為である。一方、「視聴者の数」といった、受け手側で変化が現れるのは、その次の段階の話であるうえ、複数の外部条件にも左右されることから、プロジェクト目標と乖離した上位目標の「指標」設定となっていた。SSTVR 側で「届けられる」の変化を計測できる、定量データに改訂した。	2) 放送カバレッジエリアが増加する。(ベースライン 2012 年時点：<テレビ> 地上波 40%、衛星波 100%、<ラジオ> FM20%、中波 80%) 【理由】数値を追加。
	② SSTVR の放送内容の信頼性に対する視聴者の認識の変化	3) <u>SSTVR により制作された番組数が増加する。</u>	3) SSBC により制作された番組数が増加する。(ベースライン 2015 年時点：<テレビ>27 番組中、22 番組は 100% SSTVR による制作、4 番組は 50% SSBC による制作) 【理由】数値を追加。
		4) <u>SSTVR により制作された番組</u>	4) SSBC により制作され

		<p>の種類が増加する。(ベースライン 2015 年時点：XXX)</p> <p>【理由】上位目標にある「届けられる」とは送り手側の SSTVR が行う行為である。一方、「視聴者の認識」といった、受け手側で変化が現れるのは、その次の段階の話であることからプロジェクト目標と乖離した上位目標の「指標」設定となっていた。「正確・公平・中立な情報」を測る指標として、プロジェクト目標レベルで番組ガイドラインなどが遵守されているとの想定の下、独自に制作された番組数や番組の種類といった、SSTVR 側で把握可能な、情報の変化に関連する、定量データに改訂した。</p>	<p>た番組の種類が増加する。(ベースライン 2012 年時点：<テレビ>教育 (6)、政治 (8)、エンターテインメント (3)、経済 (2)、社会 (8)、スポーツ (0))</p> <p>【理由】数値を追加。</p>
指標データ入手手段	<ul style="list-style-type: none"> ・SSTVR の視聴者数調査記録 ・SSTVR の放送内容 ・視聴者対象の聞き取り調査 ・SSTVR 幹部及び関係者の聞き取り調査 	<p>【削除】</p> <p>上記のとおり指標改訂に伴い、以下、入手手段に改訂。</p>	
		<ol style="list-style-type: none"> 1) 放送記録 2) 放送カバレッジエリアの技術データ 3) SSTV 及び SSR の週間編成表 4) SSTV 及び SSR の週間編成表 	
<p>プロジェクト目標：SSBC において、正確・公平な情報を国民に届けるメディアに必要とされる人材が育成される。</p>			
指標		<ol style="list-style-type: none"> 1) 「<u>公共放送局化に向けた短期ロードマップ</u>」が履行される。 <p>【理由】成果 1 で完成した、「短期ロードマップが履行される」を追加した。</p>	
		<ol style="list-style-type: none"> 2) 「<u>SSTVR が国民に信頼される公共放送局化となるための中長期ロードマップ</u>」のセミナーシリーズが開催される。(目標値：プロジェクト終了までに計 XX 回) <p>【理由】成果 1 で完成した、中長期ロードマップが周知されることを想定し、セミナー実施を指標として追加。</p>	
	2) SSTVR において、番組制作ガイドライン	<ol style="list-style-type: none"> 4) 研修を受けた職員により制作された番組数 (目標値：プロジェクト終了までに計 XX 回) 	

	が作成され、遵守される。	<u>ト終了までに 15 番組)</u> 【理由】左記の番組制作ガイドラインに従い、番組制作が「遵守される」という状態の定義が不明瞭であったことから、入手手段が明らかな定量データに改訂した。	
	3) SSTVR 職員が倫理規範及び「記者ハンドブック」の内容を理解し、これを利用した報道を行う。	5) 「 <u>記者ハンドブック</u> 」が職員へ配付された数(目標値:最少 50 冊) 【理由】左記「報道を行う」については、指標 4 (制作番組数) でみていく。「記者ハンドブック」は携帯され、必要時に参照するものであると想定されている。また、理解度の変化の計測は、本調査時点では行われておらず、現実的でないため、入手可能かつ定量的な指標に改訂した。	
		6) <u>本プロジェクトにより倫理規範に関する報道研修を受けた職員数</u> (目標値: 150 名) 【理由】倫理規範の理解度の変化を測る入手手段が確保されていなかったことから、入手可能な定量データに改訂した。	
	4) SSTVR 職員による放送内容が、プロジェクト開始時と比して改善される。	7) <u>SSTVR 職員による放送内容が、プロジェクト開始時と比して改善される。</u>	
指標データ入手手段		1) <u>プロジェクト報告書</u>	
		2) <u>セミナー開催記録</u>	
	・放送機材運用・維持管理記録	3) <u>放送機材運用・維持管理記録</u>	
	・SSTVR の番組制作記録 ・視聴者対象の聞き取り調査 ・SSTVR の番組放送記録 ・SSTVR 幹部及び関係者の聞き取り調査	【削除】 上記のとおり指標改訂に伴い、以下、入手手段に改訂。	
		4) <u>プロジェクト報告書</u> 5) 「 <u>記者ハンドブック</u> 」の配付記録 6) <u>倫理規範に関する研修の参加者名簿</u> 7) <u>SSTVR の放送内容に関するメディア専門家の意見</u>	

成果1：SSBCにおいて、公共放送局化に向けた組織運営上の課題が明確化され、同課題解決のための対処方針及び組織ビジョンがまとめられる。			
指標	1) 公共放送局化に向けた課題、同課題に対する対処方針、及び組織ビジョンが SSTVR 及び MOIB のなかで共有される。	【削除】 【理由】短期ロードマップ、及び中長期ロードマップのなかで、「組織ビジョン」は明記されること、「公共放送局化への課題と対処方針」の議論を踏まえて、これらロードマップが作成されることから、以下指標と重複している。	
	2) SSTVR の公共放送局化に向けた短期ロードマップが作成され、新組織の経営層に参照される。	1) SSTVR の公共放送局化に向けた短期ロードマップが完成する。 【理由】「作成される」のは、活動レベルの表記と同様であることから、成果レベルでは、その次の段階「完成する」と設定した。また、新組織の経営層に同ロードマップが参照されるだけでなく、実施されることが不可欠であるため、プロジェクト目標レベルで、「履行される」を設定した。	
	3) SSTVR が国民に信頼される公共放送局化となるための中長期ロードマップ（予算計画含む）が作成される。	2) SSTVR が国民に信頼される公共放送局化となるための中長期ロードマップが完成する。 【理由】「作成される」のは、活動レベルの表記と同様であることから、成果レベルでは、その次の段階「完成する」と設定した。	
指標データ入手手段	・SSTVR 及び MOIB の、公共放送局化に関する記録・計画文書 ・SSTVR 幹部及び関係者の聞き取り調査	【削除】 上記のとおり、指標改訂に伴い削除。	
	・SSTVR の公共放送局化に向けた短期ロードマップ ・SSTVR が国民に信頼される公共放送局化となるための中長期ロードマップ	1) SSTVR の公共放送局化に向けた短期ロードマップ 2) SSTVR が国民に信頼される公共放送局化となるための中長期ロードマップ	
成果2：SSBCにおいて、職員の放送機材運用・維持管理に係る能力が向上する。			
指標	1) 現状の放送機材運用・維持管理に係る職員体制及びそれぞれの役割が明確化される。	1) 現状の放送機材運用・維持管理に係る職員の役割が明確化される。 【理由】職員の要員計画策定と実施、部署内の組織改正に関しては、公共放送局化に伴う、組織全体の改造に関連すること、また、職員	1) 現状の放送機材運用・維持管理及び関連する予算管理に係る職員の役割が明確化される。 【理由】機材予算管理体制の明確化は、供与機材が適切に

		の「能力の変化」の外部的要素であることから、本プロジェクトの枠組みで実施可能な「職員の役割が明確になる」までの段階を目標とした。	運用管理され、支援が持続可能となるために必要であり、追加。
	2) SSTVR が目標とする放送機材運用・維持管理に係る要員計画が具体化される。	【削除】 【理由】 同上	
	3) 目標とする要員計画に基づき、適切な要員配置が実施される。	【削除】 【理由】 同上	
	7) 放送機材運用・維持管理マニュアルが作成される。	5) <u>作成された放送機材運用・維持管理マニュアルが配付される。</u> 【理由】 マニュアルが「作成される」は、活動レベルの表記内容と同様であることから、成果指標レベルでは、その次の段階「配付される」と改訂した。	
指標データ入手手段	<ul style="list-style-type: none"> ・放送機材運用・維持管理に係る要員計画 ・放送機材の維持管理計画 ・SSTVR 幹部及び関係者の聞き取り調査 	【削除】 上記のとおり、指標の改訂に伴い、以下の入手手段に改訂。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・OJT 実施記録 ・OJT 成果確認チェックリスト ・放送機材運用・維持管理マニュアル ・放送機材維持管理状況の記録簿 	<u>1) WG2 によるプロジェクト報告書</u> <u>2) OJT 成果確認チェックリスト</u> <u>3) 放送機材運用・維持管理マニュアル</u> <u>4) 放送機材維持管理状況の記録簿</u> <u>5) 放送機材運用・維持管理マニュアルの配付記録</u>	
成果 3：SSBC において、番組制作を担当する職員の番組制作能力が向上する。			
指標	1) 現状の番組制作に係る職員体制及びそれぞれの役割が明確化される。	1) <u>番組専従班が機能する。</u> 【理由】 職員の要員計画策定と実施、部署内の組織改正に関しては、公共放送局化に伴う、組織全体の改造に関連すること、また、職員の「能力の変化」の外部的要素といえる。本プロジェクトの番組制作の枠組みで実施可能な指標に改訂した。	
	2) SSTVR が目標とする番組制作に係る要員計画が具体化される。	【削除】 【理由】 同上	
	3) 目標とする要員計画	【削除】	

	に基づき、適切な要員配置が実施される。	【理由】 同上	
	5) 番組制作ガイドラインが作成され、運用される。	3) <u>番組制作ガイドラインが完成する。</u> 【理由】 番組制作ガイドラインが「作成される」は、活動レベルの表記と同様であることから、成果指標レベルでは、その次の段階である「完成する」に改訂した。また、その次の段階として、プロジェクト目標指標 4 を設定した。	
			4) <u>番組制作担当者の、3つのテクニカル・キャパシティのスコアが上昇する (ベースライン 2016 年 6 月時点: テレビ番組制作 平均値 3.5 内訳①原稿作成 3.5、②撮影 4.0、③編集 2.9。ラジオ番組制作 平均値 3.6 内訳①構成 3.6、②レコーディング 3.6、③コンピュータ編集 3.5)</u> 【理由】 定量的指標を導入するための追加。
指標データ入手手段			4) <u>テレビ・ラジオ番組制作職員のキャパシティ・アセスメント結果</u> 【理由】 指標 4) の追加に伴う改訂。
指標データ入手手段	・ 番組制作に係る要員計画 ・ 番組制作 OJT 実施記録 ・ 番組制作記録 ・ SSTVR 幹部及び関係者の聞き取り調査	【削除】 上記のとおり、指標改訂に伴い、以下の入手手段に改訂。	
	・ OJT 成果確認チェックリスト ・ 番組制作ガイドライン	1) <u>プロジェクト報告書</u> 2) <u>OJT 成果確認チェックリスト</u> 3) <u>番組制作ガイドライン</u>	
成果 4 : SSBC において、報道担当者のプロフェッショナリズム (正確・公正な報道) に関する意識が向上する。			
指標	1) 現状の報道に係る職員体制及びそれぞれの役割が明確化される。	【削除】 【理由】 職員の要員計画策定と実施、部署内の組織改編に関しては、公共放送局化に伴う、組織全体の	

	改造に関連することであり、また、職員の「能力の変化」の外部的要素であるといえる。	
2) SSTVR が目標とする報道に係る要員計画が具体化される。	【削除】 【理由】 同上	
3) 目標とする要員計画に基づき、適切な要員配置が実施される。	【削除】 【理由】 同上	
4) 報道担当者向け倫理規範が作成される。	1) 報道担当者向け倫理規範が完成する。 【理由】「作成される」は、活動レベルの表記と同様であるため、成果指標レベルでは、その次の段階「完成する」に改訂した。	
5) 「記者ハンドブック」が作成される。	2) 「記者ハンドブック」が完成する。 【理由】「作成される」は、活動レベルの表記と同様であるため、成果指標レベルでは、その次の段階「完成する」に改訂した。	
6) 独自報道への意識が高まる。	【削除】 【理由】「意識の向上」については成果 4 (Narrative Summary) の言い換えになっているため、削除した。報道部門の職員の能力の変化は、「倫理規範」と「記者ハンドブック」の作成プロセスへの関与を通じ、上昇するものとして、上記 2 つの指標をもって、変化を測るとした。	
		3) <u>報道倫理規範に関するキャパシティ・アセスメントのスコアが上昇する (ベースライン 2016 年 6 月時点：平均 3.3)</u> 【理由】 定量的指標を導入するため追加。
		4) <u>報道担当者の 3 つのテクニカル・キャパシティのスコアが上昇する (ベースライン 2016 年 6 月時点：平均値 3.7 内訳：①ニュース・原稿編集 3.2、②レポート・原稿作成 4.0、③ニュース・リポーティング 3.9)</u>

			【理由】 定量的指標を導入するため追加。
指標データ入手手段	<ul style="list-style-type: none"> ・放送に係る要員計画 ・報道に係る OJT の実施記録 ・調査報道の実施記録 ・独自報道への意識調査 ・SSTVR 幹部及び関係者の聞き取り調査 	<p>【削除】</p> <p>【理由】 上記のとおり、指標の改訂に伴い、以下入手手段に改訂した。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・報道担当者向け倫理規範 ・「記者ハンドブック」 	<p>1) 報道担当者向け倫理規範</p> <p>2) 「記者ハンドブック」</p>	
			<p>3) 職員のキャパシティ・アセスメントの結果</p> <p>【理由】 指標 3) の追加に伴う改訂。</p>
			<p>4) 報道部職員のキャパシティ・アセスメントの結果</p> <p>【理由】 指標 4) の追加に伴う改訂。</p>

(3) 活動の改訂

	Version 3.2 (2015年2月改訂)	Version 4.0 (2015年10月改訂)	Version 7.0 (2017年3月改訂)
成果1の活動		活動 1-4: 公共放送局化するための課題への対処方針が作成される。	活動 1-4: <u>財政戦略、人員計画を含む、SSBC が国民に信頼される公共放送局となるための課題への対処方針が作成される。</u>
	活動 1-5: Organizational vision is formulated to transform SSTVR into a public broadcaster. (公共放送局化するための組織ビジョンが作成される。)	<p>【削除】</p> <p>【理由】 作成するロードマップの中で「組織ビジョン」は扱われていることから、下記、活動と重複している。</p>	
	活動 1-6: A short-term roadmap for SSTVR to become a public broadcaster is formulated and realised. (SSTVR の公共放送局化に向けた短期ロードマップが作成され、	<p><u>活動 1-5: A short-term road map for SSTVR to become a public broadcaster is formulated through discussion with Board of Directors once they are nominated.</u></p> <p>SSTVR の公共放送局化に向けた短期ロードマップが、経営委員会(委員が任命され次第)との協議を通</p>	

	実現される。)	し作成される。 【理由】上記削除により、番号繰り上げ。「完成」を成果レベルの指標とし、プロジェクト目標レベルで「履行される」と設定した。経営委員会が設置され次第、協議を行う旨を追記した。	
	活動 1-7 : A middle/long-term roadmap for SSTVR to become a trusted public broadcaster is formulated based on the Broadcasting Corporation Act. (メディア法に基づき、国民に信頼される公共放送局化に向けた中長期ロードマップが作成される。)	活動 1-6 : A middle/long-term road map for SSTVR to become a trusted public broadcaster is formulated based on the Broadcasting Corporation Act. メディア法に基づき、国民に信頼される公共放送局化に向けた中長期ロードマップが作成される。 【理由】上記削除により、番号繰り上げ。	
		活動 1-7 : Seminar on “A middle/long-term road map for SSTVR to become a trusted public broadcaster” are conducted. 「国民に信頼される公共放送局化に向けた中長期ロードマップ」に関するセミナーが実施される。 【理由】策定する中長期ロードマップを、組織内外で周知するための活動を追加した。	
		活動 1-8 : The End-line survey is conducted to grasp the situation of media and its audience in South Sudan. 南スーダンのメディアの現状、及び聴衆・視聴者に係るエンドライン調査が実施される。 【理由】プロジェクト終了前に、活動 1-1 のベースライン調査と同様の調査を実施することが想定されていたものの、活動に記載がなかったことから追加した。	
成果 2 の活動		活動 2-1 : 放送機材の運用及び維持管理に係る課題が分析される。	活動 2-1 : 放送機材の運用及び維持管理に係る課題が分析され、機材管理部門の人事、予算に関する提案が経営陣に提出され

			る。 【理由】各部門が人事、予算の提案を提出することが、SSBC 全体の予算計画、人事体制を作成するために重要であるため、追加。
		活動 2-4 : <u>The roles of the staff in charge of SSTVR engineering & operation are reviewed.</u> <u>SSTVR の放送機材運用・維持管理に係る職員の役割が見直される。</u> 【理由】成果指標に職員の役割の明確化等が設定されていたが、活動へ記載がなかったため追加した。	
成果 3 の活動		活動 3-1 : 番組制作に係る課題が分析される。	活動 3-1 : 番組制作に係る課題が分析され、 <u>番組制作部門の人事、予算に関する提案が経営陣に提出される。</u> 【理由】各部門が人事、予算の提案を提出することが、SSBC 全体の予算計画、人事体制を作成するために重要であるため、追加。
	Activity 3-5 : Programmes to raise awareness about social issues and introduce necessary information for living are produced by the staff of SSTVR who are in charge of programme production. (国民の啓発を目的とした番組や生活に必要な情報番組などが SSTVR 職員により制作される。)	活動 3-5 : Programmes to raise awareness about social issues and introduce necessary information for living are produced by the staff of SSTVR who are in charge of programme production <u>(Formulation of dedicated production team).</u> 国民の啓発を目的とした番組や生活に必要な情報番組などが SSTVR 職員により制作される <u>(番組専従班の設置)。</u> 【理由】番組専従班の設置を追加した。	
		活動 3-6 : <u>Training of trainers on programme production are conducted.</u> <u>番組制作のトレーナー育成研修が実施される。</u> 【理由】番組制作部門の中核人材	

		をトレーナーとして育成することを目的とした活動を追加した。	
		活動 4-1: 報道に係る現状と課題が分析される。	活動 4-1: 報道に係る現状と課題が分析され、 <u>報道部門の人事、予算に関する提案が経営陣に提出される。</u> 【理由】各部門が人事、予算の提案を提出することが、SSBC 全体の予算計画、人事体制を作成するために重要であるため、追加。
成果 4 の活動		<u>活動 4-7: Training of trainers on news reporting are conducted.</u> <u>報道のトレーナー育成研修が実施される。</u> 【理由】報道部門の中核人材をトレーナーとして育成することを目的とした活動を追加した。	

(4) 外部要因と前提条件の改訂

	Version 3.2 (2015 年 2 月改訂)	Version 4.0 (2015 年 10 月改訂)
プロジェクト目標 → 上位目標への外部条件	・SSTVR を公共放送局化するという政策が維持される。	・ <u>メディア法が履行される。</u> 【理由】メディア関連法案が可決されたことから改訂した。 ・ <u>政府関係者が、SSTVR の放送内容に干渉を強めない。</u> 【理由】「放送内容」に係る外部条件であり、成果達成の際（職員の能力強化）よりも、上位目標達成の際に留意する必要があるものとして、整理した。
活動→ 成果への外部条件	・政府関係者が、SSTVR の放送内容に干渉を強めない。 ・各部門（機材管理・番組制作・報道）の主要スタッフが SSTVR に引き続き在籍する。 ・南スーダンの治安状況が回復・安定し、日本人専門家の再配置が可能である。	上記、プロジェクト目標から上位目標に係る外部要因として整理した。 【削除】 【理由】成果からプロジェクト目標にかけて設定されている外部要因の内容「SSTVR の職員のうちプロジェクト期間内に研修を受けた職員が、SSTVR に在籍している。」と重複しているため。
前提条件		前提条件として整理した。 ・南スーダンの治安状況が回復・安定し、日本人専門家の配置が可能である。

第7章 結論

本プロジェクトは、2013年12月及び2016年7月の2度の武力衝突及びそれに伴う専門家の退避が生じたものの、SSBCにおいて正確・公平な情報を南スーダン国民に届ける人材が育成されるという目標は達成される見込みであり、プロジェクトの活動は終了できると見込まれる。技術移転に関し、第三国研修や遠隔による活動のみで、当初定められた期間内で、計画した活動を達成することは限界があった。しかしながら、延長期間も通じ、SSBC職員が研修で得た知識はSSBCのなかで徐々に広がりつつある。SSBCの機材運用・維持管理に関する8つの「チェックリストや報告様式」は活用され、放送エンジニアらの能力は向上してきている。また、番組制作及び報道に関しては、第三国研修において実施したToTと、OJTによってSSBC職員の総合的な能力が劇的に向上した。

したがって、プロジェクトの目標はプロジェクト期間内に達成されると見込まれ、更なる延長は不要と考えられる。第三国研修や遠隔でのやり取りを通じたToTやOJTは徐々に機能し始めており、SSBCの職員の間で日本人専門家の指導内容が広く伝わり、技能・知識が共有されることで、技術移転の成果が定着しつつある。

第8章 提言

本プロジェクトの効果を高め、プロジェクト期間終了後の持続性を強化するために、合同評価調査団は以下の活動が行われることを提言する。

- (1) 中長期ロードマップは2018年2月に最終化され、経営委員会によって2018年6月に承認された。第三国研修にも参加したSSBCの幹部メンバーが同ロードマップにて定めた事項についてリードし、実行に移すことが望まれる。
- (2) 研修で学んだ知識及び技能を効果的に伝えていくために、ToTメンバーが職員研修について体系的な手法を確立することが望まれる。
- (3) 本プロジェクトで作成された報道倫理規範及び番組制作ガイドラインに沿い、SSBCの幹部メンバーが現在の暫定的な編集方針(Editorial Policy)を改訂し、その内容を職員に共有することで、正確・公平・中立な情報を国民に届けるという公共放送の使命・役割についてのSSBC職員の理解を促進することが強く望まれる。
- (4) 情報・放送省(MOIB)は、SSBCが財政的には政府に依存している暫定期間においても、メディア関連法に沿って、SSBCの編集権の独立を尊重することが望まれる。

第9章 教訓

終了時評価により確認された本プロジェクトから得られた教訓は以下のとおりである。

- (1) メディア分野の支援においては、表現の自由を確保すべく、さまざまな理念・理論等の理解を重視するかたちの支援も考えられる。しかしながら、本プロジェクトではトップダウンの手法、すなわちジャーナリストの原則について上から指示をするような手法ではなく、ボトムアップの手法により比重を置いた。ボトムアップの手法は、プロジェクトが定めた4つの成果について、放送に係る日々のルーティンや日常業務の中で、専門家が自らの経験を伝授しながら、SSBC 職員のプロフェッショナリズムを向上させるものである。この手法がプロジェクト目標の達成に貢献したと考えられ、他のメディア分野の支援においても参考になる。
- (2) 日本人専門家は南スーダンにおける2度の騒擾^{そうじょう}により残念ながら退避を余儀なくされた。そのような状況下でスムーズにコミュニケーションをとるのは容易ではなかったが、南スーダン・日本国側双方ともメールや電話等によりコミュニケーションを継続するよう努力した。この継続的なコミュニケーションにより第三国研修が実現した。また、この不断の努力がプロジェクト目標の達成に貢献した。

付 属 資 料

1. Project Design Matrix (PDM) Ver.7.0
2. Plan of Operations
3. プロジェクトへの投入
 - 3-1 派遣専門家実績
 - 3-2 本邦研修・第三国研修実績
 - 3-3 供与機材一覧
 - 3-4 カウンターパート一覧
4. 活動実績表
5. 成果品一覧
6. 制作番組・レポート一覧

1. Project Design Matrix (PDM) Ver.7.0

ANNEX1 Project Design Matrix

Project Title: The Project for Institutional Capacity Development of South Sudan Broadcasting Corporation

Implementing Agencies: Ministry of Information and Broadcasting (MOIB), South Sudan Broadcasting Corporation (SSBC), JICA Expert Team

Project Period: 5 years and 4 months (DEC 2012 to MAR 2018)

Target Areas: Juba, Malakal, Wau etc.

Target Group: MOIB official, SSBC staff

Date: Revised on 26 May 2017 (Ver. 7.0)

Narrative Summary		Objectively Verifiable Indicator	Means of Verification	Important Assumptions
Overall Goal: Accurate, impartial and fair information is delivered to the people of South Sudan.		1) Broadcasting hours for TV and Radio are increased. (Baseline: Radio 9hr per day, TV 12hr per day as of March 2012) 2) Coverage area is increased (Baseline as of 2012: <TV> Terrestrial 40%, Satellite 100%, <Radio>FM 20%, Midwave 80%) 3) The number of programmes produced by SSBC is increased. (Baseline as of 2015:<TV> 22 programmes out of 27 programmes produced 100% by SSBC, 4 programmes produced 50% by SSBC.) 4) The varieties of programmes produced by SSBC are increased. (Baseline as of 2012: <TV>Education (6), Political (8), Entertainment (3), Economic (2), Social (8), Sports (0))	1) Records of broadcasting 2) Technical data of coverage areas 3) Weekly programme schedule of SSBC 4) Weekly programme schedule of SSBC	
Project Purpose: Human resources are developed in SSBC to deliver accurate and fair information to the people of South Sudan.		1) The short-term road map for SSBC to become a public broadcaster is implemented. 2) The series of seminar on "The middle/long-term road map for SSBC to become a trusted public broadcaster" are held. (Goal:XX times by the end of the Project) 3) In SSBC, broadcasting equipment is operated, maintained and managed in accordance with the manual. 4) The number of the programmes produced by SSBC staff trained by the Project in accordance with the Programme Guideline. (Goal: 15 programmes by the end of the Project) 5) The number of the Reporters' Handbook distributed to staff (Goal: At least 50 copies) 6) The number of SSBC staff participated in training on the Code of Ethics by the Project. (Goal: total 150) 7) The broadcasting contents by SSBC are improved compared to the broadcasting contents at the launch of the project.	1) Project reports 2) The record of seminar 3) Records of operation and maintenance of broadcasting equipment 4) Project reports 5) The record of distribution of the reporters' handbook 6) Attendance sheet of the training on the Code of Ethics 7) Comments by media experts on broadcast contents by SSBC	Media Acts are implemented accordingly. Government and Members of Parliament do not further intervene in the contents of broadcasting by SSBC.
Output 1:	The organizational and operational issues to be addressed are clarified to transform SSTVR into a public broadcaster and a resolution policy and organizational vision are formulated in SSBC.	1) A short-term road map for SSBC to become a public broadcaster is finalized. 2) A middle/long-term road map for SSBC to become a public broadcaster that is trusted by the public, which includes a budget plan is finalized.	1) The short-term road map for SSBC to become a public broadcaster 2) The middle/long-term road map including a budget plan	Policy to transform SSBC into a public broadcaster is sustained. Most of the SSBC staff who have been trained during the course of the project remain in SSBC.
Output 2:	The capacity of SSBC staff in charge of operating and maintaining broadcasting equipment is enhanced.	1) The roles of the staff in SSBC engineering & operation, and in management of budget for engineering & operation are clarified. 2) "Checklist for the outcome of OJT" is recorded regularly and the contents are updated if necessary. 3) The plan for maintenance of broadcasting equipment is drawn and put in effect. 4) The record of maintenance of broadcasting equipment is kept and updated regularly. 5) Developed manuals on operation and maintenance of broadcasting equipment are distributed.	1) Project reports by WG2 2) Checklist for the outcome of OJT 3) Manual on operation and maintenance of broadcasting equipment 4) Record of maintenance of broadcasting equipment 5) Record of distribution of the manuals	
Output 3:	The capacity of SSBC staff in charge of programme production is enhanced.	1) The dedicated production team is functioning. 2) "Checklist for the Outcome of OJT" is recorded regularly and the contents are updated if necessary. 3) Programme Guidelines is finalized. 4) Scores for 3 technical capacities of the program production staff are increased. (Baseline – June 2016: TV Program Production Average score 3.5, 1) Script writing 3.5, 2) Shooting 4.0, 3) Editing 2.9. Radio Program Production Average score 3.6, 1) Structuring, 2) Recording 2.5, 3) Computer editing 3.5)	1) Project reports 2) Checklist for the Outcome of OJT 3) Programme Guidelines 4) Results of capacity assessment for program production staff	
Output 4:	The awareness towards professionalism (accurate and fair news) is raised among SSBC staff in charge of news reporting.	1) A Code of Ethics for news reporters is finalized. 2) A Reporters' Handbook is finalized. 3) Capacity score for the Journalistic ethics is increased. (Baseline – June 2016: Average score 3.3) 4) Scores for 3 technical capacities of the news reporters are increased. (Baseline – June 2016: Average score 3.7, 1) Edit news and script 3.2, 2) Report writing and script writing 4.0, 3) News reporting 3.9	1) A Code of Ethics for news reporters 2) A Reporters' Handbook 3) Results of capacity assessment for staff 4) Results of capacity assessment for news reporters	
Activity 1-1:	Baseline data are collected and analyzed to grasp the current situation of media and its audience in South Sudan including those of SSBC.	Input: (Japanese Side) 1. JICA Experts	Input: (South Sudan Side) 1. Counterpart Personnel	

Activity 1-2:	Information on public broadcasting institutions in other countries is provided.	1. JICA Experts (1) Leader/Broadcasting Institution Management/Democratization (2) Sub-Leader/Broadcasting Institution Management	1. Counterpart Personnel (1) Ministry of Information and Broadcasting/MOIB (2) South Sudan TV and Radio/SSBC	
Activity 1-3:	Issues to be addressed are clarified to transform SSBC into a public broadcaster (including budget management of SSBC for sustainable management).	(3) Equipment Management (4) Programme Production 1. 2. 3. (5) News Reporting 1. 2.3.4. (6) Coordination/Democratization 1. 2. 3. 4.	2. Facility and Equipment (1) Relevant facilities and equipment at SSBC	<Pre-condition> *The security situation in South Sudan is restored and stable enough for Japanese experts to be deployed.
Activity 1-4:	Strategies for SSBC to become a trusted public broadcaster, including financial strategy and human resource planning, are planned.	2. Training in Japan, Training in a Third Country	3. Local Cost	
Activity: 1-5	A short-term road map for SSBC to become a public broadcaster is formulated through discussion with Board of Directors once they are nominated.	3. Equipment etc.		
Activity: 1-6	A middle/long-term road map for SSBC to become a trusted public broadcaster is formulated based on the Broadcasting Corporation Act.			
Activity: 1-7	Seminar on "A middle/long-term road map for SSBC to become a trusted public broadcaster" are conducted.			
Activity: 1-8	The End-line survey is conducted to grasp the current situation of media and its audience in South Sudan including those of SSBC.			
Activity 2-1:	Issues related to operation and maintenance of broadcasting equipment are analyzed, and proposal of human resource and budget (concerning engineering and operation) is submitted to the management.			
Activity 2-2:	OJT related to operation and maintenance of broadcasting equipment is conducted to the staff of SSBC who are in charge of equipment.			
Activity 2-3:	A manual on operation and maintenance of broadcasting equipment is developed based on the contents of OJT.			
Activity 2-4:	The roles of the staff in charge of SSBC engineering & operation are reviewed.			
Activity 3-1:	Issues relating to programme production are analyzed, and proposal of human resource and budget concerning programme production is submitted to the management.			
Activity 3-2:	Basic seminars as well as OJT related to programme production are conducted to the staff of SSBC who are in charge of programme production.			
Activity 3-3:	Programme Guidelines are developed based on the contents of OJT.			
Activity 3-4:	The staff of SSBC who are in charge of programme production are taught on how to make programmes to raise awareness about social issues and introduce necessary information for living.			
Activity 3-5:	Programmes to raise awareness about social issues and introduce necessary information for living are produced by the staff of SSBC who are in charge of programme production. (Formulation of the dedicated production team)			
Activity 3-6:	Training of trainers on programme production are conducted.			
Activity 4-1:	The current situation and issues related to news reporting are analyzed, and proposal of human resource and budget concerning news reporting is submitted to the management.			
Activity 4-2:	OJT related to news reporting is conducted to the staff of SSBC who are in charge of news reporting.			
Activity 4-3:	A Code of Ethics for news reporters is developed based on the contents of OJT.			
Activity 4-4:	The staff of SSBC in charge of news reporting are taught on how to conduct independent reporting.			
Activity 4-5:	The staff of SSBC in charge of news reporting conduct independent reporting.			
Activity 4-6:	A Reporters' Handbook is developed based on the contents of OJT.			
Activity 4-7:	Training of trainers on news reporting are conducted.			
* Capacity assessment applies 5-grade scoring (Grade 5. Utilizing the capacity for work and make countable positive impact, Grade 4. Utilizing the capacity for daily working, Grade 3. Having skill and knowledge, Grade 2. Having interest, Grade 1. Not having any interest)				

2. Plan of Operations

PROPOSED_PO_fiscal2016 only

ANNEX2 Plan of Operations

PROPOSED Plan of Operation (Japanese Fiscal 2016)

Version 7.0 (PDM 7.0)

Project Title: Project for Institutional Capacity Development of South Sudan Broadcasting Corporation

Activities Sub-Activities	2016												2017		
	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sept	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar			
Output 1: The organizational and operational issues to be addressed are clarified to transform SSTVR into a public broadcaster and a resolution policy and organizational vision are formulated in SSBC.															
1.1 Baseline data are collected and analyzed to grasp the current situation of media and its audience in South Sudan including those of SSBC.															
1.2 Information on public broadcasting institutions in other countries is provided.															
1.3 Issues to be addressed are clarified to transform SSBC into a public broadcaster (including budget management of SSTVR for sustainable management).															
1.4 Strategies for SSBC to become a trusted public broadcaster, including financial strategy and human resource planning, are planned.															
1.5 A short-term road map for SSBC to become a public broadcaster is formulated through discussion with Board of Directors once they are nominated.															
1.5.1 To prepare draft Short-term roadmap within the project before present it to the Board of Directors															
1.5.2 To prepare the presentation material of the Short-term roadmap for meeting with Board of Directors.															
1.5.3 To present and discuss the Short-term road map with Board of Directors.															
1.5.4 To coordinate arrangement of administrative framework to implement the Short-term road map, with particular attention on feasible and sustainable financial strategy and human resource planning.															
1.6 A middle/long-term road map for SSBC to become a trusted public broadcaster is formulated based on the Broadcasting Corporation Act.															
1.6.1 To hold lectures on public broadcasting and topics related to the roadmap so that C/Ps have necessary knowledge															
1.6.2 To exchange opinions with stakeholders (MOIB, Board of directors, Intl. organizations, Journalists etc.) on the contents of the middle/long-term road map.															
1.6.3 To make a framework for the middle/long-term road map															
1.6.4 To prepare a draft middle/long-term road map, with particular attention in feasible and sustainable financial strategy and organisation management.															
1.6.5 To present the draft middle/long-term road map to the stakeholders and receive feedback.															
1.6.6 To promote finalization of the middle/long-term road map.															
1.6.7 To coordinate preparation of the administrative framework to implement the middle/long term road map.															
1.7 Seminar on "A middle/long-term road map for SSBC to become a trusted public broadcaster" are conducted.															
1.7.1 To arrange a seminar to disseminate the middle/long-term road map (developed in Activity 1.6.6) to SSBC staff and external stakeholders.															
1.7.2 To conduct a seminar for SSBC staff to raise awareness on the middle/long-term road map															
1.7.3 To conduct a seminar for external stakeholders to disseminate the middle/long-term road map															
1.8 The End-line survey is conducted to grasp the situation of media and its audience in South Sudan.															
1.8.1 To make the end-line survey plan referring to the baseline survey report.															
1.8.2 To conduct the end-line survey (outsourcing to the local consultant)															
1.8.3 To make analysis on the collected data and write a report															
1.8.4 To share and disseminate the end-line survey results with stakeholders															
Output 2: The capacity of SSBC staff in charge of operating and maintaining broadcasting equipment is enhanced.															
2.1 Issues related to operation and maintenance of broadcasting equipment are analyzed, and proposal of human resource and budget concerning equipment management is submitted to the management.															
2.2 OJT related to operation and maintenance of broadcasting equipment is conducted to the staff of SSBC who are in charge of equipment.															
2.2.1 To utilize the developed manuals to improve efficiency of the operation and maintenance.															
2.2.2 To reduce irregularity incidence by utilizing the developed manuals through OJT															
2.2.3 To improve effectiveness of the presentation of the news programmes through OJT															
2.2.4 To train operational skills on new equipment procured by the Project.															
2.2.5 To train planning and operational skill on Outside broadcasting.															
2.2.6 To train the Satellite transmission from venues.															
2.3 A manual on operation and maintenance of broadcasting equipment is developed based on the contents of OJT.															
2.3.1 Based on OJT (Activity 2.2), update the manuals.															
2.4 The roles of the staff in charge of SSBC engineering & operation are reviewed.															
2.4.1 Confirm the current roles of the staff in charge of SSBC engineering & operation															

2.4.2 Survey the roles of the staff in charge of other Broadcaster engineering & operation																				
2.4.3 Study the suitable roles of the staff in charge of SSBC engineering & operation																				
Output 3: The capacity of SSBC staff in charge of programme production is enhanced.																				
3.1 Issues relating to programme production are analyzed, and proposal of human resource and budget concerning programme production is submitted to the management.																				
3.2 Basic seminars as well as OJT related to programme production are conducted to the staff of SSBC who are in charge of programme production.																				
3.2.1 To learn Planning and Proposal for the Program																				
3.2.2 To learn Structure and Script																				
3.2.3 To learn Shooting and Editing																				
3.2.4 To learn the Factual program																				
3.2.5 To learn the Studio & Entertainment program																				
3.2.6 To learn Child & Educational Program																				
3.2.6 To learn Political & Election program																				
3.3 Programme Guidelines are developed based on the contents of OJT.																				
3.3.1 To make a draft Programme Guidelines																				
3.3.2 To make modification of the draft Programme Guidelines based on the contents of OJT.																				
3.3.3 To disseminate Programme Guidelines to SSBC staff																				
3.4 The staff of SSBC who are in charge of programme production are taught on how to make programmes to raise awareness about social issues and introduce necessary information for living.																				
3.4.1 To learn how to make a documentary program																				
3.4.2 To learn how to make a agriculture program																				
3.4.3 to learn how to make a sports program																				
3.4.4 To learn how to make Entertainment program																				
3.4.5 To learn how to make a radio program																				
3.5 Programmes to raise awareness about social issues and introduce necessary information for living are produced by the staff of SSBC who are in charge of programme production. (Formulation of the dedicated production team)																				
3.5.1 To establish the dedicated production team.																				
3.5.2 To produce a sports program																				
3.5.3 To produce a agriculture program																				
3.5.4 to produce a educational program																				
3.5.5 to produce a entertainment program																				
3.5.6 to produce a radio program																				
3.5.7 to produce a political program																				
3.6 Training of trainers on programme production are conducted.																				
3.6.1 To make a plan for TOT program on programme production																				
3.6.2 To select target staff to participate in the TOT program and assess their capacities																				
3.6.3 To arrange TOT courses (instructors, venue, teaching materials etc.)																				
3.6.4 To conduct TOT courses (The participants make the action plan as a trainer)																				
3.6.5 To follow up the Trainers who completed the course on their action plan																				
3.6.6 To assess the changes in Trainers' capacities																				
3.7 To provide advice and support in production of programmes on Rio de Janeiro Olympics																				

Output 4: The awareness towards professionalism (accurate and fair news) is raised among SSBC staff in charge of news reporting.										
4.1 The current situation and issues related to news reporting are analyzed, and proposal of human resource and budget concerning news reporting is submitted to the management.										
4.2 OJT related to news reporting is conducted to the staff of SSBC who are in charge of news reporting.										
4.2.1 To write a news manuscript and a news script for reporters										
4.2.2 To take an interview and Vox pop										
4.2.3 To shoot video footage for camerapersons										
4.2.4 To edit a video of News program for video editor										
4.2.5 To make a News order of News program for Chief Editors										
4.3 A Code of Ethics for news reporters is developed based on the contents of OJT.										
4.3.1 To discuss and draft the code of ethics for news reporters referring to other public broadcasters' code of ethics.										
4.3.2 To finalize the code of ethics										
4.3.3 To disseminate the code of ethics to SSBC staff										
4.3.4 To revise and confirm the SSBC Code of Ethics for news reporters after setting up the SSBC										
4.4 The staff of SSBC in charge of news reporting are taught on how to conduct independent reporting.										
4.4.1 To learn the code of journalist										
4.4.2 To learn the Media laws of South Sudan										
4.4.3 To learn about the Election news covering										
4.4.4 To make the Election News Handbook										
4.4.5 To learn about Social news gathering										
4.4.6 To learn about investigative news gathering										
4.5 The staff of SSBC in charge of news reporting conduct independent reporting.										
4.5.1 To conduct independent news reporting through the social news										
4.5.2 To conduct independence political news after changing SSBC to PBS										
4.5.3 To conduct investigative news reporting										
4.5.4 To conduct independent election news program										
4.6 A Reporters' Handbook is developed based on the contents of OJT.										
4.6.1 To discuss and draft the Reporters' Handbook referring to other public broadcasters' handbook.										
4.6.2 To confirm changing the name of handbook to Reporters' & Broadcasters' handbook										
4.6.3 To confirm the contents of the handbook in JCC										
4.6.4 To translate the handbook to Arabic										
4.6.5 To print the handbooks and disseminate them to SSBC staff										
4.7 Training of trainers on news reporting are conducted.										
4.7.1 To make a plan for TOT program on news reporting										
4.7.2 To select target staff to participate in the TOT program and assess their capacities										
4.7.3 To arrange TOT courses (instructors, teaching materials, venue etc.)										
4.7.4(a) To conduct TOT courses for reporters (The participants make the action plan as a trainer)										
4.7.4(b) To conduct TOT courses for camerapersons (The participants make the action plan as a trainer)										
4.7.4(c) To conduct TOT courses for video editors (The participants make the action plan as a trainer)										
4.7.4(d) To conduct TOT courses for presenters (The participants make the action plan as a trainer)										
4.7.5 To follow up the Trainers who completed the course on their action plan										
4.7.6 To assess the changes in the Trainers' capacities										
4.8 To provide advice and support in reporting TICAD VI										

3. プロジェクトへの投入 3-1 派遣専門家実績

ANNEX 3-1. Placement Records of Japanese Experts (As of 15 November 2018)

Fields of expertise	Name	Organization	Dispatch period	M/M	Year
In South Sudan (or * for third countries)					
Leader/Broadcasting Institution management 1/Democratization 1	Mr. Makoto HARADA	NHK International, Inc.	2013.01.09~2013.01.29	1.30	Year 1
			2013.10.09~2013.10.16		
			2014.02.15~2014.02.24		
			2014.09.02~2014.09.09	0.50	Year 2
			2015.02.02~2014.02.26		
			2015.10.07~2015.10.15	0.53	Year 3
			2016.02.27~2016.03.04		
			2016.07.02~2016.07.09	0.27	Year 4
			2017.07.23~2017.07.29		
2018.02.16~2018.02.23	0.50	Year 5			
Sub-leader/Broadcasting Institution Management 2	Mr. Yoshinori SAWA	NHK International, Inc.	2013.01.09~2013.02.07	5.37	Year 1
			2013.03.20~2013.04.16		
			2013.07.14~2013.08.28		
			2013.09.28~2013.10.18		
			2014.02.01~2013.03.08		
			2014.06.05~2014.07.06	5.03	Year 2
			2014.08.27~2014.10.02		
			2014.11.04~2014.12.14		
			2015.01.22~2015.03.03	4.67	Year 3
			2015.06.07~2014.07.06		
			2015.09.13~2015.10.19		
			2015.11.12~2015.12.11		
			2016.01.25~2016.03.09	1.33	Year 4
			2016.06.11~2016.07.15		
			2017.07.23~2017.07.30		
			2017.08.12~2017.09.01		
2017.10.19~2017.11.06	2.63	Year 5			
2018.01.29~2018.02.28					
Equipment management 1	Mr. Kenzo MUROI	NHK International, Inc.	2013.01.09~2013.01.29	4.27	Year 1
			2013.03.20~2013.04.16		
			2013.09.01~2013.11.01		
			2014.02.19~2014.03.07		
			2014.06.12~2014.06.29	3.07	Year 2
			2014.09.09~2014.09.29		
			2014.11.13~2014.12.17		
			2015.01.30~2015.02.16	3.67	Year 3
			2015.06.07~2015.06.26		
			2015.09.07~2015.10.01		
			2015.11.27~2015.12.16		
			2016.01.19~2016.03.03	1.53	Year 4
			2016.05.27~2016.07.11		
			2017.07.23~2017.07.30	1.90	Year 5
			2017.08.12~2017.08.27		
2017.11.03~2017.11.21					
2018.02.02~2018.02.15					
Program Production 1	Mr. Hiroo YAMASHITA	NHK International, Inc.	2013.01.09~2013.01.29	1.87	Year 1
			2013.05.01~2013.05.23		
			2014.02.19~2014.03.02		
Program Production 3			2014.11.13~2014.12.14	1.07	Year 2

Program Production 2	Mr. Tomoyuki KOZUKE	NHK International, Inc.	2013.01.09~2013.01.29	2.83	Year 1
			2013.05.01~2013.05.23		
			2013.11.03~2013.12.01		
			2014.02.19~2014.03.02		
Program Production 3	Mr. Kazumi SHIOTSU	NHK International, Inc.	2013.07.14~2013.08.12	1.00	Year 1
Program Production 1			2014.09.09~2014.09.29	0.70	Year 2
Program Production	Ms. Midori MATSUMOTO	NHK International, Inc.	2015.06.07~2015.06.26	2.83	Year 3
			2015.09.13~2015.10.02		
			2015.11.17~2015.12.12		
			2016.01.26~2016.02.13	1.17	Year 4
			2016.06.11~2016.07.15		
			2017.08.12~2017.08.30		
			2017.10.19~2017.11.05		
2018.02.11~2018.02.25	1.73	Year 5			
News Reporting 1	Mr. Atsushi MIYAO	NHK International, Inc.	2013.01.09~2013.01.29	0.70	Year 1
			2014.09.09~2014.09.18	0.33	Year 2
News Reporting 3	Mr. Hidetoshi FUJISAWA	NHK International, Inc.	2013.08.01~2013.08.30	2.37	Year 1
			2013.10.26~2013.11.19		
			2014.02.15~2014.03.02		
News Reporting 2			2014.06.12~2014.06.29	0.60	Year 2
Program Production 2/ News Reporting 3			2014.06.12~2014.07.01	2.43	Year 2
			2014.09.09~2014.09.29		
News Reporting	Mr. Masaharu ANDO	NHK International, Inc.	2014.11.13~2014.12.14	3.67	Year 3
			2015.06.09~2015.06.29		
			2015.09.13~2015.09.30		
			2015.11.18~2015.12.16	1.30	Year 4
			2016.01.16~2016.02.26		
			2016.05.27~2016.06.25	1.80	Year 5
			2016.08.23~2016.08.31*		
			2017.08.24~2017.09.10		
2017.10.19~2017.11.05					
2018.01.29~2018.02.15					
Coordination/ Democratization1	Ms. Yuka SHIMADA	NHK International, Inc.	2013.01.16~2013.03.16	4.00	Year 1
			2013.04.25~2013.06.23		
Coordination/ Democratization2	Mr. Shinichi MURATA	NHK International, Inc.	2013.01.09~2013.01.29	1.40	Year 1
			2013.03.20~2013.04.09		
Broadcasting Institution Management 3/ Coordination1/ Democratization 2	Ms. Tomoko NAKAYAMA	NHK International, Inc.	2013.07.14~2013.09.11	4.00	Year 1
			2013.10.19~2013.11.11		
			2014.02.01~2014.03.08		
			2014.06.05~2014.07.06	5.13	Year 2
			2014.08.27~2014.10.02		
			2014.11.04~2014.12.17		
			2015.01.22~2014.03.03	4.67	Year 3 (+0.07 by NHK Intl.)
			2015.06.07~2015.07.06		
			2015.09.13~2015.10.19		
			2015.11.12~2015.12.11		
2016.01.25~2016.03.09	1.37	Year 4			
2016.05.30~2016.07.03					
2016.11.21~2016.11.26					
Broadcasting Institution Management 3/ Democratization 2	Mr. Koji NAKAI	NHK International, Inc.	2017.07.23~2017.07.31	1.17	Year 5
Broadcasting Institution Management 3/ Democratization 2			2018.01-29, 2018.02.23		

Coordination2/ Democratization3	Ms. Aiko SENDA	NHK International, Inc.	2013.09.03~2013.10.23	2.40	Year 1
			2014.02.15~2014.03.07		
			2014.06.09~2014.06.22	1.87	Year 2
			2014.09.06~2014.09.25		
			2014.11.10~2014.11.30		
Coordination / Democratization3	Ms. Kikuko MUROYA	NHK International, Inc.	2015.06.09~2015.06.28	0.67	Year 3
			2015.09.16~2015.10.06	0.67	Year 3
			2017.08.12~2017.09.10	1.63	Year 5
2017.10.19~2017.11.06					
Coordination2 / Democratization3	Ms. Hiroyo ONOZATO	Global Link Management	2015.12.12~2015.12.19	1.33	Year 3
			2016.01.19~2016.02.19		
Coordination 2/ Democratization 3	Ms. Tomoko IKEDA	NHK International, Inc.	2016.06.11~2016.07.15	1.17	Year 4
Coordination2 / Democratization3	Mr. Haruka RYU	NHK International, Inc.	2017.07.23~2017.07.31	1.93	Year 5
			2017.11.03~2017.11.22		
			2018.01.19~2018.02.25		
Human Resources Development/Monitoring	Ms. Hiroyo ONOZATO	Global Link Management	2016.05.27~2016.06.05	0.33	Year 4
			2017.08.14~2017.08.30	1.10	Year 5
			2017.10.24~2017.11.08		
In Japan					
Coordinator, Broadcasting Institution management for Training in Japan	-	NHK International, Inc.	2013.08	0.33	Year 1
Coordinator, Equipment management for Training in Japan	-	NHK International, Inc.	2013.04	0.50	Year 1
Coordinator for Program Production Training in Japan	-	NHK International, Inc.	2014.07	1.00	Year 2
Coordinator for News Reporting Training in Japan	-	NHK International, Inc.	2014.1	1.00	Year 2
Sub-leader/Broadcasting Institution Management 2	Mr. Yoshinori SAWA	NHK International, Inc.	2017.01-2017.02	1.25	Year 4
			2017.06, 2017.7, 2017.8, 2017.10, 2018.1, 2018.5, 2018.6, 2018.7, 2018.8, 2018.9, 2018.11	3.45	Year 5
Program Production	Ms. Midori MATSUMOTO	NHK International, Inc.	2015.11	0.30	Year 3
Equipment management 1	Mr. Kenzo MUROI	NHK International, Inc.	2017.01	0.50	Year 4
			2017.07, 2017.10, 2018.1	0.75	Year 5
Program Production	Ms. Midori MATSUMOTO	NHK International, Inc.	2016.09, 2017.01	0.75	Year 4
			2017.08, 2017.10, 2018.1	0.75	Year 5
News Reporting	Mr. Masaharu ANDO	NHK International, Inc.	2016.09, 2017.01	0.75	Year 4
			2017.08, 2017.10, 2018.1	0.75	Year 5
Broadcasting Institution Management 3/ Democratization 2	Ms. Tomoko NAKAYAMA	NHK International, Inc.	2016.09, 2017.01-02	1.50	Year 4
Broadcasting Institution Management 3/ Democratization 2	Mr. Koji NAKAI	NHK International, Inc.	2017.07, 2017.10, 2018.1	0.75	Year 5
Coordination / Democratization3	Ms. Kikuko MUROYA	NHK International, Inc.	2017.10, 2018.8	0.45	Year 5
Coordination / Democratization3	Mr. Haruka RYU	NHK International, Inc.	2016.09, 2017.01-02	1.00	Year 4
			2017.06, 2017.7, 2017.10, 2018.1, 2018.5, 2018.6, 2018.7, 2018.8, 2018.9, 2018.10	3.50	Year 5

Human Resources Development/Monitoring	Ms. Hiroyo ONOZATO	Global Link Management	2017.01	0.50	Year 4
			2017.08	0.25	Year 5
TOTAL	Planned M/M (Total) as of the beginning of the every project year				
	: Year 1 (35.00M/M) + Year 2 (23.08M/M) + Year 3 (23.01M/M) + Year 4 (26.03M/M) + Year 5 (22.87M/M) =			129.99 M/M	
	Actual M/M (Total) as of 30 September, 2017				
	: Year 1 (32.34M/M) + Year 2 (22.73M/M) + Year 3 (23.01M/M) + Year 4 (14.72M/M) + Year 5 (23.35M/M) =			117.84 M/M	
M/M left as of as of 15 November 2018			M/M		

3 - 2 本邦研修・第三国研修実績

Annex 3-2. List of Participants of Counterpart Training

(1) Training in Japan

Period	Theme	Training institutions	Participants		
			Name	Position at the time of the training	
2013.04.17 - 2013.04.24	Broadcasting Institutional Management and Democratization Training for the Project for Institutional Capacity Development of South Sudan TV and Radio (Training of Senior Managers)	NHK	1	Mr. Mustafa Biong Majak	Director General of Information, MOIB
			2	Mr. Paul Jacob Kumbo	Director of Public Relations Department/ MOIB
			3	Mr. Faris Mathew Richard Mabrukn	Director of National/ International Affairs Department/ MOIB
			4	Mr. Moyiga Korokoto Nduru	Director of SSTV
			5	Ms. Rejoice Tiyo Samson	Manager of English News Section, SSTV
			6	Mr. Ramadan Kamil Abulangi	Director of Technical Department, SSTV
			7	Mr. Rehan Abdelnabi Rehan	Director of SSR
			8	Mr. Abdallah Noah Khamis	Director of Technical Department, SSR
2013.07.28 - 2013.08.10	Broadcasting Equipment Maintenance Training for the Project for Institutional Capacity Development of South Sudan TV and Radio	NHK broadcasting training center, SONY-ICD training center	9	Mr. AMOSA Alfred Eluzai	Head of SSTV Maintenance / Juba TV
			10	Mr. BABIKER Badrdin Alfil Ramadan	Maintenance Engineer / Juba Radio
			11	Mr. WANI Edward Luka Benjamin	SSTV Studio Engineer / Juba TV
			12	Mr. JALE Peter Loku	Senior Technician / Juba Radio
			13	Mr. MARANGA Emmanuel Peter Mena	Studio Operator / Juba Radio
			14	Mr. RONDYANG Amin Zakaria Ismail	SSTV Head of Operation / Juba TV
			15	Mr. ADALI Joseph Juma Shabango	SSTV Studio Engineer / Juba TV
			16	Mr. TANDA Tartezuo Angelo Kpoyo	SSTV Head of Operation / Wau TV
			17	Mr. UMIDO John Adriano Ayan	Transmitter Operator / Wau Radio
			18	Mr. JACK Yousif Otour Ashiek	SSTV & SSR Transmitter Engineer / Malakal Radio
2013.06.25 - 2013.08.03	Group Training "Digital Terrestrial TV Broadcast (DTTB) Engineering (A)"		19	Mr. RONDYANG Bakri Zakaria Ismail	SSTV Maintenance Engineer
			20	Mr. LOMUGUN Moses Gwolo John	SSTV Maintenance Engineer
2013.10.21 - 2013.11.23	Group Training "Maintenance and Quality Management of Digital Studio Broadcast Equipment for Stable & Long-life Operation"		21	Mr. Gaspren Moyi Stephen	SSTV Engineer
2014.07.20 - 2014.08.02	Program production for video journalists, Production of studio interview programs	NHK International	22	Ms. AWUT Charles Aleu Bola	Executive Producer, SSTV
			23	Ms. LEILA Osman Khamis	Reporter, SSTV
			24	Ms. Mandela FLORENCE Silver Amoko	Senior Programmer, SSR
			25	Ms. UMEHASSAN Mohammed Eltayib	Senior Programmer/News Reader, SSR
			26	Mr. KIZITO Oketa Modest De-Paito	Producer/Presenter, SSR
2014.10.12 - 2014.10.25	News reporting	NHK International	27	Ms. LEMI Monday James Figga	News Reporter, SSR
			28	Ms. DARU Kide Jackline	News Reporter, SSTV
			29	Mr. DENG Loul Daw	News Reporter, SSR
2015.11.10 - 2015.11.17	South Sudan Sports Promotion Mission's Visit to Japan - TV crew	NHK International	30	Mr. EYOBO Sunday Edward Lasu	News Editor, SSR
			31	Tek Stephen Ogut	Producer, SSTV
			32	Stephen Eddir Daunato	Reporter, SSTV
			33	Emmanuel Nasona	Camera person, SSTV

(2) Training in Third Countries (Kenya, Uganda, Dubai, Rwanda)

Period	Theme	Training Venue/Cooperating organizations	Participants		
			Name	Position at the time of the training	
2014.02.18 - 2014.02.20	<Training of Senior Managers> KBC (Structure, management, financing, relationship with government), SSTVR current situation and issues, Role of public broadcasters in state-building and peace building, election coverage, discussion and presentation on business management, human resources management, financial management, program and broadcasting contents	KBC	1	Mr. Paul Jacob Kumbo	Ag/ Director General of Information and Broadcasting, MOIB
			2	Mr. Rehan Abdelnabi Rehan	Ag/ Director General of SSTVR, MOIB
			3	Mr. Faris Mathew	Managing Director, Government Printing Press, MOIB
			4	Mr. Moyiga Korokoto Nduru	Director of SSTV
			5	Ms. Susan Alfonse	Director of SSR
			6	Mr. Ramadan Kamil Abulangi	Head of Engineering & Technical Affairs/ SSTV
			7	Mr. Abdallah Noah Khamis	Head of Engineering & Technical Affairs/ SSR
			8	Ms. Rejoice Tio Samson	Head of English News/ SSTV
2014.02.24 - 2014.02.28	<Equipment Management> Analog TV, Electric handiwork, Digitalization of audio signals, MPEG, Maintenance of broadcasting equipment, Review of digital TV	KBC	9	Mr. Gaspren Moyi Stephan	Engineering Department, SSTV
			10	Mr. Edward Luka Benjamin	Engineering Department
			11	Mr. Justin Lado James	Engineering Department
			12	Mr. Samuel Laki Loriko	Engineering Department
2014.02.24 - 2014.02.28	<Program Production> Program guidelines, Forum (discussion) program, news program, SSTV news, video editing, Program proposal (about Ethnic Dialogue)	KBC	13	Mr. Soro David Kenyi	Programme Department, SSTV
			14	Ms. Awut Charles Aleu	Programme Department, SSTV
			15	Mr. Peter Garang Ngor	Programme Department, SSR
			16	Ms. Asunta Jangara Towil	Programme Department, SSR
2014.02.24 - 2014.02.28	<News Reporting> Code of ethics, drafting and editing manuscripts, news program, SSTV news, video editing, Disaster coverage	KBC	17	Mr. James Morris Lujang	News Department, SSTV
			18	Mr. Eddir Dauneto Stephen	News Department, SSTV
			19	Mr. Peter Mori	News Department, SSTR
			20	Mr. Abraham Garang Ajang	News Department, SSTR
2014.06.09 - 2014.06.13	<Training of Senior Managers> Expansion of broadcasting network, Fair and accurate reporting, Securing independence & accuracy, Public broadcasting, Public broadcasting in digitalization, Road mapping for transforming SSTVR to a public broadcaster, International human rights law	KBC, AICAD, JKUAT	21	Mr. Rehan Abdelnabi Rehan	Acting Director General of SSTVR, MOIB
			22	Ms. Kermellyna Yayi Voga	Ministry of Information and Broadcasting
			23	Mr. Faris Mathew Richard Mabruk	Managing Director-Govt. Printing Press, MOIB
			24	Mr. Moyiga Korokoto Nduru	Director, SSTVR
			25	Ms. Suzan Alphonse Dumo	Director, SSR
			26	Mr. Ramadan Kamil Abulangi	Head of Engineering & Technical Affairs, SSTV
			27	Mr. Abdallah Noah Khamis	Head of Engineering & Technical Affairs, SSR
			28	Ms. Rejoice Tio Samson Duku	Head of English News, SSTV

2014.06.16 - 2014.06.27	<Equipment Management> Transmitter technology, Electronics/Electric (basic), Audio (basic), Making the Operation Manual for SSR Gumba Station	KBC, AICAD, JKUAT	29	Mr. Gaspren Moyi Stephen Lime	TV Equipment Maintenance, SSTV
			30	Mr. Alfred Eluzai Amosa	TV Engineer, SSTV
			31	Mr. Marcello Kenyi Stephen Awuya	Chief Engineer Radio, SSR
			32	Mr. Badrdin Alfil Ramadan Babiker	Transmitter Maintenance Radio, SSR
			33	Mr. Elizeo Duku Victor	Chief Technician Radio, SSR
2014.06.16 - 2014.06.27	<Program Production> Production of documentary program, proposal and structure, preparation for shooting, location shooting, Howe to make a radio program from a TV report, visit to KBC, conflict mitigation reporting	KBC, AICAD, JKUAT	34	Mr. Owiro Joseph Opoka Severino	Senior Producer, SSR
			35	Ms. Jennifer Alfred Sebit Wani	Senior Programmer, SSR
			36	Ms. Flora Nelson Lokiri	Programme Presenter, SSTV
			37	Ms. Sarah Jonathan Elias Kagaya	Producer, SSTV
			38	Mr. Santo Manase Lo'bak Lukasa	Video Editor, SSTV
2014.06.16 - 2014.06.27	<News Reporting> Public broadcasting, news coverage, news transcripts, interview and voice reporting, crisis and disaster reporting, preparing for and conducting location shooting, Editing, Basics of investigative reporting, Code of ethics for news reporters, KBC, conflict mitigation reporting	KBC, AICAD, JKUAT	39	Mr. Khamis Arkangelo Abbas Lado	Reporter, SSR
			40	Mr. Abate Simon Godo Koboji	Reporter, SSR
			41	Ms. Emmanuela Primo Laku Ladu	Reporter, SSR
			42	Ms. Jane Awadia Gordon Thomas	Reporter, SSTV
			43	Mr. Kamal Juma Atim Abdalfadill	Reporter, SSTV
2014.09.08 - 2014.09.11	<Training for Managers> Seminar on public broadcasting of 3 countries by SSTVR & MOIB, UBC and NHK International	UBC, CAEC	44	Mr. Paul Jacob Kumbo	MOIB
			45	Mr. Faris Mathew Richard Mabruk,	SSTVR
			46	Mr. Moyiga Korokoto Nduru	SSTVR
			47	Ms. Suzan Alphonse Dumo	SSTVR
			48	Mr. Ramadan Kamil Abulangi	SSTVR
			49	Mr. Abdallah Noah Khamis	SSTVR
2014.09.15 - 2014.09.26	<Equipment Management> Television Camera: Electronics/Electric (basic), video (basic), camera technology, location shooting,, Making the operation manual for ENG camera	UBC, CAEC PHOTOLINK, UWAC	51	Mr. Gaspren Moyi Stephen Lime	TV Equipment Maintenance, SSTV
			52	Mr. John Tito Abraham Surur	TV Engineer, SSTV
			53	Mr. Joseph Edward Danga Wani	TV Engineer, SSTV
			54	Mr. Samuel Abud Elikima Kode	Cameraperson, SSTV
			55	Mr. Said Juma Noah Rabani	Cameraperson, SSTV
2014.09.15 - 2014.09.26	<Program Production> Studio production, educational program for children, script writing for studio program, shooting at studio	UBC, CAEC	56	Mr. Abraham Telar Kue Kun	Cameraperson, SSTV
			57	Mr. Khamis John Brown Ezikia	Radio presenter, SSR
			58	Mr. Wathila Awad Morjan Mohammed	Radio presenter, SSR
			59	Mr. Lotto Alfred Adot Banya	Program producer/presenter
2014.09.15 - 2014.09.26	<News Reporting> Election coverage, media and journalism, code of ethics, news value judgement,, importance of social news, script writing, interviewing and reporting, story board and structure, location hunting and interviewing, editing, disaster and conflict reporting	UBC, CAEC, UWEC	60	Mr. Emmanuel Mayom Luil	TV news reporter
			61	Ms. Jukeji Paul Baba Ndogo	News presenter
			62	Ms. Suzan Ezra Gordon Bali	Senior News reporter
			63	Mr. Martin Justin Paul	News Editor
			64	Mr. Majak Deng Bulabek	TV Presenter
2014.11.12 - 2014.11.14	<Training for Managers> Broadcasting corporation act, Security for journalists, Roles of media in democratization, State reconciliation and media, KBC and democracy, Public broadcasting and democratization, Roles of SSBC, Justice in transitional society, Media laws	KBC, AICAD, JKUAT	65	Mr. Paul Jacob Kumbo,	MOIB
			66	Mr. Faris Mathew Richard Mabruk,	SSTVR
			67	Mr. Moyiga Korokoto Nduru	SSTVR
			68	Ms. Suzan Alphonse Dumo	SSTVR
			69	Mr. Ramadan Kamil Abulangi	SSTVR
			70	Mr. Abdallah Noah Khamis	SSTVR
			71	Ms. Rejoice Tio Samson Duku	SSTVR
			72	Mr. John Kon Kelei	MOIB
2014.11.17 - 2014.11.28	<Equipment Management> Basics of electricity, camera technology and operation, DC and AC circuit and its application, Digital circuit and its application, shooting at AICAD, Making the operation manual for sound mixer	KBC, AICAD, JKUAT	73	Mr. Gaspren Moyi Stephen	TV Equipment Maintenance, SSTV
			74	Mr. Angelo Macham Madut	TV Engineer, SSTV
			75	Mr. Charles Phillip Mothok Kuedh	Cameraperson, SSTV
			76	Mr. Emmanuel Nasona Sowka Ludo	Cameraperson, SSTV
			77	Mr. Moses Taban Sereno Abii	Radio Engineer, SSTV
2014.12.01 - 2014.12.12	<Equipment Management> Basics of electricity, camera technology and operation, DC and AC circuit and its application, Digital circuit and its application, location shooting in Jomali Village & Karura Forest, shooting at Studio Making the operation manual for sound mixer	KBC, AICAD, JKUAT	78	Mr. Gaspren Moyi Stephen	TV Equipment Maintenance
			79	Mr. Bakri Zakaria Ismail Rondyang	TV Engineer
			80	Mr. Paul Marcello Waden Kose	TV Engineer
			81	Mr. Jackson Lole Mikaya Ombasa	Camera person
			82	Ms. Hayat Abdalla Ali Moses	Camera person
2014.11.17 - 2014.11.28	<Program Production> public broadcasting and media laws, program production (basic), video editing (basic), studio program shooting and production, program structure and themes, camera workshop, narration recording	KBC, AICAD, JKUAT	83	Mr. James Nyak Riek Bong	Programme producer
			84	Mr. Victor Ladu Wani Subek	Editor
			85	Ms. Ajok Ayay Kon Akol	TV news presenter
			86	Mr. Lotto Alfred Adot Banya	Programme producer
			87	Mr. Lawrence Pitia Nichola Lubang	Programme producer

2014.12.01 - 2014.12.12	<Program Production> video editing (basic), studio program, program structure and themes, camera workshop, shooting at Karura Forest and AICAD, narration recording	KBC, AICAD, JKUAT	88	Mr. James Nyak Riek Bong	Programme producer
			89	Mr. Abraham Telar Kuc Kun	Programme producer
			90	Ms. Nejwa Haron Fadol Morjan	Programme producer
			91	Ms. Paula John Zakharia Pitia	Programme producer
			92	Ms. Rita John Lado	SSTV Presenter
2014.11.17 - 2014.11.28	<News Reporting> public broadcasting and media laws, production flow, information gathering, program proposal, video shooting, location hunting in Njemuka village, structure planning, interviewing, script writing, location schedule, shooting list, camera workshop, editing, narration writing and recording, disaster reporting, media and journalism	KBC, AICAD, JKUAT	93	Ms. Leila Osman Khamis	Programme producer
			94	Mr. Edir Dauneto Stephen Omunu	Programme producer
			95	Mr. Peter Machok Monykuer Lal	News Reporter
			96	Mr. Khamis Arkangelo Abbas Lado	News Reporter
			97	Ms. Achai Chol Aguek Mayen	News Reporter
2014.12.01 - 2014.12.12	<News Reporting> information gathering, program proposal, video shooting, location hunting in Jomali Village, structure planning, interviewing, script writing, location schedule, shooting list, camera workshop, location shooting in Jomali Village, editing, narration writing and recording, disaster reporting, media and journalism	KBC, AICAD, JKUAT	98	Ms. Leila Osman Khamis	Programme producer
			99	Ms. Lina John Yad Luy	TV news presenter
			100	Mr. John Joseph Deng	News Reporter
			101	Mr. Mario Suleiman Bol Adam Aguer	News Reporter
			102	Mr. Jukeji Paul Baba Ndogo	News presenter/ Reporter
2015.02.02 - 2015.02.15	<Equipment Maintenance and Management> Middle/Advanced: Audio, Video, Upgrading developed manuals	SONY YAMAHA training center in Dubai	103	Mr. Abdallah Noah Khamis	Head of Engineering & Technical Affairs/SSR
			104	Mr. Ramadan Kamil Abulangi	Head of Engineering & Technical Affairs/SSTV
			105	Mr. Gaspren Moyi Stephan	Engineer/SSTV
			106	Mr. Badrdin Alfil Ramadan Babiker	Engineer/SSR
			107	Mr. Edward Luka Benjamin Wani	Engineer, SSTV
2016.02.22 - 2016.02.26	<Workshop for Management> Kigali workshop	Rwanda Broadcasting Agency	108	Prof. William Hai Zaza	Chairperson, Board of Directors, South Sudan Broadcasting Corporation
			109	Mr. Ramadan Chadar Dhok LOKBAI	Member, Board of Directors, South Sudan Broadcasting Corporation
			110	Ms. Lily Nelson Michael TABAN	Programming, South Sudan TV
			111	Ms. Rejoice Tio Samson DUKU	News, South Sudan TV
			112	Mr. James Nyak Riek BONG	Programming, South Sudan TV
			113	Mr. Marcello Nazrio Loyoro OPOKA	News, South Sudan Radio
			114	Mr. Gerbel Lam Moug CHOL	Programming, South Sudan Radio
2016.08.24 - 2016.08.29	<News Reporting - TV Crew> TICAD VI in Nairobi, Kenya		116	Ms. Rejoice Tio Samson DUKU	Head of English News, TV, SSBC
			117	Mr. Deng Nyok Deng Wol	Producer/Programmer, TV, SSBC
			118	Mr. Tekajwok Stephen Ogut Obongo	Reporter, TV, SSBC
2017.07.28 - 2017.07.29	<Joint Workshop with UBC> "Middle/Long term Roadmap for South Sudan Broadcasting Corporation" in Kampala, Uganda	UBC	119	Mr. Daniel Adiang Nikier Koloung	Cameraperson, TV, SSBC
			120	Prof. William Hai Zaza	Chairperson, Board of Directors, SSBC
			121	Mr. Michael Ton	Member, Board of Directors, SSBC
			122	Ms. Tereza Ciricio	Member, Board of Directors, SSBC
			123	Mr. James Magok Chilim	Managing Director, SSBC
			124	Mr. Moyga Nduru	Editor in Chief, TV, SSBC
			125	Mr. Abdalla Noah	Acting Director for Radio Engineering, SSBC
			126	Ms. Rejoice Tio Samson	Head of English News, TV, SSBC
2017.08.13 - 2017.08.26	Training of Trainers for Program Production in Kampala, Uganda	UBC, CAEC, UWEC	127	Mr. Paul Jacob Kumbo	Director General of Information, MoICTP
			128	Mr. Faris Mathew Richard Mabruk	Director of Projects, MoICTP
			129	Mr. James Nyak Riek Bong	Programming, TV, SSBC
2017.08.13 - 2017.08.26	Training of Trainers for Engineers in Kampala, Uganda	UBC, CAEC, UWEC	130	Mr. James Waden	TV, SSBC
			131	Ms. Asunta Jangara Taweil	Radio, SSBC
			132	Mr. John Tito Abraham Sturur	Engineer, SSBC
2017.08.27 - 2017.09.09	Training of Trainers for News, Cameraperson, Video Editors in Uganda	CAEC, UWEC	133	Mr. Paul Marcello Waden Kose	Engineer, SSBC
			134	Mr. Oliver Matayo Ware	Engineer, SSBC
			135	Mr. Khamis Arkangelo Abbas Lado	Reporter, Radio News, SSBC
			136	Mr. Monday James Figa	Reporter, Radio News, SSBC
			137	Ms. Leila Osman Khamis	Reporter, TV, SSBC
2017.10.22 - 2017.11.04	Training of Trainers for Program Production in Kigali, Rwanda	Chez Lando, RBA	138	Mr. Francis Mawien Baak	Reporter, TV, SSBC
			139	Mr. Santo Manase Lo'bak Lukasa	Video Editor, SSTV
			140	Mr. Samuel Laki Lonko Majubura	Cameraperson, SSTV
2017.10.22 - 2017.11.04	Training of Trainers for Program Production in Kigali, Rwanda	Chez Lando, RBA	141	Mr. James Nyak Riek Bong	Programming, TV, SSBC
			142	Mr. James Waden	TV, SSBC
			143	Ms. Asunta Jangara Taweil	Radio, SSBC

2017.10.22 - 2017.11.04	Training of Trainers for News, Cameraperson, Video Editors in Kigali, Rwanda	Chez Lando, RBA	144	Mr. Khamis Arkangelo Abbas Lado	Reporter, Radio News, SSBC
			145	Mr. Mario Suleiman	Reporter, Radio News, SSBC
			146	Ms. Leila Osman Khamis	Reporter, TV, SSBC
			147	Mr. Francis Mawien Baak	Reporter, TV, SSBC
			148	Mr. Santo Manase Lo'bak Lukasa	Video Editor, SSTV
2017.11.09 - 2017.11.20	Training of Trainers for Equipment in Dubai, UAE	Premier Inn Dubai Investments Park, Mediacast	149	Mr. Samuel Laki Lonko Majubura	Cameraperson, SSTV
			150	Mr. Gaspren Moyi Stephan	Engineer, SSBC
			151	Mr. John Tito Abraham	Engineer, SSBC
			152	Mr. Badrdin Alfi Ramadan	Engineer, SSBC
			153	Mr. Joval Tombe Charles	Engineer, SSBC
2018.01.31 - 2018.02.04	Roadmap Formulation Workshop in Kigali, Rwanda	Chez Lando, RBA	154	Ms. Jessica Lala Anthony Olum	Engineer, SSBC
			155	Mr. Oliver Elario Durman	Engineer, SSBC
			156	Mrs. Susan D. Alphonse	DG SSBC team leader
			157	Mr. Moyga Nduru	Acting Director for TV, SSBC
			158	Mr. Abdalla Noah	Acting Director for Radio Engineering, SSBC
			159	Ms. Rejoice Tio Samson	Head of English News, TV, SSBC
			160	Mr. Paul Jacob Kumbo	Director General of Information, MoICTP
2018.02.04 - 2018.02.09	Training of Trainers for Equipment 1 in Kigali, Rwanda	Chez Lando, RBA	161	Mr. Abubaker Ali Surur	Acting Director for Radio, SSBC
			162	Mr. Vitale Nemesio Oduho	MD Advisor
2018.02.08 - 2018.02.14	Training of Trainers for Equipment 2 in Kigali, Rwanda	Chez Lando, RBA	163	Mrs. Grace John Dollo	TV Engineering
			164	Mrs. Grace John Dollo	TV Engineering
2018.02.04 - 2018.02.14	Training of Trainers for News, Cameraperson, Video Editors in Kigali, Rwanda	Chez Lando, RBA	165	Mr. John Tito Abraham	Engineer, SSBC
			166	Mr. Badrdin Alfi Ramadan	Engineer, SSBC
			167	Mr. Bakri Zakaria Ismail Rondyang	Engineer, SSBC
2018.02.14 - 2018.02.23	Training of Trainers for Program Production in Kigali, Rwanda	Chez Lando, RBA	168	Mr. Joseph Juma Shabango	Engineer, SSBC
			169	Mr. Khamis Arkangelo Abbas Lado	Reporter, Radio News, SSBC
			170	Mr. Mario Suleiman	Reporter, Radio News, SSBC
			171	Ms. Leila Osman Khamis	Reporter, TV, SSBC
			172	Mr. Francis Mawien Baak	Reporter, TV, SSBC
2018.02.18 - 2018.02.22	Roadmap Formulation Workshop part2 in Kigali, Uganda	Chez Lando, RBA	173	Mr. Santo Manase Lo'bak Lukasa	Video Editor, SSTV
			174	Mr. Samuel Laki Lonko Majubura	Cameraperson, SSTV
			175	Mr. James Nyak Riek Bong	Programming, TV, SSBC
			176	Mr. James Waden	TV, SSBC
			177	Ms. Asunta Jangara Taweil	Radio, SSBC
			178	Mr. Cosmos George	Program Editor, TV, SSBC
			179	Mr. Deng Nyok Deng Wol	Producer/Programmer, TV, SSBC
			180	Mr. Joice John Thomas Lowaya	Presenter, TV, SSBC
			181	Prof. William Hai Zaza	Chairperson, Board of Directors, SSBC
			182	Mr. Michael Ton	Member, Board of Directors, SSBC
			183	Ms. Tereza Ciricio	Member, Board of Directors, SSBC
			184	Mr. James Magok Chilim	Managing Director, SSBC
			185	Ms. Agathe David Lado	Member, Board of Directors, SSBC

MoICTP: Ministry of Information, Communication and Technology and Postal Service (Former Ministry of Information and Broadcasting: MOIB)

SSBC: South Sudan Broadcasting Corporation (Previously: South Sudan TV & Radio: SSTVR)

KBC: Kenya Broadcasting Corporation

UBC: Uganda Broadcasting Corporation

AICAD: African Institute for Capacity Development

JKUAT: Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology

3 - 3 供与機材一覧

Annex3-3. List of equipment procured under the Project (as of November 2018)

Category of good	Maker	Product Name	QTTY	From Local/ Japan	Installed Place	Purpose of Use	Project Year	Date of installation /handover
Notebook PC	Acer	AS5750-9422	2	Japan	SSBC Project Office	Project office management	Year 1	
Notebook PC	FUJITSU	FUJITSU LIFEBOOK MH30/G	1	Japan	SSBC Project Office	Project office management	Year 1	
Projector		EB-485WT	2	Japan	SSBC Project Office	Training	Year 1	
Projector		EH-DM30	1	Japan	SSBC Project Office	Training	Year 1	
Power Stabilizer		PMC18-5A(234V)	2	Japan	SSBC Meeting	Project office management	Year 1	
Power Stabilizer		PAN35-20A(249V)	1	Japan	SSBC Project Office	Project office management	Year 1	
Desktop PC	DELL	DELL Optiplex 9010	3	Japan	SSBC Meeting	Project office management	Year 1	
Photocopying Machine	Kyocera	Kyocera KM3050CI Color Machine	1	Local	SSBC Project Office	Project office management	Year 1	
TV	Sony	Sony LED Size32"BX35	1	Local	SSBC Project Office	Monitoring broadcasts of SSBC	Year 1	
MacBook Pro	Apple	MacBook Pro 15inch Retina	4	Japan	SSBC Project office (3), Engineering Dept (1)	News and programme production	Year 1	
iMac	Apple	iMac 21.5inch	1	Japan	SSBC Meeting	News and programme production	Year 1	
Camera	SONY	XDCAM Camcorder SONY PXW-X160	2	Japan	SSBC Engineer	Production and operation	Year 2	
Accessory Kit for Camera	SONY	Accessory Kit for Camera SONY ACC-U60	2	Japan	SSBC Engineer	Production and operation	Year 2	
LED light	IEX MK-L3V	LED light IEX MK-L3V	1	Japan	SSBC Engineer	Production and operation	Year 2	
Mixer Recorder	Rolland	Audio Mixer Recorder Rolland R88	1	Japan	SSBC Engineer	Production and operation	Year 2	
Wireless Microphone	SONY	Wireless Microphone SONY UWP-D11	1	Japan	SSBC Engineer	Production and operation	Year 2	
Shotgun Microphone	AUDIOTECHNICA	Shotgun Microphone AUDIOTECHNICA	1	Japan	SSBC Engineer	Production and operation	Year 2	
Oscilloscope	TECHTORONICS	Oscilloscope TECHTRONICS TDS2004C	1	Japan	SSBC Project Office	Production and operation	Year 2	
Notebook PC	Dell	Dell Inspiron 5558 (MS Office & Anti virus software) with cable security locks	18	Local	SSBC	News and programme production	Year 3	2016/3/1
Desktop PC	Dell	Dell Optiplex 7020 with MS Office, Anti Virus with cable security locks	16	Local	SSBC	News and programme production	Year 3	2016/3/1
PC for Server	Dell	Dell Optiplex 7020 Windows Servier 2012 with cable security locks	1	Local	SSBC	News and programme production	Year 3	2016/3/1
NAS	NETGEAR	NETGEARready NAS102 with cable security	2	Local	SSBC	News and programme production	Year 3	2016/3/1
UPS	APC	APC UPS 650V	18	Local	SSBC	News and programme production	Year 3	2016/3/1
Stabilizer	Jacob	Jacob stabilizer 3KVA	2	Local	SSBC	News and programme production	Year 3	2016/3/1
Copier	Kyocera	Kyocera TA-3551C1 Network printer	2	Local	SSBC	News and programme production	Year 3	2016/3/1
Voice Recorder	TASCAM	Cannon Plug TASCAM DR-40	23	Local	SSBC	News and programme production	Year 3	2016/3/1
LAN cabling		Switching hub & WIFI router	1	Local	SSBC	News and programme production	Year 3	2016/3/1
Switcher	NewTek	TC8000MS TriCaster 8000 with Control	1	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Video Monitor	Sony	FD40W600 SONY Bravia 40 Inch Monitors	2	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Audio Monitor	Genelec	8030 Genelec Studio Monitors	1	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Shared Media Serverband Network Switch - Up to 24 users max	ProMAX	ProMAX Shared Media Server Online 1000	1	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
		ProMAX Platform 10GbE LC SFP+ Standard	2	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
		2 Port 10 GbE Card	1	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
		4 Port 1 GbE Card	1	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
		Promax Switch (24) port 1GbE + (2) 10GbE	1	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Software	NewTek	Virtual Set Editor VSE2.5	1	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Video	Blackmagic	Smart Video Hub 20x20	1	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Video	Blackmagic Designs	Video hub Master Control	1	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Embedder	Blackmagic Designs	Mini Converter Analogue to SDI 4k CONVMCAUDS4K 2 Slackmagic Designs Mini Converter Analogue to SDI 4k CONVMCAUDS4K	2	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
De-Embedder	Blackmagic Designs	CONVMASA4K Mini Converter SDI to Analogue 4k	4	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
UpDownCrossvConverter	Blackmagic	CONVMUDC Mini Converter Up Down Cross	2	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
HDMI SDI Converter	Blackmagic	CONVMBHS24K Mini Converter HDMI to	3	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
DVD Player	Sony	Sony Consumer DVD Player	1	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Ear Piece	TELEX	CES-1 Telex-Ear set Kit for Telex IFB	2	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Intercom Mic	TELEX/RTS	PCM-90-18 Goose Neck microphone	3	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Line Splitter	Whirlwind	Whirlwind LBS Line Balancer/Splitter	6	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Drop Mount	Arri/Manfrotto	Telescopic Drop Arm	5	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Pantograph	Arri/Manfrotto	Adjustable Pantograph Max 3.8 meter	3	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Wall/Desk Mount	N/A	LCD Screen Wall mount	2	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Cables	Assorted	Assorted Cables SDL,Power,HDMI,USB, CAT6 Cables and RJ45 Connectors	1	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Audio Mixer	Soundcraft	FX161I Soundcraft	1	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Power Distribution		Rack Mount Output Power Distribution Unit	2	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Cabinet	Red Star	Free standing 18 U Equipment Rack	1	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Green Screen	Westcott	Westcott Green Chroma key Sheet Background 10x24ft	1	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Green Screen Lights	Nunguang	CN-1200SA Nunguang 2x1 LEDLight Panel	4	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Lights for Talent	Nunguang	CN-600SA Nunguang 1x1 LED Light Panel	6	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
KVM	Adder	ALIF2002P ADDERlink infinity Dual	1	Kenya	SSBC	TV Studio production	Year 3	2016/3/1
Belt Pack	TELEX/RTS	TR-700 TELEX/RTS Wireless intercom belt	4	Kenya	SSBC	OB Van	Year 3	2016/3/1
Belt Pack Battery	TELEX/RTS	BP-800--NM TELEX/RTS Wireless intercom rechargeable Ni---mh Battery	4	Kenya	SSBC	OB Van	Year 3	2016/3/1
Headphone with Mic	TELEX/RTS	PH-88 TELEX/RTS intercom Single Sided	2	Kenya	SSBC	OB Van	Year 3	2016/3/1
Antenna	TELEX/RTS	F01U118464 TELEX CLA--8 1/2 Wave	2	Kenya	SSBC	OB Van	Year 3	2016/3/1
Antenna mounting kit	TELEX/RTS	F01U118161 Telex AB--2 Universal Bracket	2	Kenya	SSBC	OB Van	Year 3	2016/3/1
Switcher	NewTek	TC460MS Tricaster 460 with Control Surface	1	Kenya	SSBC	OB Van	Year 3	2016/3/1
Video Router	Blackmagic	VHUBSMART6G2020	1	Kenya	SSBC	OB Van	Year 3	2016/3/1
Video Monitor	Sony	FD40W600	2	Kenya	SSBC	OB Van	Year 3	2016/3/1
Cables	Assorted	Assorted Cables---Power,HDMI,USB etc.	1	Kenya	SSBC	OB Van	Year 3	2016/3/1
Wall/Desk Mount	N/A	LCD Screen Wall mount	2	Kenya	SSBC	OB Van	Year 3	2016/3/1
Radio System	Clyde	So Easy Compact	1	Kenya	SSBC	Radio Studio	Year 3	2016/3/1
Extra TX Switch	Clyde	TSM1 Clyde Broadcast TX switch and	1	Kenya	SSBC	Radio Studio	Year 3	2016/3/1
Cables	Assorted	Assorted Cables	1	Kenya	SSBC	Radio Studio	Year 3	2016/3/1

Sampler	Roland	SP--404SX	3	Kenya	SSBC	Radio Studio	Year 3	2016/3/1
Extra Cable Loom	Clyde	SIR PP. Pre--wired Cable Looms	1	Kenya	SSBC	Radio Studio	Year 3	2016/3/1
AM STY	RVR	PTRL/PXRL	1	Kenya	SSBC	Radio Studio	Year 3	2016/3/1
Audio Processor	Audessence	ONE AM	1	Kenya	SSBC	Radio Studio	Year 3	2016/3/1
Audio Mixer	Soundcraft	EMP--6	1	Kenya	SSBC	OB Van	Year 3	2016/3/1
LTO Archeive Device	ProMax	Pro Cache 6 Stand Alone LTO Archeive Device	1	Kenya	SSBC	Pro Max archeive and management	Year 3	2016/3/1
Spares Kit	ProMax	Online 1000 Spares Kit 660W Power Supply 2	1	Kenya	SSBC	Pro Max archeive and management	Year 3	2016/3/1
Spare 4TB HD	Western Digital	WD Enterprise Class 4TB Hard Drive	1	Kenya	SSBC	Pro Max archeive and management	Year 3	2016/3/1
LTO Cassettes	Fuji	I6310732 15 Cassettes LTO 6 2.5TB	15	Kenya	SSBC	Pro Max archeive and management	Year 3	2016/3/1
Operational	Local	Screen, Keyboard and Mouse	1	Kenya	SSBC	Pro Max archeive and management	Year 3	2016/3/1
High Speed Connectivity Card	ProMax	10GbE Optional Fibre Card 2 port 10GbE Fibre Connectivity Card with SFP's	1	Kenya	SSBC	Pro Max archeive and management	Year 3	2016/3/1
Platform24 port Switch	ProMax	Platform Switch 24	1	Kenya	SSBC	Pro Max archeive and management	Year 3	2016/3/1
ProMax I/O Module	ProMax	ProMax I/O Module for additional Switch connection to Fibre	1	Kenya	SSBC	Pro Max archeive and management	Year 3	2016/3/1
DMX Lighting Controller	Strand	I10 Plus	1	Kenya	SSBC	Lighting DMX contrrol surface	Year 3	2016/3/1
Base Station	ClearCom	MS--702	1	Kenya	SSBC	Inter-communication for studio B	Year 3	2016/3/1
Interface	ClearCom	TW-12C Interface to work with TELEX/RTS	1	Kenya	SSBC	Inter-communication for studio B	Year 3	2016/3/1
Single Ch Belt Packs	ClearCom	RS-701 ClearCom Clear Com Wired Single Ch Belt Packs	5	Kenya	SSBC	Inter-communication for studio B	Year 3	2016/3/1
Audio Cabling	CATS	Audio Cable Wiring	1	Kenya	SSBC	Inter-communication for studio B	Year 3	2016/3/1
Single Cup Headsets	ClearCom	CC-300-X4 Noise Cancelling High Quality Single Muff Headset and Microphone	6	Kenya	SSBC	Inter-communication for studio B	Year 3	2016/3/1
Compact Solid State	SONY	SONY PXW-XI60/C	4	Dubai	SSBC	News reporting and programme	Year 3	2016/3/1
Carry Case Camcorder	SONY	SONY LCS-G1BP Carry Case B&i Camera	4	Dubai	SSBC	News reporting and programme	Year 3	2016/3/1
Battery Pack	SONY	SONY 2BP-U60 Battery Pack 2PAC	4	Dubai	SSBC	News reporting and programme	Year 3	2016/3/1
Battery Charger	SONY	SONY BC-U2 Battery Charger for Battery	4	Dubai	SSBC	News reporting and programme	Year 3	2016/3/1
Wireless Microphone Package	SONY	SONY UWP-D11/K21 UHF Wireless Microphone Package	4	Dubai	SSBC	News reporting and programme production	Year 3	2016/3/1
Handy Cam	SONY	SONY HDR-CX405 Handy Cam with Exmor RTM CMOS sensor	4	Dubai	SSBC	News reporting and programme production	Year 3	2016/3/1
VTR Repari Kit	SONY	(1) i- Link board (Model: HVR- M35E Serial Number: 0211809 x 2 (2). processor board (Model: HVR- M35E Serial Number: 0211809) x 1 (3) i- Link board (Model: HVR- M25AE Serial Number: 0211900) x 2 (4) processor board (Model: HVR- M25AE Serial Number: 0211900) x 2	1	Dubai	SSBC	News reporting and programme production	Year 3	2016/3/1
HDV Compact VTR	SONY	SONY HVR-M35E HDV/DVCAM/DV production flexibility with support for all of the	2	Dubai	SSBC	News reporting and programme production	Year 3	2016/3/1
Tripod	SONY	LIBEC LX7M Professional 2-Stage Aluminum Tripod System w/ Mid Level Spreader	4	Dubai	SSBC	News reporting and programme production	Year 3	2016/3/1
Battery Light	SONY	SONY HV-LBPC/C LED Battery Video Light	4	Dubai	SSBC	News reporting and programme	Year 3	2016/3/1
Dynamic Mic	SONY	SONY F-720	4	Dubai	SSBC	News reporting and programme	Year 3	2016/3/1
Electric Condenser	SONY	SONY ECM-674	4	Dubai	SSBC	News reporting and programme	Year 3	2016/3/1
Audio Mixer	SONY	SONY DMX-P01 lightweight and portable field Digital Portable Audio Mixer	1	Dubai	SSBC	News reporting and programme production	Year 3	2016/3/1
Shoe Mount Adaptor	SONY	SONY SMAD-P3 Multi-Interface Shoe Adapter for connecting the UWP-D series wireless receiver directly to a camera	4	Dubai	SSBC	News reporting and programme production	Year 3	2016/3/1
Headphone	SONY	SONY MDR-7506/1 Stereo Headphone	4	Dubai	SSBC	News reporting and programme	Year 3	2016/3/1
Media Adaptor	SONY	SONY MEAD-SD02 Sony Media Adaptor	8	Dubai	SSBC	News reporting and programme	Year 3	2016/3/1
Memory Card	SONY	SONY sF-64P SD Memory Card	8	Dubai	SSBC	News reporting and programme	Year 3	2016/3/1
SD card	SANDISK	SD card 64GB	4	Local	SSBC	News reporting and programme	Year 3	2016/3/1
Hard Disc Drive	WD Elements	HDD USB3.0portable HDD 1TB	10	Japan	SSBC	Programme production	Year 3	2016/1/22
PC	Apple	iMac 21.5 inch display	4	Japan	SSBC	Programme production	Year 3	2016/1/22
PC	Apple	MacBook Pro with Retina Display 13.3/2.9	2	Japan	SSBC	Programme production	Year 3	2016/1/22
Video Interface	AJA	Portable Video Audio Interface	2	Japan	SSBC	Programme production	Year 3	2016/1/22
		DRUM ASSY, DEH-16A-R	4	Japan	SSBC		Year 3	
		LIMITTER ASSY, PINCH	4	Japan	SSBC		Year 3	
		TENSION REGULATOR G ASSY	4	Japan	SSBC		Year 3	
		GEAR ASSY, NO.3	4	Japan	SSBC		Year 3	
		WIRE, FLAT TYPE (18CORE)	1	Japan	SSBC		Year 3	
		MOUNTED C.BOARD, JK375	4	Japan	SSBC		Year 3	
		CHECK KIT, RF (WITH MOUNT)	1	Japan	SSBC		Year 3	
		NEW LANC JIG	1	Japan	SSBC		Year 3	
		LANC CABLE	1	Japan	SSBC		Year 3	
		TOOL, SCREWDRIVER	1	Japan	SSBC		Year 3	
		CASSETTE STANDARD PLATE	1	Japan	SSBC		Year 3	
		REEL STANDARD BASE	1	Japan	SSBC		Year 3	
		TENSION REGULATOR ADJ. BOARD	1	Japan	SSBC		Year 3	
		CPC-8	1	Japan	SSBC		Year 3	
		PASS ADJUSTMENT BOARD	1	Japan	SSBC		Year 3	
		TAPE, ALIGNMENT XH2-1AST (N&P)	1	Japan	SSBC		Year 3	
		TAPE, ALIGNMENT XH2-3H	1	Japan	SSBC		Year 3	
		ALIGNMENT TAPE, XH5-3P	1	Japan	SSBC		Year 3	
		ALIGNMENT TAPE, XH5-5P	1	Japan	SSBC		Year 3	
Tele Promper	PROTEC	HDP-2000F	1	Japan	SSBC	For TV Studio	Year 5	
Tele Promper carrying case	PROTEC	SC2000	1	Japan	SSBC	For TV Studio	Year 5	
Tri Caste update	TriCaster	Advanced Edition	1	Local	SSBC	Tri Caste update	Year 5	
ProMAX software update	TriCaster	Promax Online 1000	1	Local	SSBC	Tri Caste update	Year 5	
Dynamic Microphone	SHURE	SM63L-X	2	Japan	SSBC	Fro ENG	Year 5	
Earphone	JVC	SE-CL522-R	4	Japan	SSBC	Fro ENG	Year 5	
Earphone	SONY	MDR-EX15LP B	10	Japan	SSBC	Fro ENG	Year 5	
Shotgun Microphone for	SONY	ECM-674/9X	1	Japan	SSBC	Fro ENG	Year 5	
Lapel Microphone for ENG	SONY	ECM77BC/9X	2	Japan	SSBC	Fro ENG	Year 5	
SDXC card	SONY	SF-64P	10	Japan	SSBC	Fro ENG	Year 5	
Head set	SONY	MDR-7506	2	Japan	SSBC	Fro ENG	Year 5	
HDMI cable 3m	GREEN HOUSE	GH-DHD30BK	2	Japan	SSBC	Fro ENG	Year 5	
HDMI cable 1.5m	GREEN HOUSE	GH-DHD15BK	2	Japan	SSBC	Fro ENG	Year 5	

USB Mouth	SANWA SUPPLY	MA-BL3UPBK	18	Japan	SSBC	Fro ENG	Year 5
Solar Stop watch	SEIKO	SVAJ103	12	Japan	SSBC	Fro ENG	Year 5
Condenser Microphone	Audio Technica	AT5040	3	Japan	SSBC	For Radio Studio	Year 5
Digital Audio Recorder	TASCAM	SS-R200	1	Japan	SSBC	For Radio Studio	Year 5
Open Reel Audio Player	TEAC	X-10R	1	Japan	SSBC	For Radio Studio	Year 5
Dynamic Microphone	SHURE	SM58-LCE	2	Japan	SSBC	For Radio Studio	Year 5
Mic Stand	TAMA	MS20 K&M 23325	2	Japan	SSBC	For Radio Studio	Year 5
Mic holder	TAMA	K&M MH2	5	Japan	SSBC	For Radio Studio	Year 5
Audio Mixer	SOUND CRAFT	SOUNDCRAFT EPM-8	2	Japan	SSBC	For Radio Studio	Year 5
Mic Stand	K&M	K&M 26145	3	Japan	SSBC	For Radio Studio	Year 5
Pop Guard	Aspen pittman	Aspen pittman designs PFM+	3	Japan	SSBC	For Radio Studio	Year 5
Phantom Power Supply	Audio Technica	Audio Technica AT8546a	1	Japan	SSBC	For Radio Studio	Year 5
Audio Cable XLR-XLR	Sound House	CLASSIC PRO MIX050	5	Japan	SSBC	For Radio Studio	Year 5
Audio Cable XLR-Mini	HOSA	HOSA XVMI01F 110M	3	Japan	SSBC	For Radio Studio	Year 5
Audio System	JVC	EX-HR11	1	Japan	SSBC	For Radio Studio	Year 5
Dummy Road	ALTRONIC	Forced Air Cooled 6405-230	1	Japan	SSBC	For Radio Studio	Year 5
Dynamic Microphone	SHURE	SHURE SM63L	3	Japan	SSBC	For Radio OB VAN	Year 5
Mic Sand	K&M	K&M 21060B	3	Japan	SSBC	For Radio OB VAN	Year 5
Carrying Back	K&M	K&M26019	1	Japan	SSBC	For Radio OB VAN	Year 5
Audio Cable XLR-XLR	Sound House	CLASSIC PRO MIX030	3	Japan	SSBC	For Radio OB VAN	Year 5
Head set	SONY	MDR-CD900ST	2	Japan	SSBC	For Radio OB VAN	Year 5
Personal computer	Panasonic	Let's NOTE	3	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
Personal computer	Dell	Inspiration i3567-3964BLK	1	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
I Mac	Apple	Retina 5k	3	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
Macbook	Apple	Macbook Pro	1	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
Mouse	Apple	Magic Mouse 2	5	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
Firewire Adaptor Cable	Apple	Belkin Firewire800-400 Cable	3	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
Thunderbolt Adaptor	Apple	Apple Thunderbolt Adaptor	6	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
Mini Display Port-VGA	Apple	Apple Mini Display Port-VGA Adaptor	2	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
Thunderbolt - Firewire	Apple	Apple Thunderbolt -Firewire Adaptor	3	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
USB-C - USB Adaptor	Apple	USB-C- USB Adaptor	1	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
USB-C - Gigabit Ethernet	Apple	USB-C to Gigabit Ethernet Adaptor	1	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
USB-C - VGA Multiport	Apple	USB-C - VGA Multiport Adaptor	1	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
SD card	Apple	SD UHS-II Card USB-C Reader	1	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
USB-C Thunderbolt	Apple	USB-C - Thunderbolt 2 Adaptor	1	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
Software	Apple	Apple Motion 5	3	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
Software	Apple	Apple Compressor 4	3	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
Software	Apple	Apple Final Cut X	3	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
Software	Apple	Apple Final Cut Studio HD	4	Japan	SSBC	For broadcasting	Year 5
Wireless LAN Analyzer		AirPeap NX	1	Japan	SSBC	Equipment for Training	Year 5
Spectrum Analyzer		Wi-Syp DBx, Chanalyzer	1	Japan	SSBC	Equipment for Training	Year 5
Programmable IC		RF Drive IC-EPM 7064SLC	12	Japan	SSBC	Equipment for Training	Year 5
On tip computer		Getting Started with Arduino	5	Japan	SSBC	Equipment for Training	Year 5
LAN Router		DualComm DCSW-2005L	1	Japan	SSBC	Equipment for Training	Year 5

Remarks:

- 1) There was no procurement of equipment for Year 4 due to distraction of the Project including dispatch of JICA Experts and procurem plan after occurrence of the armed conflict in Juba in July.
- 2) Procurement process for equipment, which are to be installed during the remaining period of Year 5, is ongoing as of November 2018. This list only includes equipment which has already been procured.

3-4 カウンターパート一覧

Annex 3-4. Placement Records of South Sudanese Counterpart Personnel (2013 - 2017) (as of November 2018)

Name & Position of C/Ps	JCC and Working Groups	Participated training/seminar abroad	Period assigned as C/P per position since the commencement of the Project
I. MINISTRY OF INFORMATION, COMMUNICATION AND TECHNOLOGY AND POSTAL SERVICE (Former MINISTRY OF INFORMATION AND BROADCASTING)			
1	Director General of Information (former Director General of Information and Broadcasting) Mr. Mustafa Biang Majak Mr. Paul Jacob Kumbo	JCC/ WG1-Whole Plan Making(Leader) JCC/ WG1-Whole Plan Making	Japan (2013.4) Japan (2013.4), Uganda (2014.9, 2017.07), Kenya (2014.2, 11), Uganda(2017.7), Rwanda(2018.2)
2	Acting Undersecretary Mr. Paul Jacob Kumbo	JCC Chair/ WG1-Whole Plan Making	Japan (2013.4), Uganda (2014.9, 2017.7), Kenya (2014.2, 11), Uganda(2017.7), Rwanda(2018.2)
3	Director of Projects (former Director of State Affairs) Mr. Faris Mathew Richard Mabruk	JCC Secretary/ WG1-Whole Plan Making (Secretary)	Japan (2013.4), Kenya (2014.2, 6,11) Uganda (2014.9, 2017.7),
II. SOUTH SUDAN BROADCASTING CORPORATION (Former SOUTH SUDAN TELEVISION & RADIO)			
1	Chairperson, Board of Directors, SSBC Prof. William Hai Zaza	JCC Chair/ WG1	Rwanda (2016.2), Uganda (2017.7), Rwanda(2018.2)
2	Member, Board of Directors, SSBC Mr. Michael Ton Mangok	JCC/ WG1	Uganda (2017.7), Rwanda(2018.2)
3	Member, Board of Directors, SSBC Mr. Tereza Ciricio	JCC/ WG1	Uganda (2017.7), Rwanda(2018.2)
4	Member, Board of Directors, SSBC Ms. Agathe David Lado	JCC/ WG1	Uganda (2017.7), Rwanda(2018.2)
5	Managing Director, SSBC Mr. James Magok Chilim	JCC (Project Director)/ WG1	Uganda (2017.7), Rwanda(2018.2)
6	Acting Director General Mr. Martin Baba Ms. Suzan Alphonse Dumo	JCC/ WG1/WG3 (South Sudan Special Program Team) JCC	Kenya (2014.2, 6, 9), Rwanda(2018.2)
7	Director of Radio Mr. Rehan Abdelnebi Rehan Ms. Suzan Alphonse Dumo Mr. Abubaker Ali Surur	JCC/ WG1-Whole Plan Making/ WG1-Radio Management(Leader) / JCC	Japan (2013.4), Kenya (2014.6) Kenya (2014.2, 6, 9), Rwanda(2018.2) Rwanda(2018.2)
8	Director of Television Mr. Moyiga Korokoto Nduru Mr. Adil Faris	JCC/ WG1-Whole Plan Making/ WG1-TV Management(Leader)	Japan (2013.4), Kenya (2014.6,11), Uganda (2014.9, 2017.9), Rwanda(2017.7, 2018.2)
9	Editor in Chief, Television Mr. Moyiga Korokoto Nduru	JCC/ WG1-Whole Plan Making/ WG1-TV Management	Japan (2013.4), Kenya (2014.6,11), Uganda (2014.9, 2017.9), Rwanda(2017.7, 2018.2)
10	Director of News, Television Mr. Francis Duka	WG1-Whole Plan Making/ WG1-TV Management/ WG3 (South Sudan Special Program Team)	2013.01.21 - Present
11	Director of News, Radio Mr. Yousif Micheal Dafalla	WG1-Whole Plan Making/ WG1-TV Management	2013.01.21 - Present
12	Director of Radio Engineering Eng. Abdellah Noah Khamis	JCC/ WG1-Whole Plan Making/ WG2 – Radio Equipment Management (Leader)	Japan (2013.4), Kenya (2014.6,11), Uganda (2014.9, 2017.9), Dubai (2015.2), Rwanda(2018.2)
13	Director of Television Engineering Eng. Ramadan Kamil Abulangi Mr. Luka Benjamin	JCC/ WG1-Whole Plan Making, WG1-TV Management, WG2 – Television Equipment Management (Leader) WG2 – Radio Equipment Management (Leader)	Japan (2013.4), Kenya (2014.6,11), Uganda (2014.9), Dubai (2015.2) Japan (2013.7), Dubai (2014.2)
13	D / Director of Engineering, TV Eng. Grace John Dollo	WG1-TV Management, WG2 – Television Equipment Management	Rwanda(2018.2)
14	Head of English Service, News Department, TV Mrs. Rejoice Tio Samson	JCC/ WG1-TV Management/ WG4 – Television News Reporting/WG3 Program production (South Sudan Special Program)	Japan (2013.4), Kenya (2014.6,11, 2016.08), Uganda (2014.9, 2017.7), Rwanda (2016.2, 2018.2)
15	D / Director for Program, Radio Mr. Garbel Lam	WG1-Radio Management, WG3 – Radio Program Production (Leader)	2013.01.21 - Present
16	Head of Arabic Service, Radio Mrs. Fauzia Hezkia	WG1-Radio Management, WG3 – Radio Program Production	2013.01.21 - 2016 (on leave)
17	Head of English Service, Radio Mr. Yunis Ramadan	WG1-Radio Management, WG3 – Radio Program Production	2013.01.21 - Present
18	D/ Head of News, Radio Mr. Marcello Nazario	WG1-Radio Management, WG4 – Radio News Reporting(Leader)	Rwanda (2016.02)
19	Head of Local Languages Mrs. Veronica Lucy	WG1-Radio Management	2013.01.21 - 2015
20	Radio Engineering Eng. Luka Benjamin Wani	WG2 – Radio Equipment Management (Leader)	Japan (2013.7), Dubai (2014.2)
21	Engineer Gumba Transmitter, Radio Eng. Marcello Kenyi	WG2 – Radio Equipment Management	Kenya (2014.6)
22	Maintenance Engineer, Radio Eng. Philip Ezama	WG2 – Radio Equipment Management	2013.01.21 - Present
23	Maintenance Engineer, Radio Eng. Badrdin Alfi Ramadan	WG2 – Radio Equipment Management	Japan (2013.7), Kenya (2014.6), Dubai (2015.2, 2017.11), Rwanda(2018.2)
24	Technician, Radio Mr. Peter Lako Kose	WG2 – Radio Equipment Management	2013.01.21 - Present
25	Radio operation, Radio Mr. Elizeo Auku Victor	WG2 – Radio Equipment Management	Kenya (2014.6)
26	Head of Broadcaster, TV Eng. Gaspren Moyi Stephan	WG2 – Television Equipment Management	Japan (2013.10), Kenya (2014.6, 11, 12), Uganda (2014.9), Dubai (2015.2, 2017.11)

27	Control Room, TV Mr. Chirbek Ruben	WG2 – Television Equipment Management		2013.01.21 - Present
28	Camera Unit, TV Mr. Scopas Modi Mano	WG2 – Television Equipment Management		2013.01.21 - Present
29	Camera Unit, TV Mr. Samuel Laki Lonko Majubura	WG2 – Television Equipment Management	Uganda (2014.9, 2017.08), Rwanda(2017.10, 2018.2)	2013.01.21 - Present
30	Engineering Department, TV Mr. Alfred Eluzai Amusa	WG2 – Television Equipment Management	Japan (2013.7) Kenya (2014.6)	2013.01.21 - Present
31	Engineering Department, TV Mr. John Tito Abraham	WG2 – Television Equipment Management	Uganda (2014.9, 2017.08), Dubai(2017.11), Rwanda(2018.2)	2013.01.21 - Present
32	Engineering Department, TV Mr. Bakri Zakaria Ismail Rondyang	WG2 – Television Equipment Management	Kenya(2014.12), Rwanda(2018.2)	2013.01.21 - Present
33	Engineering Department Mr. Joseph Juma Shabango	WG2 – Television Equipment Operation	Rwanda(2018.2)	2013.01.21 - Present
34	Engineering Department Mr. Paul Marcello Waden Kose	WG2 – Television Equipment Management	Kenya(2014.12), Uganda (2017.08)	2013.01.21 - Present
35	Engineering Department Mr. Oliver Matayo Ware	WG2 – Television Equipment Management	Uganda (2017.08)	2013.01.21 - Present
36	Operation Department, TV Mr. Mustafa Samon	WG2 – Television Equipment Operation		2013.01.21 - Present
37	TV Control Room Mr. Joval Tombe Charles	WG2 – Television Equipment Operation	Dubai(2017.11),	2013.01.21 - Present
38	TV Control Room Ms. Jessica Lala Anthony Olum	WG2 – Television Equipment Operation	Dubai(2017.11),	2013.01.21 - Present
39	TV Control Room Mr. Oliver Elario Durman	WG2 – Television Equipment Operation	Dubai(2017.11),	2013.01.21 - Present
40	Senior Programmer, Radio Mr. Owero Joseph	WG3 – Radio Program Production (South Sudan Special Program)		2013.01.21 - Present
41	Senior Programmer, Radio Mr. Ohen Walter	WG3 – Radio Program Production		2013.01.21 - Present
42	Senior Programmer, Radio Mrs. Jenifer Alfred	WG3 – Radio Program Production (South Sudan Special Program)		2013.01.21 - Present
43	Head of Program, TV Mr. James Nyak Riek Bong	WG3 – Television Program Production (Leader) (South Sudan Special Program Team)	Kenya (2014.11,12), Rwanda (2016.2, 2017.10, 2018.2), Uganda (2017.8)	2013.01.21 - Present
44	Director of Operation, TV Mr. Mustafa Shamsoun	WG3 – Television Program Production		2013.01.21 - Present
45	Executive Producer, Arabic Services, TV Mrs. Awut Charles	WG3 – Television Program Production (South Sudan Special Program Team)	Japan (2014.7)	2013.01.21 - Present
46	Programme Producer/Reporter, English News, TV Mrs. Leila Osman	WG3 – Television Program Production (South Sudan Special Program)/ WG4 –News Reporting	Japan(2014.7), Kenya (2014.11,12), Uganda (2017.8), Rwanda(2017.10, 2018.2)	2013.01.21 - Present
47	Program, TV Mr. Deng Nyok Deng	WG3 – Television Program Production	Kenya (2016.8), Rwanda(2018.2)	2013.01.21 - Present
48	English Services, TV Mr. Kizito Oketa Modest	WG3 – Television Program Production (South Sudan Special Program Team)	Japan (2014.7)	2013.01.21 - Present
49	Video Editor, TV Mr. Simon Bingo Lokwang	WG3 – Television Program Production		2013.01.21 - Present
50	Video Editor, TV Mr. Santo Manas Lobak	WG3 – Television Program Production	Kenya (2014.6), Uganda (2017.8), Rwanda(2017.10, 2018.2)	2013.01.21 - Present
51	Camera, TV Mr. Emmanuel Nasona	WG3 –Program Production	Uganda (2014.9)	2013.01.21 - 2015
52	Radio Producer, Radio Mr. Abraham Garang	WG3- Program Production (South Sudan Special Program)	Kenya (2014.2)	2015.06 - Present
53	Radio Producer, Radio Ms. Hellen George	WG3-Program Production (South Sudan Special Program)		2015.06 - Present
54	Radio Producer, Radio Mr. Mandera Florence	WG3-Program Production	Japan (2014.7)	2015.06 - Present
55	Programme, TV Ms. Nejiwa Haron Fadol Morjan	WG3-Program Production	Kenya (2014.12)	2015.06 - Present
56	Presenter, TV Mr. Joice John Thomas Lowaya	WG3-Program Production	Rwanda(2018.2)	2015.06 - Present
57	Chief Editor, Radio Mr. Lucia Hassan Ochan	WG4 – Radio News Reporting		2013.01.21 - Present
58	Senior Editor, Radio Mr. Hassan Elisa Jamba	WG4 – Radio News Reporting		2013.01.21 - Present
59	Senior Editor, Radio Mr. Moses Tombrom	WG4 – Radio News Reporting		2013.01.21 - Present
60	Reporter, Radio Mr. Peter Mori	WG4 – Radio News Reporting		2013.01.21 - Present
61	Reporter, Radio Mr. Joseph Agrab	WG4 – Radio News Reporting		2013.01.21 - Present
62	Arabic Service, TV Mr. Gabriel Daniel	WG4 – Television News Reporting		2013.01.21 - Present
63	Reporter, English Service, TV Mr. Henry Jada	WG4 – Television News Reporting		2013.01.21 - 2014 (at office of vice-president)
64	Senior Arabic Service, TV Ms. Charity Alias	WG4 – Television News Reporting		2013.01.21 - Present

65	Arabic Service, TV Ms. Kamal Juma	WG4 – Television News Reporting	Kenya (2014.6)	2013.01.21 - Present
66	Senior Video Editor, TV Mr. Cosmos George Y. Mundu	WG4 – Television News Reporting/WG3 program production (South Sudan Special Program Team)	Rwanda(2018.2)	2013.01.21 - Present
67	Video Editor, TV Mr. Victor Lado W.	WG4 – Television News Reporting	Kenya (2014.11)	2013.01.21 - Present
68	English News Presenter, Reporter, Editor, English Service, TV Mr. Garang John	WG4 –News Reporting		2013.01.21 - Present
69	Arabic Service, TV Mr. Francis Mawien	WG4 –News Reporting	Uganda (2017.8), Rwanda(2017.10, 2018.2)	2015.06 - Present
70	News translator, reporter, Radio Mr. Mario Suleiman Bol Adam Aguer	WG4 –News Reporting	Kenya (2014.12), Rwanda(2017.10, 2018.2)	2015.06 - Present
71	Arabic Service, Radio Mr. Khamis Arkangelo Abbas Lado	WG4 –News Reporting	Kenya (2014.11), Uganda (2017.08), Rwanda(2017.10, 2018.2)	2015.06 - Present
72	Reporter, Radio Mr. Monday James Figa	WG4 –News Reporting	Uganda (2017.08)	2015.06 - Present
73	Producer, TV Mr. Tek Stephen Ogut	WG3 (South Sudan Special Program)	Japan (2015.11), Kenya (2016.8)	2015.6 - 2016 (at Ministry of Foreign Affairs)
74	Producer, English Program, TV Mr. Edir Stephen	WG3 (South Sudan Special Program)	Kenya (2014.02, 11), Japan (2015.11)	2015.6 - Present
75	Producer, English Program, TV Mr. James Waden Jada	WG3 (South Sudan Special Program)	Uganda (2017.8), Rwanda(2017.10, 2018.2)	2015.6 - Present
76	Producer, Arabic Program, TV Mr. Bullen Yona Walla	WG3 (South Sudan Special Program)		2015.6 - Present
77	Producer, English Program, Radio Ms. Asunta Jangara	WG3 (South Sudan Special Program)	Kenya (2014.2), Uganda (2017.8), Rwanda(2017.10, 2018.2)	2015.6 - Present
78	Producer, English Program, Radio Ms. Madera Florence	WG3 (South Sudan Special Program)		2015.6 - 2016
79	Producer, Arabic Program, Radio Mr. Khamis John	WG3 (South Sudan Special Program)	Uganda (2014.9)	2015.6 - Present
80	MD Advisor Mr. Vitale Nemesio Oduho	WG1	Rwanda (2018.2)	2018.2 - Present

4. 活動実績表

ANNEX 4: Summary of Activities Implemented

Plan	Results
OUTPUT 1. The organizational and operational issues to be addressed are clarified to transform SSTVR into a public broadcaster and a resolution policy and organizational vision are formulated in SSTVR.	
1-1: Baseline data are collected and analyzed to grasp the current situation of media and its audience in South Sudan including those of SSTVR.	(1) Baseline survey was conducted with sample size of 762 persons in 3 difference cities (Juba, Malakal and Wau) to collect information of media in South Sudan, opinions of radio and television audience of radio and television including SSTVR. (2013.03.12-2013.06.31) According to the results of the baseline survey conducted in Juba, Malakal and Wau (sample size of 762 persons) in Year 1, radio station run by international organizations and community radio stations such as Radio Miraya and BBC World were popular stations among radio audience. Regarding TV, it was found that only 5% of the households owned a television set and competition among TV stations was less than competition among radio stations due to the small number of TV broadcasters in South Sudan. Many of TV audience watch SSTV (Juba 62.2%, Malakal 91.4%, Wau 41.1%).
1-2: Information on public broadcasting institutions in other countries is provided.	<p>(1) Launching ceremony of the Project was held with participations of approximately 40 persons from MOIB, SSTVR, Liaison office of Government of Japan, JICA Sudan Office, 7 other development partners and NGOs (UNESCO, UNICEF, USAID, etc.) as well as 9 local media houses (Almasier, Juba Post, The Christian Times, The New Nation, BBC Media Action Citizen Newspaper, Foundation UNMISS, Central Equatoria Radio/TV, News Agency of South Sudan). JICA Experts presented about management of NHK as an example of the public broadcasters so as to make discussion about future transformation of SSTVR to the public broadcaster. (2013.04.04)</p> <p>(2) Training for 8 senior managers of SSTVR and MOIB was implemented in Japan. Through their visit in NHK, they have increased their understanding of public broadcasting, the system to realize accurate, neutral, and fair news reporting and equipment maintenance system, development of advanced technology (program production, emergency disaster news, election coverage etc.) in Japan. (2013.04)</p> <p>(3) Training in Kenya was conducted with participations of SSTV senior managers and MOIB senior officials. From the cases of KBC and NHK, they gained their knowledge about multiple themes such as business management and financial sources of public broadcasting corporations. (2014.02)</p> <p>(4) Joint Workshop</p>
1-3: Issues to be	(1) Senior managers of SSTVR and senior officials of MOIB who participated in

<p>addressed are clarified to transform SSTVR into a public broadcaster (including budget management of SSTVR for sustainable management).</p>	<p>the training in Japan analyzed issues of SSTVR towards transforming to the public broadcaster. Based on their analysis, they developed and presented the action plan consisting of schedule and focal person for each task at the end of the training program. (2013.4)</p> <p>(2) “Symposium for Action Plan toward Public Broadcasting” was held with participants of MOIB and SSTVR and officials from other authorities, relevant media institutions and journalists. Participants made discussion of the action plan and informed its contents to stakeholders. (2013.8.26)</p> <p>(3) In Year 2, through the series of training in Uganda and Kenya, senior managers of SSTVR and MOIB officials gain their knowledge and made discussion about election coverage, financial management, human resources system, editorial independence. Participants clarified the issues of SSTVR and discussed about solutions. (2014.06, 2014.9, 2014.11)</p>
<p>1-4: Strategies for SSTVR to become a trusted public broadcaster, including financial strategy and human resource planning, are planned.</p>	<p>(1) During the training in Kenya in Year 1, SSTVR senior managers and MOIB senior officials made discussion groups on broadcasting management, financial management, human resources management and development, and programme contents. Each group formulated strategies concerning transformation of SSTVR to the public broadcaster. As the outcome, “Resolution Policy for Issues Related to the Conversion into Public Broadcaster, 1st Draft.2014.03” was developed. (2014.02)</p>
<p>1-5: A short-term road map for SSTVR to become a public broadcaster is formulated through discussion with Board of Directors once they are nominated.</p>	<p>(1) At the 4th JCC meeting, JCC members agreed on converting the strategy paper created in Activity 1-4 to the “Short-term road map towards Public Service Broadcasting” (2014.09)</p> <p>(2) It is planned to finalize the “Short-term road map towards public service broadcasting” documents within Year 3.</p> <p>(3) In Year 3, the finalization of the short-term road map for SSTVR was conducted. After the enforcement of the Broadcasting Corporation Law in September 2014, candidates of the Board of Directors of SSBC were nominated in 2015 and members were officially nominated on 5 February 2016. The short-term road map was approved as project outcome at the JCC in March 2016.</p> <p>(4) In Year 4, JICA Experts explained about the short-term roadmap to Board of Directors of SSBC. Board of Directors approved the short-term roadmap and agreed to work on organizational development accordingly along with the Project (2016.6).</p>
<p>1-6: A middle/long-term road map for SSTVR to</p>	<p>(1) In response to the circumstance that the Broadcasting Corporation Act was signed into law by the President in September 2014, SSTVR started the</p>

<p>become a trusted public broadcaster is formulated based on the Broadcasting Corporation Act.</p>	<p>preparation for the “Middle and Long-term road map towards entrusted Public Service Broadcasting” along with the short-term road map. Aiming to develop SSTVR to a broadcaster trusted by the viewers, the road map will provide an action plan for the period of five to ten years after its transformation into the public broadcaster, which consists of expansion of coverage, financial plan for sound management, as well as actualization of fair, impartial and high quality broadcasting.</p> <p>(2) In Year 3, SSTVR has been preparing to formulate details of the middle and long term road map by holding seminar and in-taking opinions of stakeholders (public broadcasting experts, international organizations, and local organizations for journalists.)</p> <p>(3) In Year 3, WG1 continued discussion on “The middle/long-term road map for SSBC to become a trusted public broadcaster.”</p> <p>(4) In Year 4 (June 2016), C/P in charge of developing the middle/long-term road map was assigned. JICA Experts provided guidance for the framework and contents and advice for the C/P about the draft prepared by the C/P.</p> <p>(5) In Year 5, draft was developed during the workshop to formulate a middle/long-term road map held in Kigali through discussion with participations of SSBC board as well as management and staff. (2018.2)</p> <p>(6) The middle/long-term road map was approved by SSBC. (2018.6)</p>
<p>1-7: Seminar on “A middle/long-term road map for SSTVR to become a trusted public broadcaster” are conducted</p>	<p>(1) Seminar on “A middle/long-term road map for SSTVR to become a trusted public broadcaster” were conducted first in Kampala, Uganda (2017.7) and second in Kigali, Rwanda. (2018.2) SSBC Management team and Board Members finalized the “Middle/Long term Roadmap for South Sudan Broadcasting Corporation”, which was lately approved at SSBC in June 2018.</p>
<p>1-8: The End-line survey is conducted to grasp the current situation of media and its audience in South Sudan including those of SSTVR.</p>	<p>(1) The End-line survey was conducted in September 2018 which found generally positive improvement on SSBC in both radio and TV aspect, although the vulnerability of broadcasting infrastructure appeared to hinder the progress.</p>
<p>OUTPUT 2. The capacity of SSTVR staff in charge of operating and maintaining broadcasting equipment is enhanced.</p>	
<p>2-1: Issues related to operation and</p>	<p>(1) Upon agreement at the 1st JCC in Year 1, WG2 was established and started their activities for enhancement of operation, maintenance and management of</p>

<p>maintenance of broadcasting equipment are analyzed, and proposal of human resource and budget concerning engineering and operation is submitted to the manager.</p>	<p>broadcasting equipment. (2013.3)</p> <p>(2) Identified issues and results of analysis were compiled to the “Report on the analysis of the issues relating to the maintenance and management of equipment (April 2013)”. Identified issues are as follows: a) Low reliability due to the lack of the reserve system, b) Poor power supply system, c) Lack of maintenance budget, d) Limited work space, e) Problems of VTR tapes, f) Problems of nonlinear editing (NLE) devices, g) Need for equipment training, h) Actual example of operational management, i) Equipment maintenance/management group. (2013.4)</p> <p>(3) “Equipment Inventory List” was made based on the situation survey on equipment in SSTVR.</p> <p>(4) In Year 3, four study groups (1. New TV studio and HS LAN system, 2. New Radio Studio, 3. VTR maintenance, 4. Radio transmitter) were established to conduct analysis of existing broadcasting equipment and finalize procurement lists for each. (2015.06)</p> <p>(5) It is planned to start procurement process for TV studio and HS LAN system, new radio studio in September 2015, and for VTR network in November 2015.</p>
<p>2-2: OJT related to operation and maintenance of broadcasting equipment is conducted to the staffs of SSTVR who are in charge of equipment.</p>	<p>(1) In Year 1, based on the issued identified in Activity 2-1, OJT was conducted by the JICA Expert on equipment management targeting engineers and operation staff as below.</p> <p>a) WG2 meetings: WG2 met 18 times and worked on the following topics (generator, formulation of sub-group to discuss power source, procedure to make work-shift, setting up a new storage for cameras, making the urgent purchase list, procedure for disposal of equipment, development of video and audio system maps, discussion of organizational structure for engineering section.) (2013.9-10)</p> <p>b) Basic training for all staff in operation and maintenance: [Training topics] Introduction to TV System, Lighting Technology, Audio Technology, Video Shooting-1, Video Shooting-2, 50kW MW Transmitter [Participants] 101 participants in total (2013.03-04)</p> <p>c) Morning meeting and OJT by the JICA Expert (Monday – Friday) Morning meetings were held daily to review their work conducted on the previous day. The JICA Expert conducted OJT by selecting the topic based on the review. (2013.09-10)</p> <p>d) Technical training for the selected staff [Training topics] 1. Camera, 2. VTR, 3. Mid-wave radio, 4. Audio mixer, 5.</p>

	<p>Video switcher. Referring the makers' manuals, participants developed operation manuals for the equipment used in SSTVR</p> <p>e) Training in Kenya (5 days, 4 participants) (2014.02.24-02.28)</p> <p>(2) In Year 2, technical training for maintenance and operation for equipment was held in Kenya and Uganda. (2014.06, 2014.08, 2014.11) Advanced technical training for broadcasting equipment was held in Dubai (2015.02). Training participants created the list of equipment in use and organized the equipment manuals in the specific place in SSTVR so that every staff can access to these manuals. Within the engineering department, employees on duty started to write daily broadcasting report and submit it to the director.</p> <p>(3) In Year 3, technical staff members of SSTVR have been gaining basic knowledge through morning meetings and study group activities with technical advice by the JICA Expert.</p> <p>(4) In Year 4, technical staff members of SSBC have been gaining basic knowledge through morning meetings, OJT trainings, TV studio-related training, and Transmission engineer trainings from the JICA Expert.</p> <p>(5) In Year 5, technical staff members of SSBC have received third-country trainings in Kampala (2017.8), Dubai, UAE (2017.11) and Kigali, Rwanda (2018.2) by the JICA Expert.</p>
<p>2-3: A manual on operation and maintenance of broadcasting equipment is developed based on the contents of OJT.</p>	<p>(1) By Year 3, 6 manuals were developed by Working Group 2 members with technical guidance by JICA Experts. WG2 made several operation manuals for equipment used in SSTVR based on makers' manuals in Year 1. During the third country trainings during Year 2, participants gained their technical knowledge and skills and developed operation manuals accordingly.</p> <p><Maintenance manuals></p> <p>1. Rules on Maintenance of Broadcasting Equipment in SSTVR (RME), Ver.7. (2015.02):</p> <p>Based on the first draft prepared by JICA Expert in April 2013, WG2 has worked on upgrading it with more effective contents in Year 2.</p> <p><Operation manuals></p> <p>1. Rules on Operation of Broadcasting Equipment in SSTVR (ROE), Ver. 7. (2015.02)</p> <p>2. Operation Manual for SSR Gumbo Station, Ver. 2 (Feb.2015)</p> <p>3. Operation Manual for ENG Camera, Ver. 3 (Feb.2015)</p> <p>4. Operation Manual for Audio Mixer Ver. 2 (Feb.2015)</p> <p>5. Operation Manual for VTR Ver. 2 (Feb.2015)</p>

	(2) WG2 has been working on revising and upgrading manuals to make them more effective and practical manuals through utilizing them in operation.
2-4: The roles of the staff in charge of SSTVR engineering & operation are reviewed.	(1) In Year 3, WG2 worked on clarifying the current situation of staff in operation and maintenance. (2) Based on transformation of the SSTVR to SSBC, engineering division discussed its plan of human resources allocations. Regarding personnel allocation, the Project provided guidance and instruction with coordination with Output 1.
OUTPUT 3. The capacity of SSTVR staff in charge of programme production is enhanced.	
3-1: Issues relating to programme production are analyzed, and proposal of human resource and budget concerning programme production is submitted to the management.	(1) In Year 1, following issues of program production in SSTVR were identified by JICA Experts through consultation with program production staff. (2013.01) a) Lack of equipment (insufficient cameras, editing devices, script preparation system, vehicles for location shooting etc.) b) Insufficient training for human resources development resulted in lack of proper preparation and utilization of program structure, news rundowns. c) No proper budget allocation for program production resulted in limitation in program proposal such as with local coverage, renew studio sets, attractive program titles etc. d) Lack of necessary moral standards in the workplace (2) Through a series of project cycle management workshop, program production staff members identified issues faced in SSTVR as follows: a) lack of facility and equipment, b) insufficient technical skills, c) lack of systematic coordination, d) lack of compliance, e) lack of system to assess the programs produced. Participants also conducted objective analysis on how to improve the program production framework. (2013.05, 2013.11)
3-2: Basic seminars as well as OJT related to programme production are conducted to the staff of SSTVR who are in charge of programme production.	(1) In Year 1, based on issues identified in Activity 3-1, four different series of training sessions were conducted. For 96 days in total, program production staff in SSTVR received OJT by JICA Experts in the following four different topics: a) Basics of program production, b) News program production, c) Analysis issues relating to program production, d) Development of the program production guideline. (2) During the workshop for planning and designing the program proposal, participants dealt with important themes that would serve public interests of South Sudan. (3) As a results of the OJT, new formats for program proposal and program structure were adopted to the Program production department. (4) In the 4 th session conducted in Kenya, 4 participants from the program

	<p>production conducted location shooting and produced 2 reporting programs which went on the air through SSTV. (2014.02)</p> <p>(5) In Year 2, during the training in the third countries, participants from the program production department and news department worked together on studio production, and location shooting. Through OJT, they applied meetings with the production side and the technical side as routine as well as activating communication on sites.</p> <p>During Year 2, due to constraints not being able to conduct OJT in Juba by JICA Experts, the planned activity to set up a dedicated team for carrying out the proposed program was not implemented. In response, training participants from different units (e.g. producers, video editors, camerapersons, and presenters) worked together as if form a dedicated unit and practiced the team-based program production method. (2014.06 in Kenya, 2014.09 in Uganda, 2014.11 & 12 in Kenya)</p> <p>(6) Through the training in Japan for the purpose of developing video journalists, participants gained knowledge and skills about production process for interview programs. (2014.07)</p> <p>(7) In Year 3, in order to organize program production framework, a new Working Group was established. WG has been reviewing the current work flow from the program proposal, proposal meeting and competition, reporting by the team specialized for the program so as to systematize the entire work flow for quality programs.</p>
<p>3-3: Programme Guidelines are developed based on the contents of OJT.</p>	<p>(1) In Year 1, WG3 members exchanged their opinions about issues on program production at the workshop conducted by JICA Experts. WG3 confirmed necessity of creating and applying the program production guidelines. (2013.5)</p> <p>(2) WG3 members developed the draft program production guidelines with technical advice by JICA Experts. (2013.11)</p> <p>(3) During the training in Kenya, the participants worked on revising the guidelines to reflect consideration on ethnic harmony and co-existence and peace-building. As the outcome, “Programme Guidelines for SSTV/R Broadcasts (Drafted February 24, 2014)” was developed.</p> <p>(4) During Year 2, components included in the guideline have been practiced by the participants of the training in the third countries and Japan through OJT.</p> <p>(5) In Year 3, the “Programme Guidelines” was finalized and to be approved after the 7th JCC.</p> <p>(6) In Year 5, during TOT in Uganda, reading and discussion sessions were held to</p>

	increase participants' understanding of the Program Guidelines.
3-4: The staff of SSTVR who are in charge of programme production are taught on how to make programmes to raise awareness about social issues and introduce necessary information for living.	<p>(1) Program production staff gained basic knowledge about awareness raising and worked on analyzing social and development issues in South Sudan. They designed the awareness raising programs to address identified issues such as transportation safety, maternal health, election coverage, English education for children, promotion of school enrollment, agricultural extension, and waste management. (2013.11)</p> <p>(2) In Year 2, through training in Kenya and Uganda, participants from the program production department gained their knowledge and skills about process of each stage of work flow including program proposal, program structure designing, location shooting and direction methods. TV and radio programs produced during this training were broadcasted in South Sudan as listed in Activity 3-5. Especially through the studio-based program, the participants were able to practice multiple-camera techniques and video inserting technique.</p> <p>(3) In Year 3, the dedicated team was established to work on special program projects for promotion of agriculture and sports for peace building (consisting of 13 TV staff, 6 Radio staff).</p> <p>(4) The dedicated team was planned to produce various kinds of programs and scheduled to broadcast them from time to time, however, the site of training was changed from South Sudan to the third countries due to the change of the domestic security situations in South Sudan.</p>
3-5: Programmes to raise awareness about social issues and introduce necessary information for living are produced by the staff of SSTVR who are in charge of programme production. (Formulation of the dedicated production team).	<p>(1) Through the training in the third countries and Japan in Year 2, participants developed program proposals. (2014.06 in Kenya, 2014.07 in Tokyo, 2014.09 in Kampala, 2014.11 & 12 in Nairobi). During each training, participants produced programs practicing a series of production process from program proposals, designing structure of the program, location shooting and directing the program.</p> <p>(2) For the purpose of raising awareness of public about social issues, training participants produced selected various themes. SSTVR broadcasted all the programs as follows.</p> <p>a) TV documentary on 'Rice production in Kenya'</p> <p>b) Studio-based TV & Radio program interviewing South Sudanese business person in Japan,</p> <p>c) TV and Radio book reading program for children</p> <p>d) TV and Radio program featuring the performance group aiming for ethnic harmony</p> <p>e) Studio-based TV program featuring the Olympic medalist and marathon</p>

	<p>training for children in the slum area in Nairobi.</p> <p>(3) In Year 3, EXPRESS team joined in the WG3 was formulated and produced various programs focusing on educational, women and local economy issues,</p> <p>(4) In Year 4, programs for children were developed and produced. It was a new type at SSBC, in which children were involved as performers.</p>
3-6: Training of trainers on programme production are conducted.	(1) In Year 5, TOT members produced programs on the theme of their own country while dealing with themes that were beneficial for South Sudanese viewers and that will be hints for future life/peace building in the third countries. (Kampala, Uganda. 2017.8, Kigali, Rwanda. 2017.10, 2018.2)
OUTPUT 4. The awareness towards professionalism (accurate and fair news) is raised among SSTVR staff in charge of news reporting.	
4-1: The current situation and issues related to news reporting are analyzed, and proposal of human resource and budget concerning news reporting is submitted to the management.	<p>(1) Through the trainings in Year 1, issues related to news reporting were identified and analyzed as follows:</p> <p>a) Excessive dependence on the information from the Government and the ruling party</p> <p>b) Absence of editorial independence</p> <p>c) Lack of voluntary reporting as a result of depending on the government to provide the information as well as video materials.</p> <p>d) Weakness of the system for news coverage and program production</p> <p>e) Low work motivation and journalist ethics</p> <p>(2) In Year 3, SSTV started regular meetings such as editorial meeting and proposal meeting with technical guidance by JICA Experts.</p>
4-2: OJT related to news reporting is conducted to the staff of SSTVR who are in charge of news reporting.	<p>(1) In Year 1, based on identified issues through Activity 4-1, training courses on news reporting were conducted by JICA Experts as follows.</p> <p>a) Lectures for raising awareness toward formulation into public broadcaster <Theme> “Roles and responsibilities of public broadcasting”, “Importance of social news”, “News judgement and way to decide a news order”, and “Journalism Ethics”. <Participants> For the 1st course consisting of 12 lectures: 168 participants (37 attended all themes) (2013.08.12-08.20), For the supplemental lectures consisting of 6 lectures: 73 participants (2013.11.05-11.07)</p> <p>b) OJT on news reporting OJT was conducted by JICA Experts for the English news program staff with participation of 5 to 10 persons per day for 3 days. Trained staff increased their awareness on the importance of punctuality of on-air time to gain trust by the audience. (2013.08.21-08.23, 2013.11.01)</p>

	<p>(2) In Year 2, SSTVR staff who are in charge of news reporting gained their knowledge and skills about a series of tasks to produce news events. (Please refer to Activity 4-5)</p> <p>(3) In Year 3, organizational chart for news and news hour chart were developed. (2015.09)</p> <p>(4) Prior to the outbreak of conflict in July 2016, the experts promoted full-scale TOT activities of reporters, camerapersons and editors in Year 4.</p>
<p>4-3: A Code of Ethics for news reporters is developed based on the contents of OJT.</p>	<p>(1) In Year 1, WG 4 for television and radio news had several meetings to discuss about a code of ethics which did not exist in SSTVR before. Everyone agreed to revise about expression of the “independence of news reporting” at the time of transformation into public broadcasting in the future. (2013.08, 2013.11)</p> <p>(2) “Final Draft - South Sudan Television & Radio (SSTVR) Journalists Code of Ethics” was developed and submitted to the SSTVR management. This version of code of ethics includes stipulations in line with the condition of the country such as not to foster a tribal conflict and to give consideration for the vulnerable groups of people in society. (2013.11)</p> <p>(3) In Year 5, utilization of the “SSBC Reporters and Broadcasters Handbook” was promoted for TOT participants for the purpose of realizing the principles of “A Code of Ethics” at the reporting sites. (2017.8, 2017.10, 2018.2)</p>
<p>4-4: The staffs of SSTVR in charge of news reporting are taught on how to conduct independent reporting.</p>	<p>(1) In Year 1, training program was conducted in Kenya for 5 days with participations of SSTVR staff who are in charge of news reporting. Through lectures and practical training, they gained technical knowledge and skills of various themes as follows (Journalism ethics and standards, writing and editing manuscript, basics of news program, crisis coverage – measures for safety and confrontation easing, shooting on location, disaster coverage).</p> <p>(2) In Year 2, through the third country trainings, participants gained practical knowledge and skills for public broadcasting, news research & investigation, script production methods, interview & reporting methods, disaster reporting, preparation for research & investigation for special news report, location shooting, basics of editing, code of ethics, safety in research & investigation of crisis as well as news reporting for conflict mitigation. Training participants in Kampala and Tokyo are also gained knowledge about election coverage through the cases of NHK.</p>
<p>4-5: The staff of SSTVR in charge of news reporting conduct</p>	<p>(1) During the training in the third countries and Japan conducted in Year 2, news reporting staff made proposal and produced news programs as follows. SSTVR broadcasted all of the above programs.</p>

independent reporting.	<p>a) TV news reports in Nairobi featuring activities of Pan-African University students from Cameroon and Zimbabwe (2014.06)</p> <p>b) TV news report about “Protection and application of wild life” in Kampala (2014.09)</p> <p>c) TV and Radio news programs in Tokyo featuring Japan Prize, a competition of educational programs and interviews with a prize winner from Namibia (2014.10)</p> <p>d) TV and Radio news reports in Nairobi about the “Strawberry farmers’ group engaged in the One Village, One Product campaign. (2014.11)</p> <p>e) TV and Radio news report in Nairobi featuring production of bull craftwork” as a part of the OVOP campaign (2014.12)</p> <p>(2) In Year 3, Working Group will be newly formed to develop the organizational system for the entire work flow from the news gathering and researching to the news program proposal making and approval.</p> <p>(3) In Year 4, the experts provided guidance on the news coverage of international conference through OJT at TICAD VI news coverage.</p> <p>(4) In Year 5, the TOT members reported about the current situation of South Sudanese refugee camps in Uganda, and national reconciliation process in Rwanda through English/Arabic news and documentary programmes during the third country training (Uganda, 2017.8, Rwanda, 2017.10).</p>
4-6: A Reporters' Handbook is developed based on the contents of OJT.	<p>(1) In Year 2, during the training programs, participants learned about issues to be incorporated to the reporters’ handbook such as journalistic ethics, neutrality impartiality independence, and news coverage of amid disaster. Since the participants of the training differed from one program to the other program, development of a Reporters’ Handbook has not been conducted as of Year 2. It is planned that SSTVR will develop and finalize the handbook in Year 4 after completion of the “Journalists’ Code of Ethics”.</p> <p>(2) In Year 3, WG4 continued drafting of Reporters’ Handbook (Draft English version).</p> <p>(3) In Year 4, the 8th JCC agreed to name “SSBC Reporters and Broadcasters Handbook 2016” (2016.07.06). At the same time, Draft English version was approved and finalized at the 8th JCC. In addition, JCC members agreed to submit it to Board of Directors of SSBC and translate it to Arabic. Arabic version was also developed.</p> <p>(4) In Year 5, TOT participants for news reporting developed a plan for distribution and dissemination of the handbook in SSBC.</p>

<p>4-7: Training of trainers on news reporting are conducted.</p>	<p>(1) In Year 5, the experts provided TOT training in the third countries (Kampala, Uganda. 2017.8, Kigali, Rwanda. 2017.10, 2018.2) and developed action plan for staff training at SSBC, which was submitted to SSBC management, and waiting for the handbook distribution to implement the action plan.</p>
---	---

5. 成果品一覧

ANNEX 5: List of materials developed by the Project

【Strategy/Plan】

- Resolution Policy for Issues Related to the Conversion into Public Broadcaster. 1st Draft (2014.03)
- Draft Short-term Road Map towards Public Service Broadcasting - Updated after the meeting in Juba 23-27 February 2015. (2015), approved by the Board of Directors in June 2016
- Draft Middle-Long term Road Map for SSBC to become a Public Broadcaster – finalized in Kigali workshop in February 2018, approved by the Board of Directors in June 2018.

【Guidelines, Manuals, Formats】

Equipment Management

- Rules on Operation of Broadcasting Equipment in SSTVR (ROE) (Ver.8) (2017.08)
- Rules on Maintenance of Broadcasting Equipment in SSTVR (RME) (Ver.6) (2015.02)
- Operation Manual for SSR Gumbo Station Ver. 2 (2015.02)
- Operation Manual for ENG Camera Ver. 3 (2015.02)
- Operation Manual for Audio Mixer Ver. 2 (2015.02)
- Operation Manual for VTR Ver. 2 (2015.02)
- Operation Manual for Omnia ONE Stereo Audio Processor Ver.1 (2016.01)
- Technical Information Database (Excel) (2017.08)
- Skill sheet of SSBC Engineering staff (2018.02)

- SSR Daily Broadcasting Report
- SSR (GUMBO) Daily Broadcasting Report
- SSTV Daily Broadcasting Report
- Check List for Technical Morning Meeting
- Record of the Material Tape
- Irregularities Report
- Equipment Trouble Record Sheet
- Report on Scrap Equipment

Programme Production

- Programme Guidelines for SSTV/R Broadcasts – Drafted February 24, 2014 approved at the 7th JCC
- Combined with Reporters' Handbook and named as SSBC Reporters' and Broadcasters' Handbook 2016

News Reporting

- Final Draft - South Sudan Television & Radio (SSTVR) Journalists Code of Ethics (2013.11)

- Guidelines for the South Sudan Broadcasting Corporation for Election Coverage (Draft) (2015.2)
- Combined with Programme Guideline and named as SSBC Reporters and Broadcasters Handbook 2016

【Reports】

- JICA and NHK International, Inc.. 2014. Republic of South Sudan - Project for Institutional Capacity Development of South Sudan TV and Radio (1st Year) Project Completion Report (March 2014)
- JICA and NHK International, Inc.. 2015. Republic of South Sudan - Project for Institutional Capacity Development of South Sudan TV and Radio (2nd Year) Project Completion Report (March 2015)
- Report on the analysis of the issues relating to the maintenance and management of equipment (April 2013)
- JICA and NHK International inc. 2016 Republic of South Sudan - Project for Institutional Capacity Development of South Sudan TV and Radio (3rd year) Project Completion Report (March 2016)
- JICA and NHK International inc, 2017 Republic of South Sudan -Project for Institutional Capacity Development of South Sudan TV and Radio (4th year) Project Completion report (April 2017)

ANNEX 6: List of programs and news reports

【TV and Radio Programmes produced during the training in Japan and third countries】

- TV documentary on ‘Rice production in Kenya’ (2014.06 in Kenya)
- Studio-based TV & Radio programmes interviewing South Sudanese business person in Japan (2014.07 in Tokyo)
- TV and Radio book reading programmes for children (2014.09 in Kampala)
- TV and Radio programmes featuring the performance group aiming for ethnic harmony (2014.11 in Nairobi)
- Studio-based TV programme featuring the Olympic medalist and marathon training for children in the slum area in Kenya (2014.12 in Nairobi)
- TV news reports in Nairobi featuring activities of Pan-African University students from Cameroon and Zimbabwe (2014.06 in Nairobi)
- TV news report about “Protection and application of wild life” (2014.09 in Kampala)+
- TV and Radio news programs in Tokyo featuring Japan Prize, a competition of educational programs and interviews with a prize winner from Namibia (2014.10 in Tokyo)
- TV and Radio news reports in Nairobi about the “Strawberry farmers’ group engaged in the One Village, One Product campaign. (2014.11 in Nairobi)
- TV and Radio news report in Nairobi featuring production of bull craftwork” as a part of the OVOP campaign (2014.12 in Nairobi)
- Studio-based TV programme featuring the South Sudan Sports Mission in Japan (2015.11)
- TV and Radio news report in TICADVI held in Nairobi (2016. 08)
- TV and Radio news programme featuring the Home Site Faming in Kampala (2017. 08)
- TV and Radio news report featuring the refugee camp in Bidibidi (2017.08)

